

KL9108/KL9116

日本語版ユーザーマニュアル



本ドキュメントについて

本書はATENジャパン株式会社において、KL9108/KL9116 取り扱いの便宜を図るため、製品同梱 英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く改変されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、製品同梱の英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術サポート部

TEL :03-5323-7178

MAIL :support@atenjapan.jp

2008年9月19日

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く変更されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピュータのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではございません。

キーボード、マウス、モニタ、コンピュータ等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

ATEN ジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応となりますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 納品日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障または破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

【製品保証のお申し込み手順】

弊社の製品保証規定に従い保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

- (1) **不具合の確認**……製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口へ連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。
- (2) **本規定に基づく製品保証のご依頼**……(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『製品納品日が証明できる書類』を用意して、製品を購入された販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。
- (3) **製品の発送**……不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品／液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～1 ヶ月	初期不良、新品交換※1
	～3 年	無償修理
	3 年以上	有償修理※2
②液晶ディスプレイ搭載製品	製品納品日～1 ヶ月	初期不良、新品交換※1
	～2 年	無償修理
	2 年以上	有償修理※2

※1…製品納品日から30 日以内に弊社または販売店に申告を頂いた不具合を初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途お問い合わせください。

※ケーブル類、電源アダプタ、その他レールキット等のアクセサリ類はDOA・初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL(生産終了)が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。

※本保証期間は2007年9月1日以降にご購入された場合に適用されます。それ以前に購入された製品については、1年間の保証となります。

【補足】

- ・ 本規定はATEN/ALTUSEN ブランド製品に限り適用します。
- ・ ケーブル類・電源アダプタは初期不良対応に準じます。
- ・ 初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。
- ・ 製品保証を受けるにあたり、製品の納品日が証明できない場合は製品のシリアルナンバーから判別した製造日を起算日とします。ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、全て有償修理とさせていただきます。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業推進部 TEL:03-5323-7170 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術サポート部 TEL :03-5323-7178 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

FCC	12
RoHS	12
SJ/T 11364-2006	12
安全にお使い頂くために	13
一般的な注意	13
ラックへのマウント	15
同梱品	16
本マニュアルについて	17
第1章 はじめに	19
製品概要	19
特長	21
必要システム構成	22
セカンドコンソール	22
サーバ	22
リモートコンピュータ	22
ケーブル	23
コンバータ	23
対応オペレーティングシステム	24
製品各部名称	25
フロントビュー	25
キーボードパネル	26
LCD パネル	27
リアビュー	28
第2章 ハードウェアセットアップ	29
セットアップの前に	29
標準ラックマウントキット	30
イージーセットアップラックマウントキット	32
KL9108/KL9116 単体接続	36
KL9108/KL9116 カスケード接続	37
第3章 基本操作	38
コンソールを開く	38
LCD パネルとキーボード/タッチパッドパネルを個別に開く場合	38
LCD パネルとキーボード/タッチパッドパネルを同時に開く場合	40

操作上の注意事項.....	41
コンソールを閉じる.....	42
LCD の OSD 設定	44
LCD ボタン	44
LCD 調整の設定	45
ポート選択.....	46
プッシュボタンによる手動切り替え	46
ホットプラグ	46
電源オフおよび再起動.....	46
ポート ID の割り当て	47
第 4 章 管理者向け操作	48
概要.....	48
ローカルコンソール	48
Main タブ	51
クイックビューポート	51
リスト機能.....	52
ポートネーム.....	54
ポート操作.....	56
Configuration タブ	57
Administration タブ	60
General メニュー.....	61
User Management メニュー.....	62
Service Configuration メニュー	66
Access Port	66
Log Server	67
Network メニュー	68
Network Transfer Rate	68
IP Address	68
DNS Server	68
ANMS	69
RADIUS パラメーター一覧表	70
RADIUS パラメータ設定例	73
CC Management Settings	73
Security メニュー	74
IP Filter と Mac Filter.....	74
Default Webpage Name	76

Customization メニュー	77
Login Failures	77
Working Mode	77
Attributes	78
Timeout	79
その他の機能	80
Date/Time メニュー	81
Log タブ	82
ファームウェアアップグレード	83
第 5 章 ブラウザ操作	84
概要	84
ログイン	84
Web メニューのレイアウト	86
Web メニューのアイコン	86
General メニュー	87
Web ページのボタン	88
第 6 章 Windows クライアント	90
ブラウザ OSD の起動	90
操作をはじめる前に	92
Graphic Configuration ダイアログボックス	93
Screen Option	93
Snapshot	94
設定の保存	94
Windows クライアント OSD	95
Windows クライアントコントロールパネル	96
ホットキー	97
ビデオアジャスト	99
ガンマ値の調節	101
メッセージボード	102
ボタンバー	103
メッセージ表示パネル	103
メッセージ入力パネル	104
ユーザーリストパネル	104
Main タブ	105
ポート操作	106
OSD ツールバー	106

OSD 画面の再呼び出し	106
OSD ホットキー一覧	107
ツールバーアイコン	107
パネルアレイモード	109
パネルアレイツールバー	110
マルチユーザーによる操作	111
ホットキー操作	112
オートスキャン	112
スキャンインターバルの設定	112
オートスキャンの呼び出し	112
オートスキャンの一時停止	113
オートスキャンの終了	113
スキップモード	113
キーボード・マウス操作に関する注意事項	114
キーボード操作に関する注意事項	114
マウス同期に関する注意事項	115
Configuration タブ	119
第 7 章 Java クライアント	120
OSD の起動	120
OSD の起動	121
Java クライアントコントロールパネル	121
ビデオアジャスト	122
ソフトウェアキーパッド	123
マウスポインタの同期	123
メッセージボード	124
メッセージボードボタンバー	125
Lock LED	127
リモート操作画面 表示モードの変更	127
Java クライアントについて	127
Ctrl+Alt+Del	127
ヘルプ	128
終了	128
ポート操作	129
パネルアレイモード	129
キーボードによるホットキー操作	130
第 8 章 ログファイル	131

メイン画面	131
第9章 ログサーバ	132
セットアップ	132
ログサーバの操作方法	134
メニューバー	135
Configure	136
Events	137
Search	137
Maintenance	139
Options	140
Help	140
ログサーバ メイン画面	141
概要	141
リストパネル	142
イベントパネル	142
第10章 ユーティリティソフトウェア	143
はじめに	143
Windows クライアント	143
セットアップ	143
起動方法	144
File メニュー	146
Tools メニュー	146
接続方法	148
操作方法	149
Java クライアント	149
セットアップ	149
起動方法	150
操作方法	151
付録	152
製品仕様	152
OSD 工場出荷時設定	155
信頼された証明書	155
概要	155
証明書のインストール	156
証明書のインストール完了	157
トラブルシューティング	159

管理操作.....	159
一般的な操作.....	159
Java クライアント.....	160
ログサーバ.....	161
パネルアレイモード.....	161
Windows クライアント.....	162
Sun システム.....	163
その他のマウス同期方法.....	164
アドミニストレーターでログインできない場合.....	164
ホットキーモード・OSD 専用起動キー.....	166
SPHD コネクタについて.....	166

FCC

本製品は FCC Class A 装置です。一般家庭でご使用になると、電波干渉を起こすことがあります。その際には、ユーザーご自身で適切な処置を行ってください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。

この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。

また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。

SJ/T 11364-2006

The following contains information that relates to China.

部件名称	有毒有害物質或元素					
	鉛	汞	鎘	六价鉻	多溴联苯	多溴二苯醚
电器部件	●	○	○	○	○	○
机构部件	○	○	○	○	○	○

○: 表示该有毒有害物質在该部件所有均质材料中的含量均在 SJ/T 11363-2006 规定的限量要求之下。

●: 表示符合欧盟的豁免条款，但该有毒有害物質至少在该部件的某一均质材料中的含量超出 SJ/T 11363-2006 的限量要求。

×: 表示该有毒有害物質至少在该部件的某一均质材料中的含量超出 SJ/T 11363-2006 的限量要求。



安全にお使い頂くために

一般的な注意

- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱する恐れがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ 製品は相間電圧 230V の配電装置向けに設計されています。
- ◆ 製品付属の電源ケーブルは安全のために 3 ピンタイプのプラグを使用しています。電源コンセントの形状が異なりプラグを接続できない場合には電気事業者に問い合わせで適切に処置してください。アース極を無理に使用できない状態にしないでください。使用される国/地域の電源形状に従ってください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所避けて電源コードを設置してください。
- ◆ 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適合していることを確認してください。
- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置(UPS)をご使用ください。
- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱いってください。これらのケーブル類の上には何も置かないようにしてください。

- ◆ 危険な電圧ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットのスロットには何も挿入しないでください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、何かありましたら技術サポートまでご相談ください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントをはずして技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源コードが破損した。
 - 装置の上に液体をこぼした。
 - 装置が雨や水にぬれた。
 - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 技術サポートの修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。
- ◆ 「UPGRADE」と記載されている RJ-11 ケーブルを電話回線用モジュージャックに接続しないでください。

ラックへのマウント

- ◆ ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業前にフロントとサイドのスタビライザーをシングルラックに取り付けるか、多機能ラックをフロントスタビライザーに取り付けてください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ デバイスレールのリリース用ラッチを押してラックからデバイスの出し入れをする際にはスライドレールに指を挟まないようご注意ください。
- ◆ デバイスがラックに挿入されたら、注意してレールをロックする位置までスライドしてください。
- ◆ ラックに供給する AC 電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の 80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。

同梱品

KL9108/KL9116 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

- ◆ KL9108/KL9116 デュアルスライド
KVM Over the Net™ KVM 一体型 LCD ドロワー ×1
- ◆ PS/2 KVM ケーブル ×2
- ◆ 電源ケーブル ×1
- ◆ イージーセットアップラックマウントキット ×1
- ◆ 英語版ユーザーマニュアル ×1
- ◆ 多言語版クイックスタートガイド ×1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用方法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、KL9108/KL9116 に関する情報や使用法について説明しており、取り付け・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。

マニュアル構成は下記のようになっています。

- 第1章** はじめに:KL9108/KL9116 を紹介します。特長および機能の概要および製品各部名称について説明しています。
- 第2章** ハードウェアセットアップ:KL9108/KL9116 ハードウェアセットアップについて説明しています。
- 第3章** 基本操作:KL9108/KL9116 の基本的な操作について説明しています。
- 第4章** 管理者向け操作:KL9108/KL9116 の動作/操作環境に関する管理者向けの内容、およびローカルコンソールでの操作を説明しています。
- 第5章** ブラウザ操作:web ブラウザを使用した KL9108/KL9116 へのログインおよびweb ブラウザインターフェースを説明しています。
- 第6章** Windows クライアントによる操作:Windows クライアントを使用したネットワーク経由での操作について説明しています。
- 第7章** Java クライアントによる操作:Java クライアントを使用したネットワーク経由での操作について説明しています。
- 第8章** ログファイル:KL9108/KL9116 のオペレーションログを管理するログファイルユーティリティについて説明しています。
- 第9章** ログサーバ:ログサーバアプリケーションのインストール方法および操作方法について説明しています。
- 第10章** クライアントソフトウェア:ワнтаイムセッションではない、保存用の Windows/Java クライアントソフトウェアを使用した操作方法を説明しています。
- 付録** 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明しています。

マニュアル表記について

[]

入力するキーを示します。例えば[Enter]はエンターキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のように表記してあります。またホットキー操作のようにキーを連続して押す場合は、[Ctrl] , [Alt] , [Shift]のようにコンマ(,)を挟んで表記してあります。

1.

番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。

◆

◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。

→

矢印は操作の手順を示します。例えば Start → Run はスタートメニューを開き、Run を選択することを意味します。

▲

重要な情報を示しています。

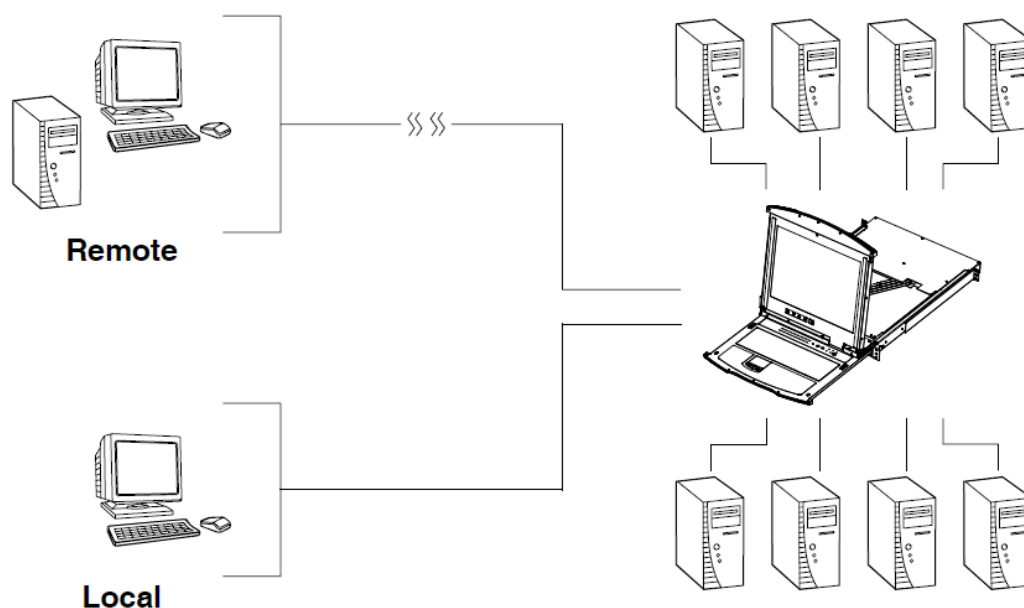
第1章 はじめに

製品概要

KL9108/KL9116 デュアルスライド LCD 一体型 KVM スイッチは、複数のサーバを接続して、それらを 1 組の KVM(キーボード/モニタ/マウス)で切り替えて操作可能にする製品です。KL9108は8台、KL9116は16台、それぞれサーバを接続することができます。KL9108/KL9116は8または16ポートのKVM、LCD モニタ、テンキー付きのフルキーボード、タッチパッドを組み合わせ、システムラック 1U サイズに集約した製品です。

KL9108/KL9116 の特長は LCD モニタ部分とキーボード/タッチパッド部分がそれぞれ独立してスライドすることです。この独特の機構により、サーバラックの貴重なスペースを最大限に活用できます。キーボードパネルを使用しない時には収納しておき、同時に LCD パネルはラックの外へ引き出しておいて、各サーバをモニタリングすることも可能です。

KL9108/KL9116 の KVM スイッチ部分は先進の over IP 機能に対応しており、接続されたサーバ群には、ローカルオペレーターとリモートオペレーターの同時アクセスが可能です。リモートアクセスのプロトコルには TCP/IP を使用するので、LAN/WAN/インターネットに接続されたコンピュータならどこからでもーオフィスでも、街角でも、地球の裏側からでもーリモートサーバへ自在にアクセスすることができます。



コンソールドロワー製品としての特長は、リアパネルに設けられたセカンドコンソールポートが挙げられます。PS/2 キーボード・PS/2 マウス・アナログモニタを 1 組接続することができ、最大 20m 離れた場所からの操作が可能です。さらに正面のキーボードパネル上にはマウスを接続可能な PS/2 ポートを搭載しており、外付けマウスを使用したオペレーションも可能です。

ローカルコンソールから KL9108/KL9116 に接続されたサーバにアクセスするには、マウス操作にも対応した GUI のメニュー画面から行います。監視のため接続された各サーバの画面を自動的に切り替え表示するオートスキャンモードにも対応しています。

リモートオペレーターの操作は、LAN/WAN/インターネットに接続されたコンピュータで web ブラウザを開き、KL9108/KL9116 の IP アドレスを指定することからスタートします。ログインに成功すると、Windows クライアントまたは Java クライアントを使用して、リモートサーバ画面を操作します。OS に依存しない Java プラットフォームを使用するクライアントソフトウェアの存在により、リモートアクセスに使用するシステムの種類を問いません。

KL9108/KL9116 はシステム管理者の膨大なタスクをスムーズかつ効果的にサポートします。GUI アプリケーションのインストールから一般運用業務、BIOS レベルのトラブルシューティング、複数のサーバのモニタリング、複数システムのメンテナンスの平行処理、システム管理、再起動からブートマネージメントまで。すべてがリモートアクセスで実行可能です。

リモートオペレーターはまるでローカルコンソールを使用しているかのように、キーボード・マウス・モニタを切り替えることができます。パネルアレイモード機能はリモート画面を分割表示して接続されたサーバの複数同時監視を可能にし、またメッセージボード機能を使用すると KL9108/KL9116 へログインした複数のリモートオペレーター間でコミュニケーションが可能です。

KL9108/KL9116 のコンピュータ側ポートには、キーボード・マウス・モニタの信号を集約した ATEN 独自の SPHD コネクタを採用しており、1U サイズながら 8 または 16 台のサーバを接続することを可能にしました。

セットアップは非常に簡単です。ケーブルを適切なポートに接続するだけで作業が完了します。KL9108/KL9116 が持つエミュレーション機能は、複雑なインストール作業や互換性の問題を無くすことができました。

KL9108/KL9116 のファームウェアアップグレードは、インターネット経由で行うことが可能です。管理者はどこにいても、弊社の web サイトでファームウェアパッケージをダウンロードして、システムを最新の状態に保つことが可能です。

特長

- ◆ 8 台(KL9108)または 16 台(KL9116)のサーバを接続可能な LCD 一体型 KVMドロー
- ◆ 17 インチ LCD、テンキー付きフルキーボード、タッチパッド、KVM を 1U サイズに集約
- ◆ デュアルスライド機構—LCD パネルとキーボード/タッチパッドパネルは上下独立してスライド
- ◆ デュアルバス—ローカルオペレーター×1、リモートオペレーター×1 がそれぞれ独立してサーバを操作可能
- ◆ TCP/IP によるリモートアクセス—LAN/WAN/インターネットに接続されたコンピュータから、場所・時間を問わずリモートアクセスが可能
- ◆ リモート画面グレースケールモード対応—低速回線でのリモートアクセス時に有効なオプション
- ◆ 転送レート制限可能
- ◆ セカンドコンソールポート—製品フロント側のコンソール以外に、リア側に設けられたセカンドコンソールポートに PS/2 キーボード・PS/2 マウス・アナログモニタを接続して操作可能
- ◆ 外付けマウス—キーボードパネル上に PS/2 マウスポート搭載
- ◆ キーボード上に OSD 呼び出し専用キーを搭載
- ◆ コンソールロック機能—ローカルコンソールから離れる場合のセキュリティ対策
- ◆ Web ブラウザによる簡単アクセス—クライアントソフトウェアは Windows 版およびプラットフォームを問わない Java 版を用意
- ◆ 最大 64 名のユーザーアカウントを作成可能—32 名までの同時ログイン可能
- ◆ パネルレイモード—リモートアクセス時に画面を分割表示可能
- ◆ メッセージボード機能—ログインした複数のリモートオペレーターがコミュニケーション可能
- ◆ Windows 対応ログサーバ機能
- ◆ オプションの Power over the NET™ PN0108 を使用してリモート電源管理に対応
- ◆ ユーザーアカウントレベル—アドミニストレーター、ユーザー、カスタム設定
- ◆ 複数の暗号化技術によるセキュリティ—1,024bit RSA、256bit AES、56bit DES、128bit SSL
- ◆ RADIUS 認証対応
- ◆ CC1000 対応
- ◆ ファームウェアアップグレード対応—ネットワーク経由でアップグレード作業が可能
- ◆ 3 つのポートアクセス設定—Exclusive、Occupy、Share
- ◆ ネットワークインターフェース—TCP/IP、HTTP、HTTPS、UDP、RADIUS、DHCP、SSL、ARP、DNS、10Base-T/100Base-TX、Auto Sense、Ping
- ◆ VGA 解像度—1,280×1,024@75Hz(17 インチローカルモニタ)、1,600×1,200@60Hz(リモートアクセス時)

必要システム構成

セカンドコンソール

- 接続されるサーバで出力可能な解像度に適した、VGA・SVGA・マルチシンクモニタ
- PS/2 キーボード・PS/2 マウス

サーバ

接続されるサーバは下記の環境を満たしている必要があります。

- VGA、SVGA、マルチシンク出力可能で D-sub 15 ピンコネクタを持ったビデオカード
- PS/2 キーボード、PS/2 マウスポートを備えていること

注意: LCD モニタで表示可能な最大の解像度は 1,280×1,024@75Hz です。

リモートコンピュータ

- KL9108/KL9116 へのリモートアクセスで最適なパフォーマンスを得るためには、使用するコンピュータが Pentium III 1GHz 以上相当のプロセッサを搭載していること、および解像度 1,024×768 以上を表示可能なモニタが必要です。
- Windows クライアントを使用する場合は、DirectX 7.0 以上がインストールされている必要があります。もしインストールされていない場合は、Microsoft 社の web サイトからダウンロードし、あらかじめインストールしておいてください。
- Java クライアントを使用する場合は、Sun Microsystems Java 2 (JRE 1.4 以上)がインストールされている必要があります。もしインストールされていない場合は、Sun Microsystems 社の web サイトからダウンロードし、あらかじめインストールしておいてください。
- 使用するブラウザが 128bit SSL 暗号化に対応している必要があります。
- リモートアクセスで最適なパフォーマンスを得るためには、ネットワーク帯域が 128kbps 以上保証されている必要があります。

ケーブル

規格外のケーブルを使用すると、接続した機器を破損することや、機器の性能を低下させることがあります。理想的な状態でデータ転送を行うため、またシステムのレイアウトを単純化させるためにも、以下の KL9108/KL9116 対応 KVM ケーブルをご使用になることを推奨いたします。

ケーブル長	型番
1.2m	2L-5201P
1.8m	2L-5202P 2L-5702P ※
3.0m	2L-5203P
6.0m	2L-5206P

※ 2L-5702P は製品同梱ケーブルの型番です。2L-5202P はケーブルシース外観が異なりますが、仕様は全く同一です。

コンバータ

Mac や Sun プラットフォームを KL9108/KL9116 に接続する場合は、下記のコンバータを使用します。コンバータをお求めになる場合は、KL9108/KL9116 を購入した販売店までお問い合わせください。

用途	製品	型番
USB インターフェースの サーバを接続 (Win、Linux、Mac)	PS/2-USB コンバータ	UC-100KMA
Sun レガシーインターフェースの サーバを接続	Sun コンソールコンバータ	CV-130A
Sun USB インターフェースの サーバを接続	Sun コンソールコンバータ	CV-131A

対応オペレーティングシステム

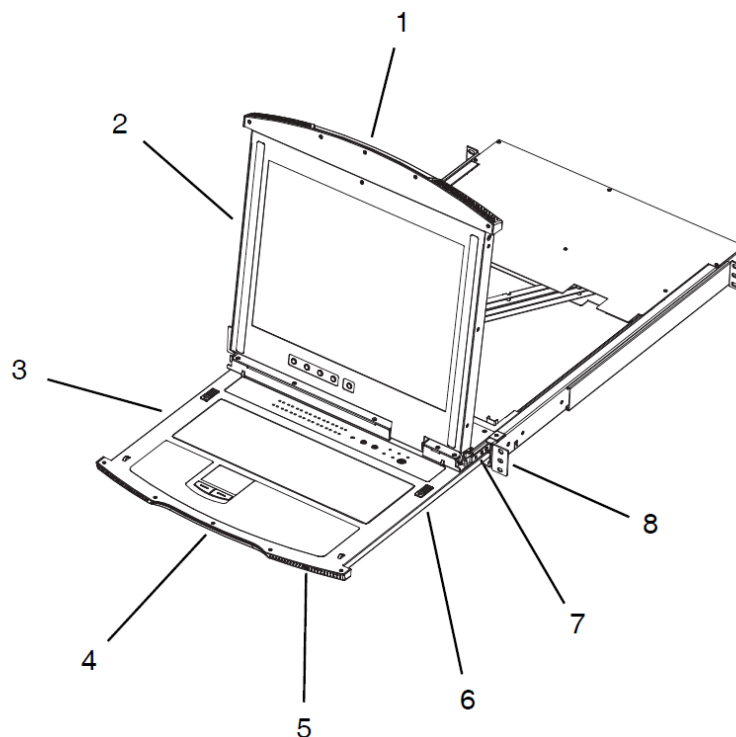
KL9108/KL9116 は、下記のオペレーティングシステムのサーバを接続可能です。

OS	バージョン	
Windows		2000 以降
Linux	RedHat	6.0 以降
	SuSE	8.2 以降
	Mandriva (Mandrake)	9.0 以降
Unix	AIX	4.3 以降
	FreeBSD	3.51 以降
	Sun	Solaris8 以降
Novell	Netware	5.0 以降
Mac		8.6 以降
OS/2		Warp 以降
DOS		6.2 以降

※Mac、Sun は別途 P. 23 のコンバータが必要です。

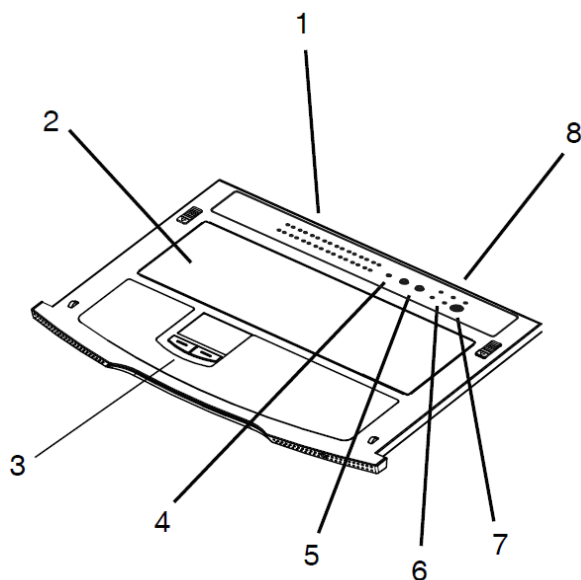
製品各部名称

フロントビュー



No.	名称	説明
1	LCD パネル側ハンドル	LCD パネルの引き出し・収納作業を行うときに使用します。取り扱い方法は P. 38 をご参照ください。
2	LCD パネル	P.38 の LCD パネルをご参照ください。
3	キーボードパネル	P.38 のキーボードパネルをご参照ください。
4	キーボードパネル側ハンドル	キーボードパネルの引き出し・収納作業を行うときに使用します。取り扱い方法は P. 38 をご参照ください。
5	電源 LED	ブルーに点灯し、電源がオンになっていることを示します。
6	キーボードリリースキャッチ	キーボードパネル収納時、両端にあるキャッチを操作します。
7	LCD リリースキャッチ	LCD パネル収納時、両端にあるキャッチを操作します。
8	ラックマウントタブ	ラックへの搭載時、ネジ止めを行います。詳細は P.38 のラックマウント方法をご参照ください。

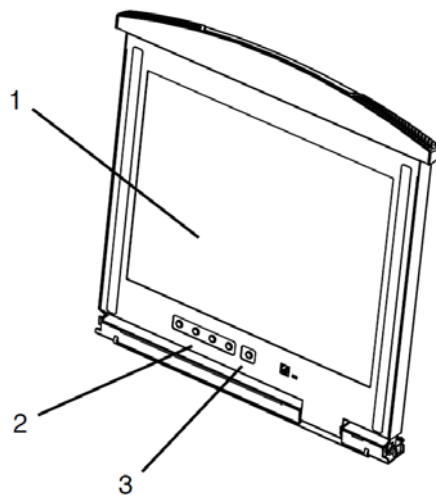
キーボードパネル



No.	名称	説明
1	ポート LED	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン LED が点灯している時は、対応するポートに接続されたサーバの電源がオンになっていることを示します。 ・選択 LED が点灯しているときは、対応するポートに接続されたサーバがローカルコンソールで選択されていることを示します。
2	キーボード	Windows キー付き、JIS 配列準拠の105キーです。
3	タッチパッド	2 ボタン付きタッチパッドです。
4	リセットボタン	<ul style="list-style-type: none"> ・このボタンを押しながら KL9108/KL9116 を起動すると、ファームウェアを工場出荷時のバージョンに戻します。ファームウェアアップグレードで失敗した時などに、この操作を行ってください。 ・このボタンを 3 秒以上押すと KVM をリセットします。 注意:ピンホール型ボタンになっているので、ペン等の細いもので押してください。
5	ポート選択ボタン	<ul style="list-style-type: none"> ・左側のボタン(DOWN)は、KVM での選択をポート番号の逆順に切り替えます。(例:ポート 7→ポート 6) ・右側のボタン(UP)は、KVM での選択をポート番号の正順に切り替えます。(例:ポート 6→ポート 7)

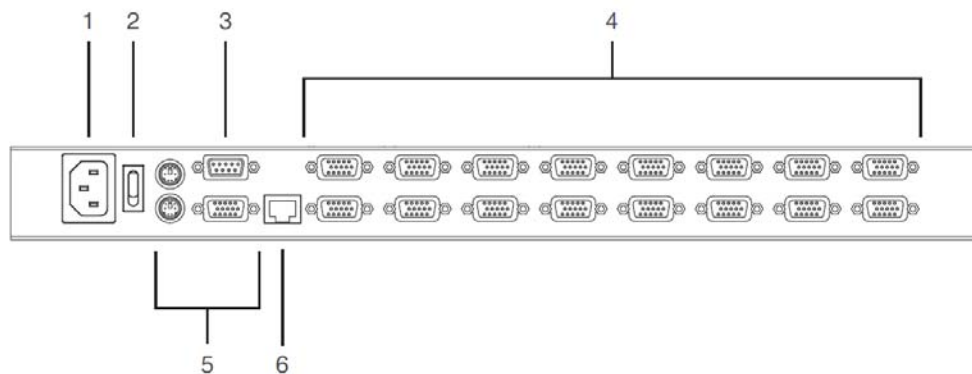
No.	名称	説明
6	コネクション LED	<ul style="list-style-type: none"> ・LINK LED が点滅しているときは、KL9108/KL9116 がリモートアクセスされていることを示します。 ・10/100Mbps LED がオレンジに点灯しているときは、10Mbps で通信していることを示します。グリーンに点灯しているときは、100Mbps で通信していることを示します。
7	外付マウスポート	PS/2 マウスを接続して使用できます。
8	Lock LED	Num Lock、Caps Lock、Scroll Lock LED

LCD パネル



No.	名称	説明
1	LCD パネル	LCD パネルは収納状態から引き出し、パネルを起こしてから使用します。パネルの引き出し・収納操作については、P.38 をご参照ください。
2	LCD 調整ボタン	ディスプレイ表示の調整を行います。調整方法については、P.44 をご参照ください。
3	LCD 電源ボタン	このボタンを押すと、ディスプレイの電源のみをオフにすることができます。ボタンがオレンジ色に点灯しているときは、ディスプレイの電源はオフですが、KVM スイッチの電源はオンになっていることを示します。

リアビュー



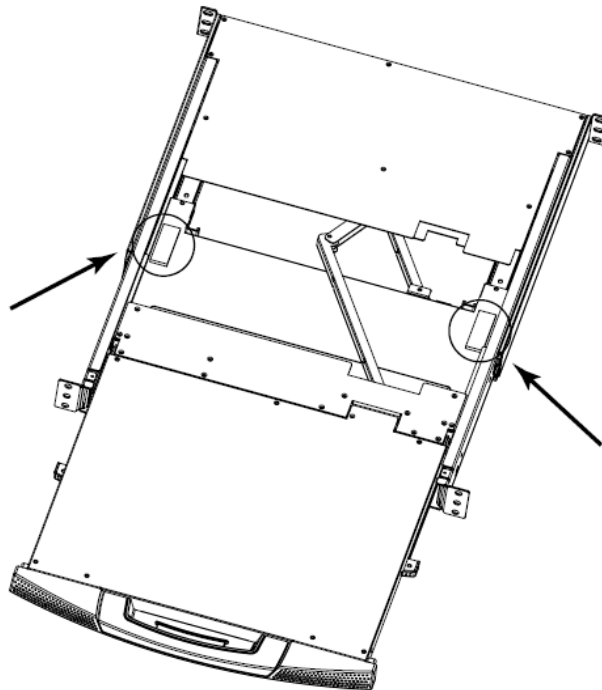
No.	名称	説明
1	電源ソケット	IEC 60320 C14 3 極ソケットです。製品に同梱されている電源コードを接続してください。
2	電源スイッチ	電源のオン/オフを行うロッカースイッチです。
3	PON ポート	DB-9 ピン メスのコネクタで、Power over the NET™ (PON) 製品との接続に使用します。Power over the NET™製品は、TCP/IP ネットワーク経由でサーバの電源管理を行うことができます。製品については
4	KVM ポート	対応する KVM ケーブルで、コンピュータとの接続に使用します。 注意:この黄色い SPHD コネクタは、ATEN KVM ケーブル専用設計されたものです(ケーブルの詳細については P.59 参照)。モニタの接続に使用する D-Sub 15 ピンコネクタなどを誤って接続しないよう、ご注意ください。
5	セカンドコンソールポート	柔軟で便利なオペレーション環境を提供するため、KL9108/KL9116 はリアパネルにもう一組のコンソール (PS/2 キーボード、PS/2 マウス、アナログモニタ) を接続して操作することが可能です。
6	LAN ポート	KL9108/KL9116 を LAN/WAN/インターネットに接続する際に使用します。
注意:		リアパネル図は KL9116 のものです。KL9108 のリアパネルは KVM ポートが 8 個になっている点以外、すべて KL9116 と同じ仕様です。

第2章 ハードウェアセットアップ

セットアップの前に

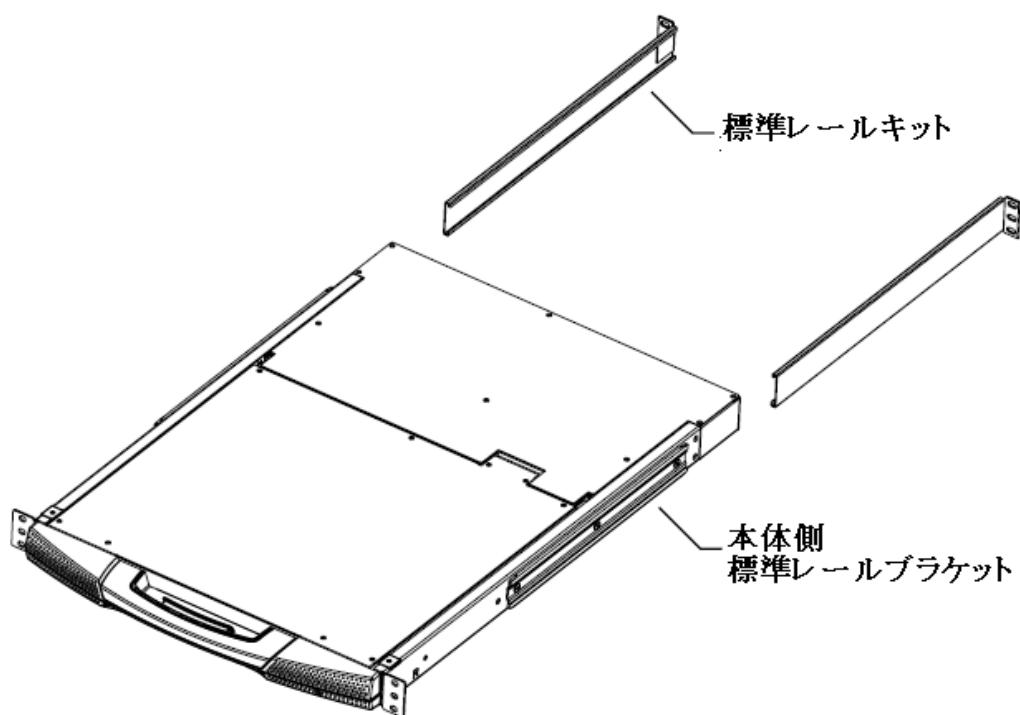


1. 機器の設置に際し重要な情報をp.13に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。キーボード起動機能がついている場合は、コンピュータの電源ケーブルも抜いてください。
3. 輸送時の振動が機器にダメージを与えることを防ぐために、KL9108/KL9116 製品本体の下図の位置にクッションが取り付けられています。KL9108/KL9116 をラックに取り付ける前に、LCD パネルをクッションが見える位置まで引き出し、クッションを取り除いてから作業を行ってください。



標準ラックマウントキット

KL9108/KL9116 は、本体に標準ラックマウントキットが取り付けられた状態で出荷されます。標準ラックマウントキットを使用してマウンティングが可能なラック支柱奥行きは、42~77cm です。

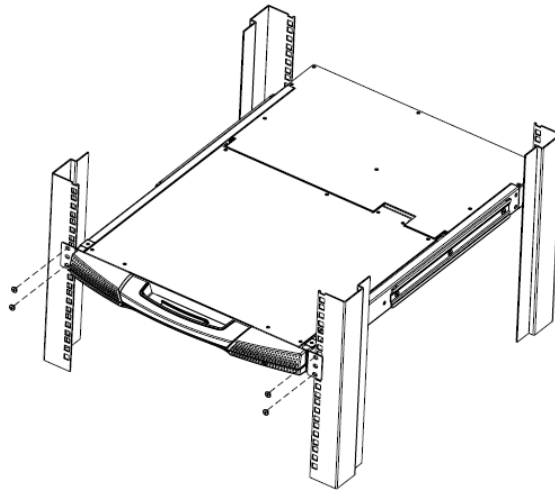


注意:

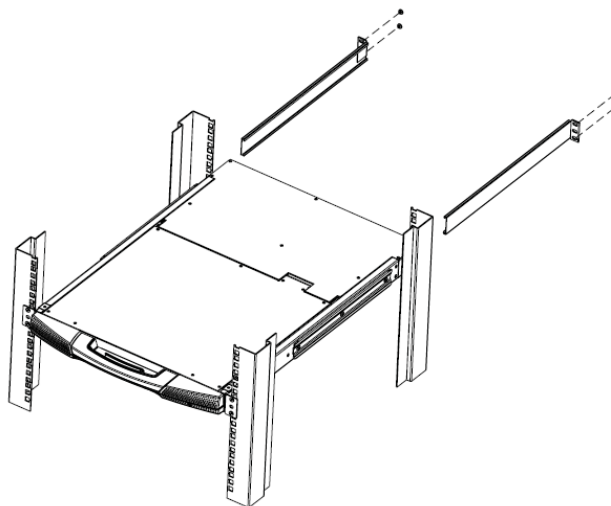
1. 製品のラックへのマウント作業は二人以上で行うようにしてください。製品を保持する作業者とネジ止めを行う作業者とで、複数で行ってください。
2. ラックへの取付に使用するネジおよびケージナットは製品に同梱されていません。お手数ですが、ラックに対応したネジとケージナットをご用意ください。
3. オプションの**イージーセットアップラックマウントキット**が製品に同梱されています。イージーセットアップラックマウントキットの取付方法はp.59をご参照ください。

標準ラックマウントキットでのラックへの取付は、下記の手順で行ってください。

1. 製品のラックへのマウント作業は二人以上で行うようにしてください。製品を保持する作業者とネジ止めを行う作業者とで、複数で行ってください。最初にフロント側タブのネジ止めを行います。



2. 製品を取付位置で保持したまま、他の作業者は標準レールキットを製品リア側から差し込み、取付長を調整して、ネジ止めしてください。



3. 最後に全てのネジがしっかりと固定されていることを確認してください。

注意: 適切なエアフロー確保のために製品両側に少なくとも 5cm 程度、ケーブル取り回しのスペースを確保するために製品リア側に少なくとも 13cm 程度の余裕を設けて設置してください。

イージーセットアップラックマウントキット

イージーセットアップラックマウントキットは、標準キットに比べて非常に簡単に製品のマウント作業ができるように設計されたものです。

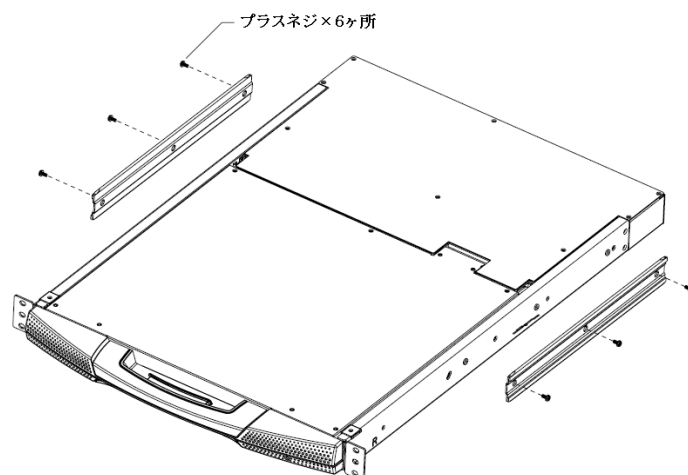
対応ラックの仕様は下記をご参照ください。

KVM 型番	レールキット	対応ラック奥行き (取付支柱間の距離)
KL9108MJJS	イージーセットアップ ラックマウントキット/ショート	42cm～70cm
KL9116MJJS	イージーセットアップ ラックマウントキット/ロング	68cm～105cm

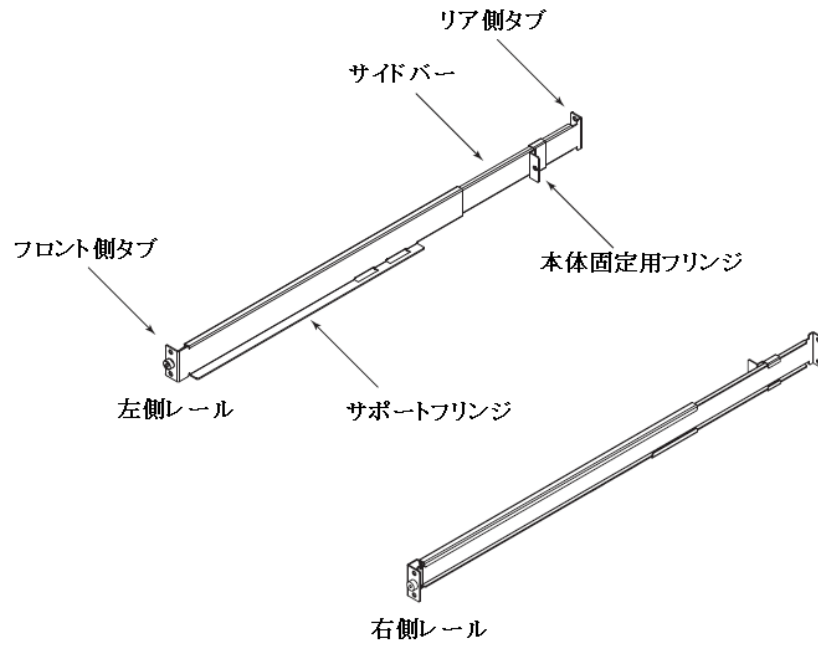
注意:ラックマウントキットの対応奥行き表示は、ラック取付支柱間の距離を表しています。実際のラックマウント作業の際には、ラック内寸に対するドロワー本体の奥行きやケーブル取り回しを考慮する必要がありますのでご注意ください。

イージーセットアップラックマウントキットを使用する際のマウント作業は下記の手順に従ってください。
(ショート/ロング共通)

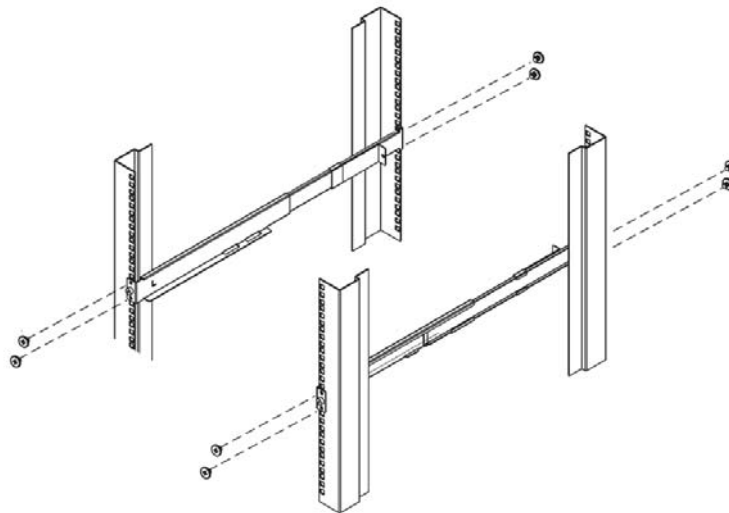
1. KL9108/KL9116 は、本体に標準ラックマウントキットが取り付けられた状態で出荷されています。イージーセットアップラックマウントキットを使用する前に、本体側 標準レールブラケットを取り外してください。外したネジとレールブラケットは標準レールキットを使用する際に必要になるので、保管しておいてください。



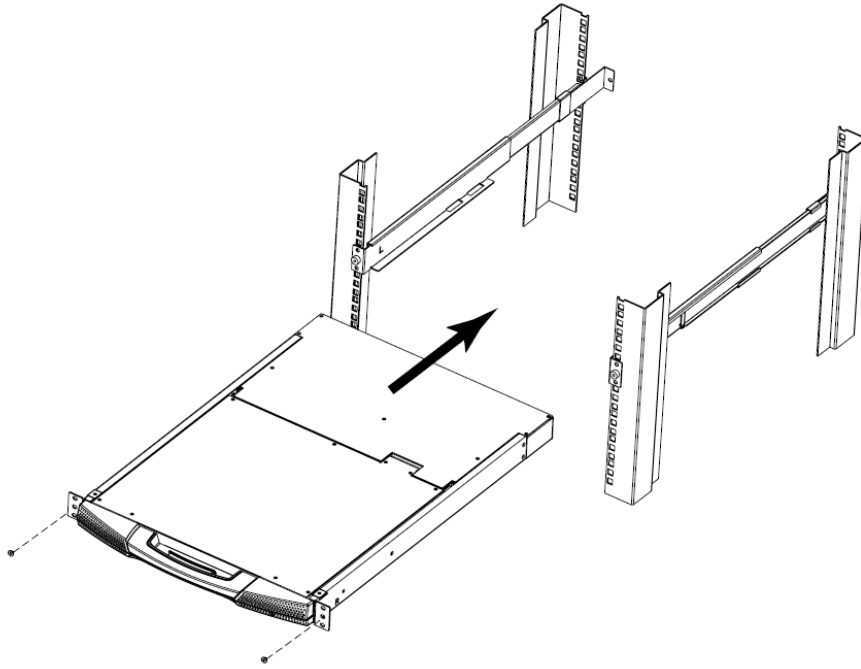
2. 同梱品箱に収められているイージーセットアップラックマウントキットを取り出し、レールの左右前後を確認してください。



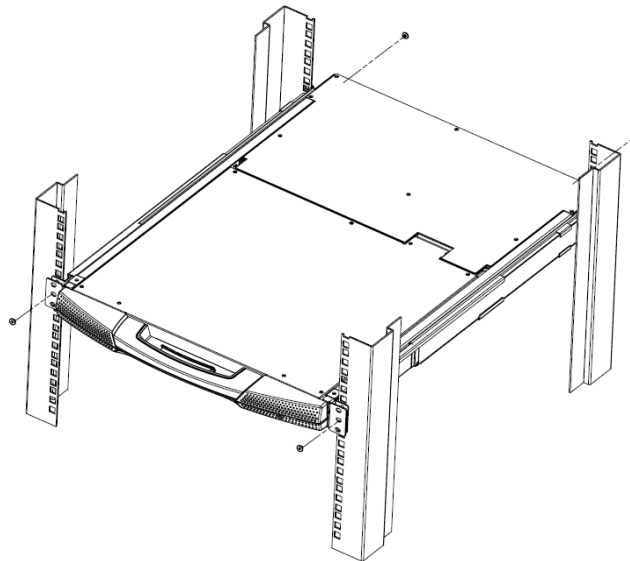
- a) イージーセットアップラックマウントキットは、レールのみを先にラックへ取り付けます。はじめにフロント側タブをラックにネジ止めしてください。
- b) サイドバーを調整しラックの支柱に合わせ、リア側タブをラックにネジ止めしてください。



3. サポートフリンジに支えられるようにしながら、KL9108/KL9116 をラックのフロント側からスライドさせていきます。フロントタブが重なる位置まで押し入れたら、ネジ止めしてください。(ネジの本締めは次の手順で行ってください)



4. 本体固定用フリンジをスライドさせ、タブが製品リアパネルに接触するように調整し、ネジ止めしてください。取付位置に問題がなければ、4ヶ所のネジを本締めしてください。



5. LCD パネル/キーボードパネルを引き出してみて、問題なくオペレーションが行えることを確認してください。

6. 最後にすべてのネジがしっかりと止められていることを再確認してください。

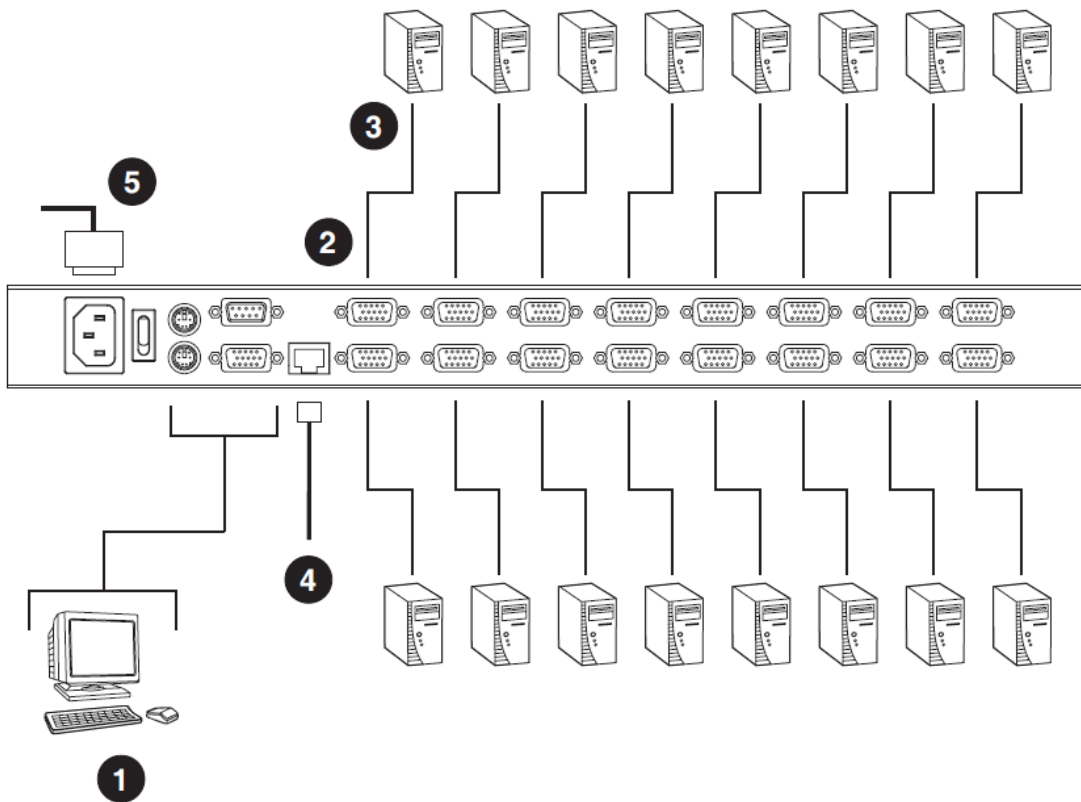
KL9108/KL9116 単体接続

KL9108/KL9116 とコンピュータのみだけで構成され、カスケード等の方法で他の KVM スイッチを使用しない単体接続を説明します。次ページの接続図を参考にしながら下記の手順に従ってセットアップを行ってください。(接続図の番号はセットアップ手順に対応しています)

1. (オプション手順)セカンドコンソールを使用する場合は、KL9108/KL9116 リアパネルにあるセカンドコンソールポートに、PS/2 キーボード・PS/2 マウス・アナログモニタを接続してください。各ポートは PC99 準拠のカラーリングが施されています。
2. 製品対応の KVM ケーブル(p.23 参照)を使用して、KVM ケーブルの SPHD コネクタ(黄色)をリアパネルのコンピュータ側ポートに接続してください。
3. KVM ケーブルの別の一端のコネクタを、コンピュータ側の対応するポートに接続してください。接続するコンピュータすべてについて、2.～3.の手順を繰り返してください。
4. LAN または WAN に接続されたネットワークケーブルを、リアパネルの RJ-45 ソケットに接続してください。
5. 電源ケーブルを KL9108/KL9116 本体に接続した後に、電源コンセントに差し込んでください。

すべてのケーブルが正しく接続されていることを確認したら、KL9108/KL9116 の電源をオンにしてください。KL9108/KL9116 の電源がオンになったのを確認してから、接続された各コンピュータの電源をオンにしてください。

注意: 接続図は KL9116 を使用していますが、KL9108 についてもセットアップ作業はまったく同じです。



KL9108/KL9116 カスケード接続

<割愛>

第3章 操作方法

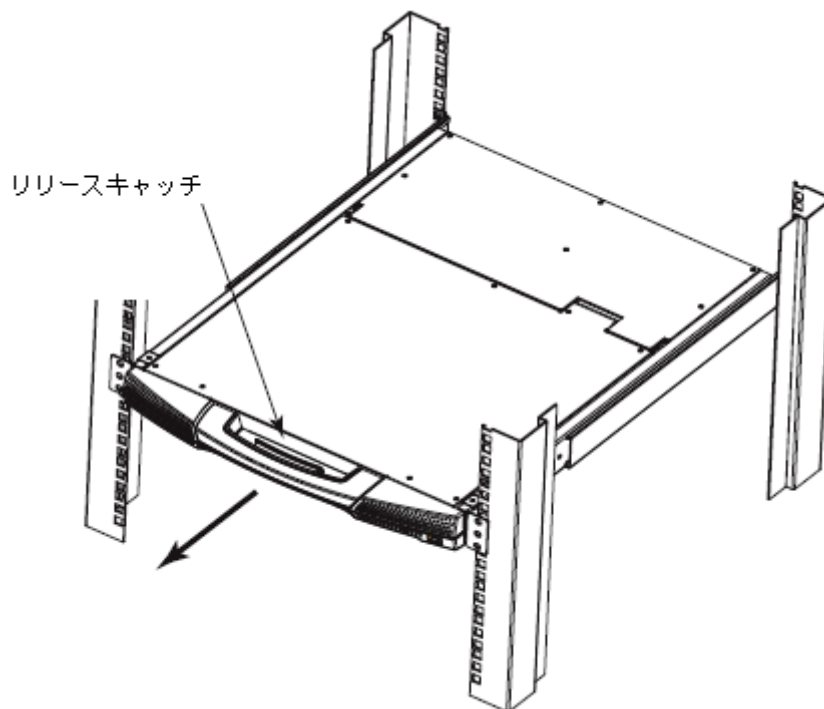
コンソールを開く

KL9108/KL9116 は、上部パネルに取り付けられている LCD ディスプレイ、および下部パネルに取り付けられているキーボード/タッチパッドの2つの部分から構成されています。

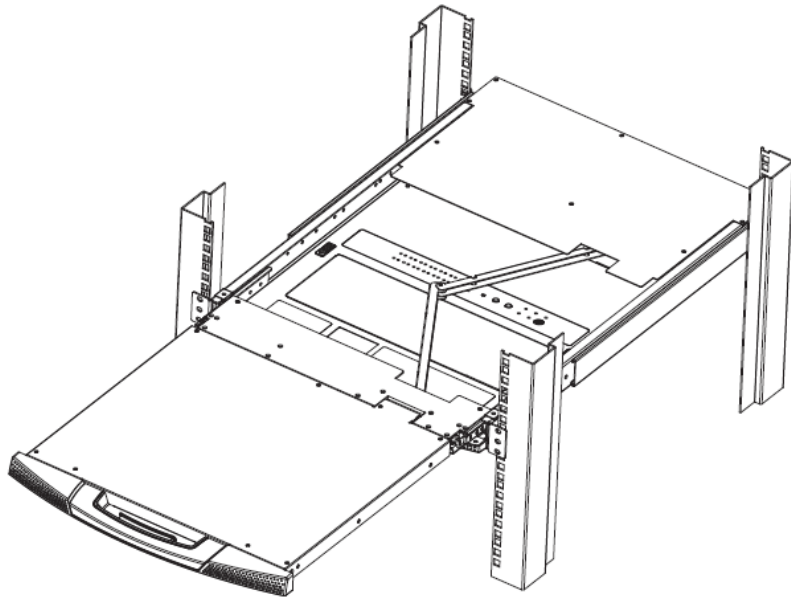
LCD パネルとキーボード/タッチパッドパネルは同時に使用することもできますし、それぞれ個別に動かすことも可能です。この機能によって、キーボード/タッチパッドパネルが必要でない場合は、このパネルを収納したまま LCD パネルだけを引き出して使用することができます。

LCD パネルとキーボード/タッチパッドパネルを個別に開く場合

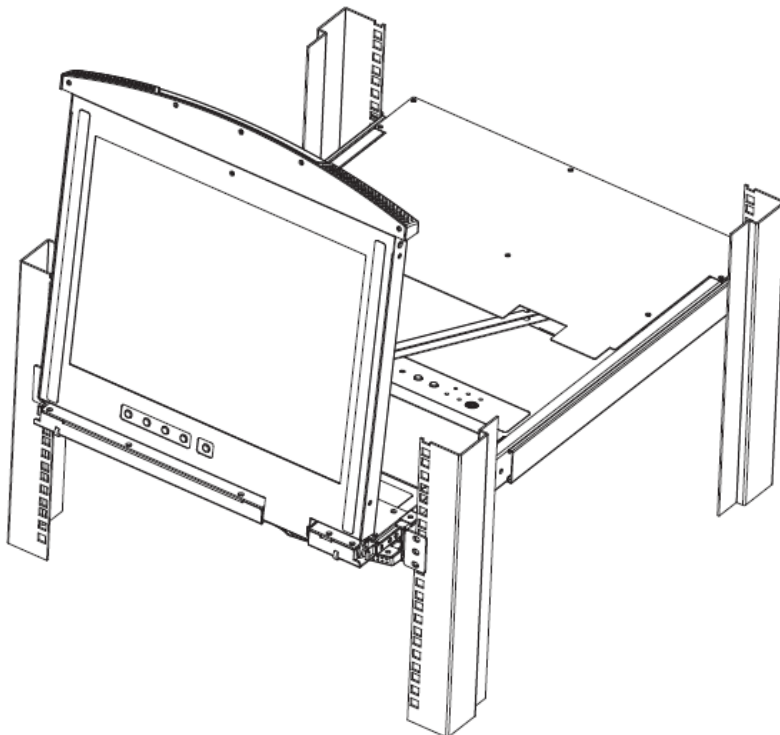
1. リリースキャッチを引っ張って、パネルを手前に引き出します。コンソールのロックが解除されたら、リリースキャッチから手を離してスライド操作ができます。



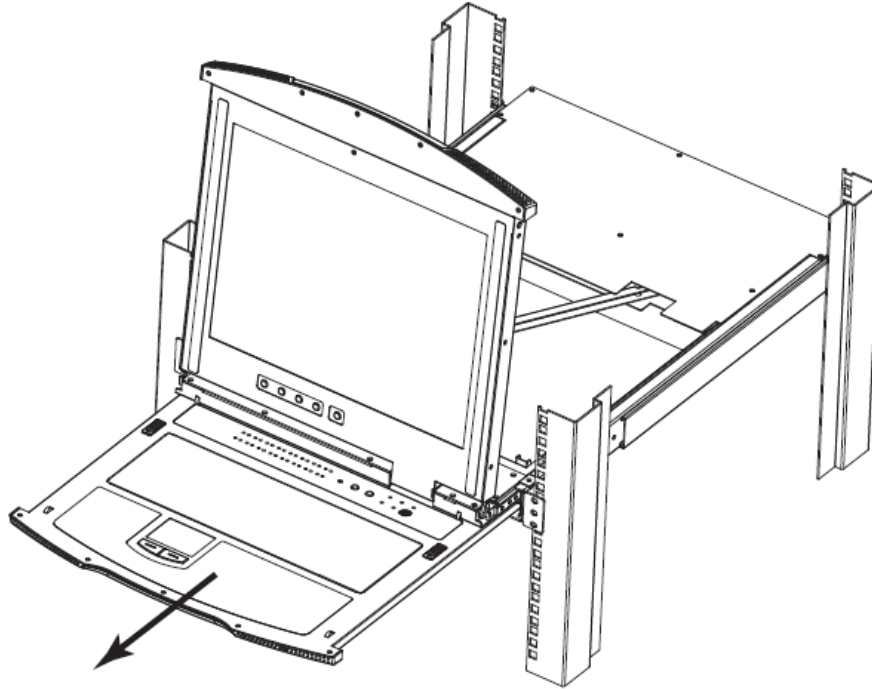
2. 「カチッ」という音がするまで LCD パネルを引き出します。



3. モニタ部分が手前にくるように LCD パネルを起こします。



4. 「カチッ」という音がするまでキーボード/タッチパッドパネルを引き出します。



LCD パネルとキーボード/タッチパッドパネルを同時に開く場合

上記の「LCD パネルとキーボード/タッチパッドパネルを個別に開く場合」の内容を参考にしながら、下記の手順で操作してください。

1. リリースキャッチを押して、両パネルを「カチッ」という音がするまで引き出します。

注意: コンソールのロックが解除されたら、キャッチから手を離してください。

2. 上部パネルを「カチッ」という音がするまで引き出します。

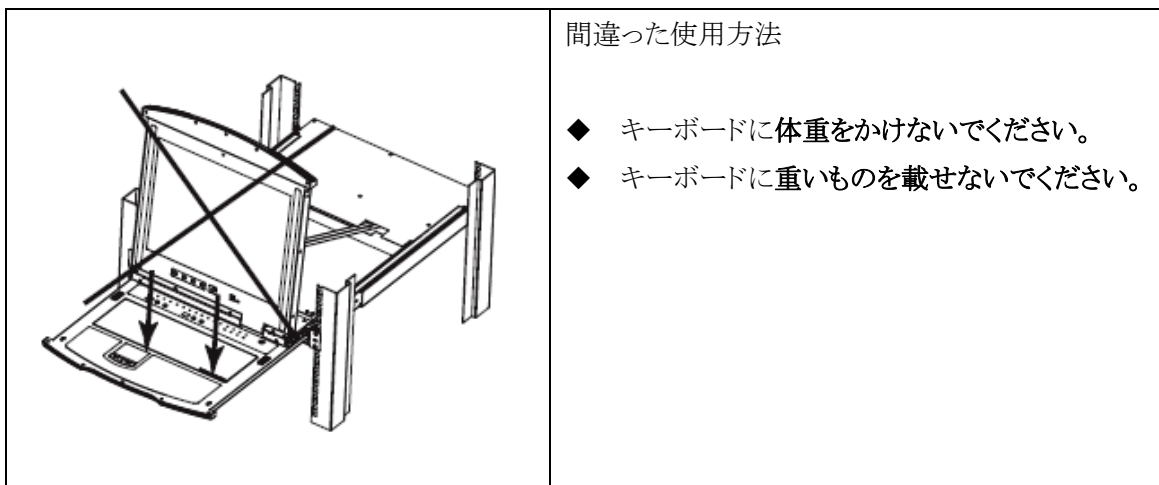
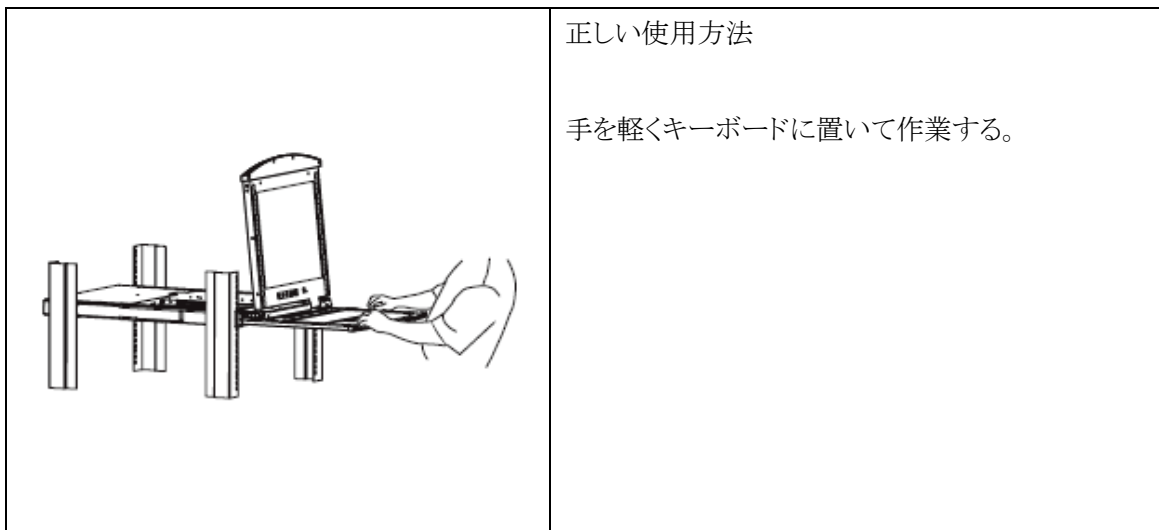
3. 上部パネルを起こして、LCD 画面が手前にくるようにします。

注意: キーボードモジュールの重量超過に関する以下の注意書きを、ご参照ください。

操作上の注意事項

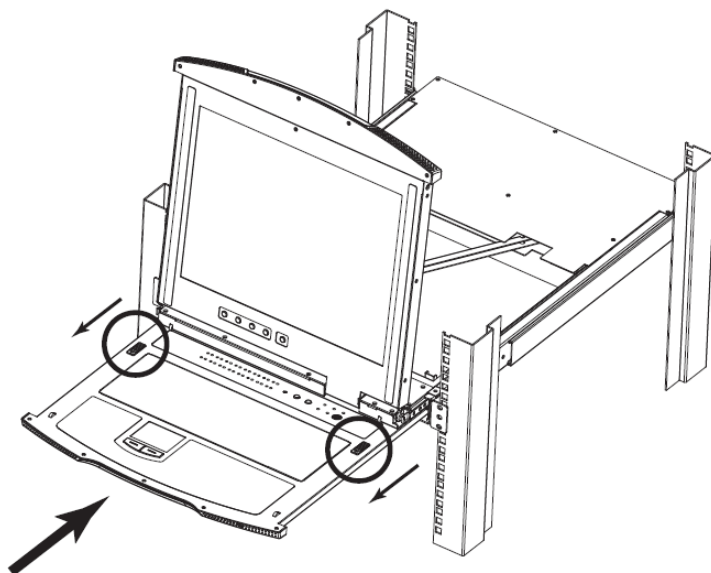


キーボードパネルはある程度の加重に耐えるよう設計されておりますが、安全にお使い頂くため、長時間無理な力がかからないようにご使用ください。

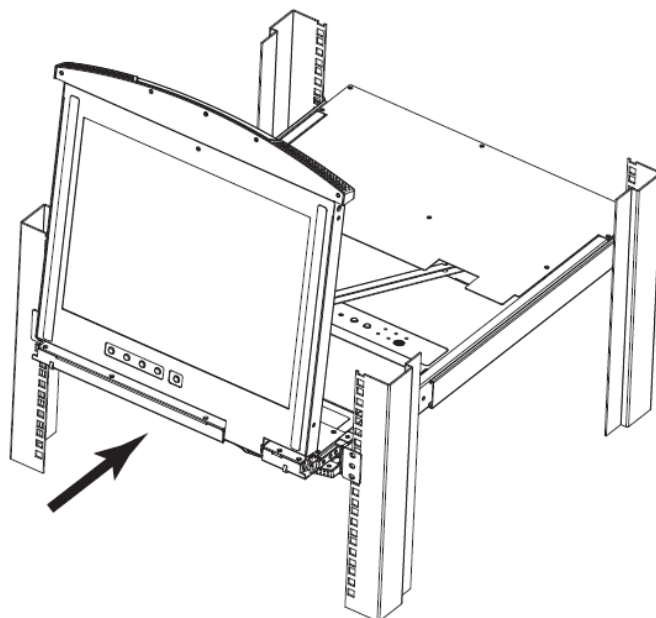


コンソールを閉じる

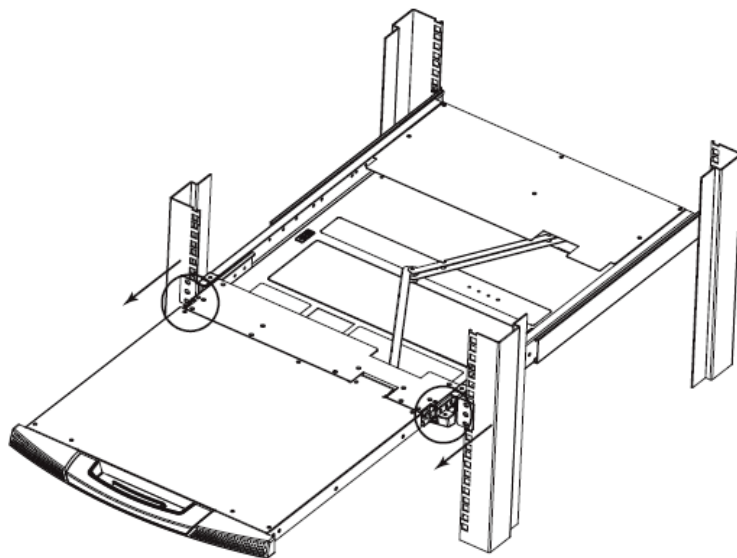
1. キーボード/タッチ패드パネルの両側についているリリースキャッチを手前にスライドさせロックを解除し、このパネルを奥にスライドさせます。



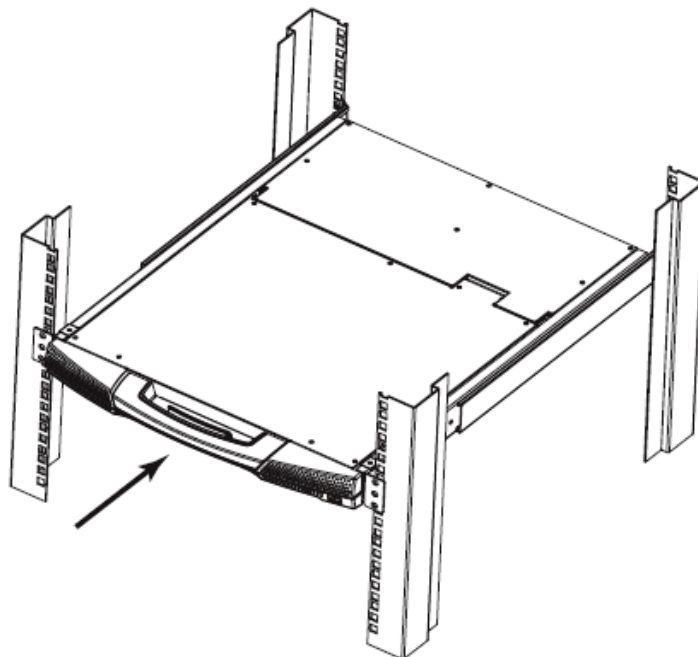
2. キャッチのロックを解除したら、フロントハンドルを使ってキーボード/タッチ패드パネルをラックに収納します。



3. LCD パネルを下に倒し、側面のキャッチを引っ張ってロックを解除します。



4. LCD パネルを奥にスライドさせ、ラックに収納します。



LCD の OSD 設定

LCD ボタン

LCD パネルの OSD によって、ディスプレイの設定を行うことができます。設定には下記の表にある4つのボタンを使用します。

ボタン名称	機能
MENU	<ul style="list-style-type: none">◆ OSD メニュー機能を操作していない場合にこのボタンを押すと OSD メインメニューが表示されます。◆ ナビゲーションボタン(▶ ▲ または ◀ ▼)で OSD メニュー項目の選択をしている際にこのボタンを押すと、各値の調整画面が表示されます。
	このボタンでメニューの右または上を選択します。また、画面調整時に使用すると、調整値を増やすことができます。
	このボタンでメニューの左または下を選択します。また、画面調整時に使用すると、調整値を減らすことができます。
EXIT	<ul style="list-style-type: none">◆ OSD メニュー機能を使用していない場合にこのボタンを押すと OSD 側で最適な LCD の設定を自動検出し、設定を行います。◆ OSD メニュー機能を使用している場合にこのボタンを押すと、現在のメニューから前のメニューに戻ります。設定が完了した場合は、このボタンで調整メニューを終了します。◆ メインメニューを操作している場合にこのボタンを押すと OSD メニュー機能を終了します。

LCD 調整の設定

下記の表は LCD スクリーンの OSD 調整の設定に関する説明です。

設定	説明
Brightness (明るさ)	スクリーンイメージのバックグラウンドの黒色レベルを調整します。
Contrast (コントラスト)	スクリーンイメージのフォアグラウンドの白色レベルを調整します。
Phase (フェーズ)	画面にチラツキ、ノイズが出ている場合には、フェーズを調整してください。
Clock (クロック)	画面縦方向の波(モアレ)が生じている場合には、クロックを調整してください。
H-Position (水平位置)	LCD パネル内の表示部分の横方向の位置を設定します。 (表示画面を左右の方向に動かして調整します)
V-Position (垂直位置)	LCD パネル内の表示部分の縦方向の位置を設定します。 (表示画面を上下の方向に動かして調整します)
Color Temperature (色温度)	表示画面の色味を調整します。赤みの度合いやカラーバランスなどを調整することができます。「Adjust Color」メニューを選択すると、サブメニューでさらに細かく RGB 値を調整することができます。
Language (言語)	OSD メニューに表示される言語を選択します。
OSD Duration (OSD 表示時間)	OSD 画面が LCD の画面上に表示される時間の設定を行います。設定時間に何も入力しないと OSD 画面は終了します。
Reset (リセット)	すべてのメニューを工場出荷時の設定にリセットします。 注意: OSD メニュー言語の設定のみ、工場出荷時の初期設定値には戻りません。

ポート選択

KL9108/KL9116 の KVM ポート選択は、3 つの便利な方法(プッシュボタンによる手動切り替え、OSD、ホットキー)があります。OSD およびホットキーによる操作については、Windows クライアントによる操作、および Java クライアントによる操作の章で説明しています。

プッシュボタンによる手動切り替え

キーボードパネル上のポート選択ボタン(Port UP/DOWN)によって、手動でポートを切り替えることができます。

ホットプラグ

KL9108/KL9116 はホットプラグに対応しています。コンポーネントのケーブル抜き差しやコンピュータの追加接続は、ユニットの電源をオフにすることなく行うことができます。

ただし、接続するコンピュータの構成を変更した場合は、OSD 画面に変更後のポート情報を正しく反映させるために、手動でポート名の編集を行わなくてはなりません。ポート名の編集については p.54 をご参照ください。

注意: お使いのコンピュータの OS がホットプラグに対応していない場合は、この機能は適切に動作しません。

電源オフおよび再起動

KL9108/KL9116 の電源をオフにする、もしくは何らかの理由により再起動を行う必要がある場合は、電源をオフにしたあと 10 秒程待ってから電源を入れなおしてください。接続されたコンピュータがこの操作で影響を受けることはありませんが、万が一何らかのエラーが発生した場合はコンピュータを再起動してください。

ポート ID の割り当て

コンピュータ側ポートには個々にポート ID が与えられています。ポート ID はコンピュータが接続されているコンピュータ側ポートに対応した 2 桁の数字になります。番号が 1 桁の場合は先頭が 0 詰めされ、01～09 で表されます。

例えば、**ポート 6** に接続されたコンピュータのポート ID は **06** です。

第4章 管理者向け操作

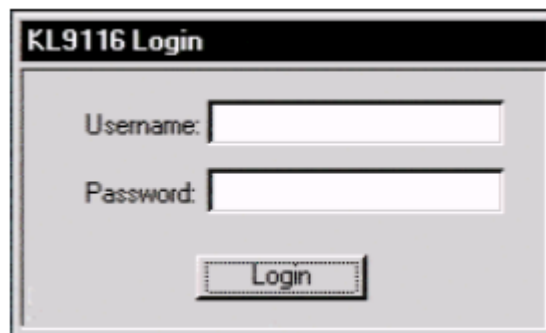
概要

OSDのAdministrationタブでは、アドミニストレーターおよびアドミニストレーターと同等の権限を持ったユーザー(詳細は p.58 参照)が KL9108/KL9116 に関する全設定を行うことができます。アドミニストレーター権限のないユーザーが OSD メニューを開くと Administration タブは無効(灰色)になり、操作できなくなります。

ローカルコンソール

KL9108/KL9116 のハードウェアセットアップが終了したら、アドミニストレーターは、まず、各ユーザーの設定を行う必要があります。初期操作時には、ユーザー設定をローカルコンソールから行うことをお勧めします。

ローカルコンソールを接続してKL9108/KL9116の電源がオンになると、コンソールモニタにログインダイアログボックスが表示されます。

A screenshot of a login dialog box titled "KL9116 Login". It features two input fields: "Username:" and "Password:". Below the fields is a "Login" button. The dialog box has a dark header bar with the title in white text.

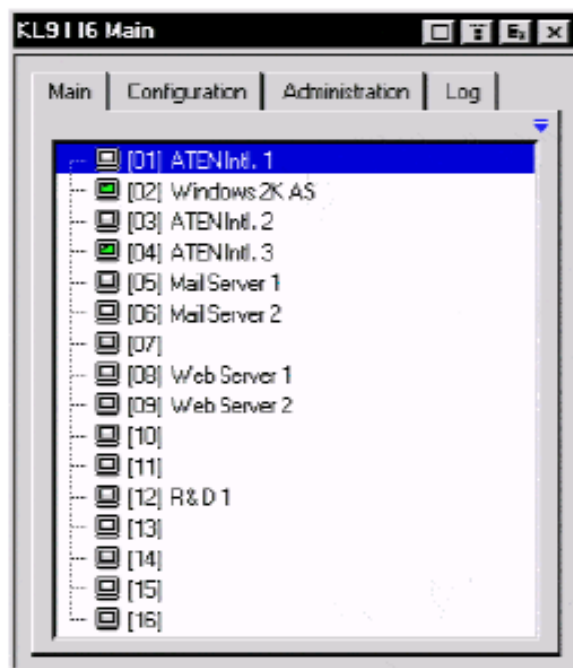
初回ログイン時には、以下のデフォルトユーザーネームとパスワードを使用してください。

デフォルトユーザーネーム: administrator





デフォルトパスワード: password

セキュリティの面から、ユーザー管理機能(p.58 参照)でデフォルトのユーザーネームとパスワードを変更し、任意のユーザーネームとパスワードに変更されることを強く推奨します。

ログインに成功すると、ローカルコンソール OSD が表示されます。



OSDメニューのタイトルバーの右上には4つのメニューボタンがあります。OSDメニューはMain、Configuration、Administration、Logの4つのタブから構成されています。それぞれマウスでクリックするか、対応するファンクションキーを押すと機能が実行されます。詳細は以下のとおりです。

ボタン	ファンクションキー	動作
	F6	Screen View : フルスクリーンとウィンドウビューを切り替えて表示します。
	F7	Transparent : このボタンをクリックすると OSD 画面が半透明になり、OSD の背後にある画面が見えるようになります。このボタンをもう1回クリックすると、OSD メニューを通常の状態に戻します。 <ol style="list-style-type: none"> この機能をご利用になる前に、お使いのモニタのリフレッシュレートを 75Hz 以上に設定されることを推奨します。 この透明化機能を有効にしている場合、何も接続されていないポートに切り替えるとこの機能が無効になります。
	F8	Log out : このボタンをクリックする、または F8 キーを押すと、OSD 画面が終了し、現在のセッションからログアウトします。
	Esc	Close : このボタンをクリックすると OSD 画面を閉じますが、現在のセッションからはログアウトしません。OSD ホットキーを使うことでもう一度 OSD メニューを呼び出すことができます。

Main タブ

このタブでは KL9108/KL9116 のポートアクセスの管理を行います。対象となるポートを選択しダブルクリックすることでそのポートに切り替えることができます。

- ◆ モニタのイメージで作られたポートアイコンはポート番号の前に表示されます。ポートに接続されたコンピュータに電源が入っている場合は、そのポートアイコンのモニタ部分が緑色で、また、電源が入っていない場合はグレーでそれぞれ表示されます。
- ◆ クイックビューポートとして選択されているポートは、ポートアイコンのモニタ部分に赤い目のアイコンが表示されます。

このタブでポートを切り替える操作に加え、アドミニストレーターは特定のポートに対するクイックビューの設定、各ポートのポート名の作成・編集・削除を行うことができます。以下のセクションでは、クイックビューの設定方法およびポート名の設定方法について説明していきます。

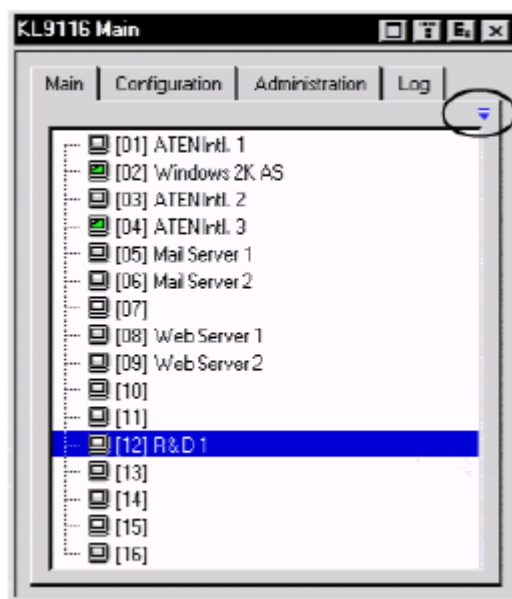
クイックビューポート

ある特定のポートをクイックビューポートとして設定しておくこと、KL9108/KL9116 はオートスキャンモードでそれらのポートをのみを対象にスキャンします。KL9108/KL9116 がクイックビューとして設定されているポートのみをスキャンするように設定されている場合、このダイアログでクイックビューポートとして設定しておくこと、オートスキャンが実行されたときに、それらのポートを対象にスキャンを行います。

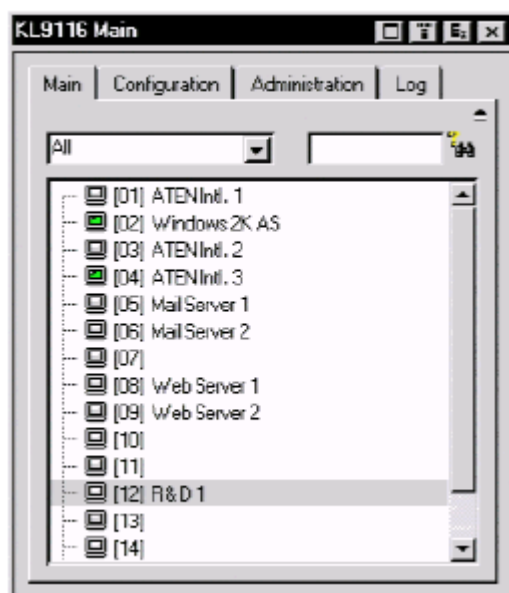
設定対象となるポートを選択し、スペースキーを押すことによって、クイックビューの設定/設定解除を行うことができます。ポートがクイックビューポートとして選択されると、ポートアイコンのモニタ部分に赤い目が表示されます。ポートがクイックビューとして選択されていないと、この赤い目のアイコンは表示されません。

リスト機能

リスト機能によってOSDメニューのMainタブにポートを表示する範囲を拡大/縮小することができます。リスト機能を有効にする場合は、ダイアログ右上にある三角ボタンを押すか、[F3]キーをクリックしてください。



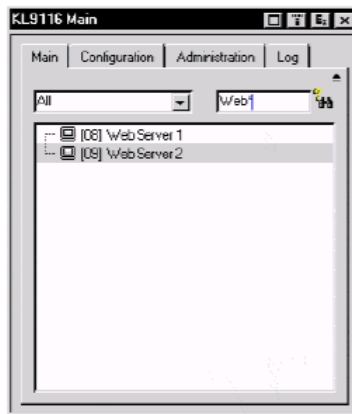
このボタンを押すと、表示の対象となるリストの条件を選択することができます。



- ◆ 青色の三角ボタンを押したときに表示されるリストボックスでは、表示の対象となるポートの属性を選択することができます。選択できる内容は以下の表のとおりです。

項目	内容
All	設置されているポート全てをリストアップします。
Powered On	接続されているコンピュータの電源がオンになっているポートをリストアップします。
Quick View	クイックビューポートとして選択されたポートをリストアップします。
Quick View + Powered On	クイックビューポート(p.51 参照)として選択され、かつ接続されているコンピュータの電源がオンになっているポートをリストアップします。

- ◆ Main タブの右上にあるテキストボックスには、ポート名でポートを検索する際の条件を入力することができます。「?」や「*」といったワイルドカードを用いた検索にも対応しておりますので、複数ポートを検索・表示することが可能です。例えば、「Web*」という文字列で検索すると、下図のように「Web Server 1」、「Web Server 2」というポート名を持ったコンピュータがリストに表示されます。

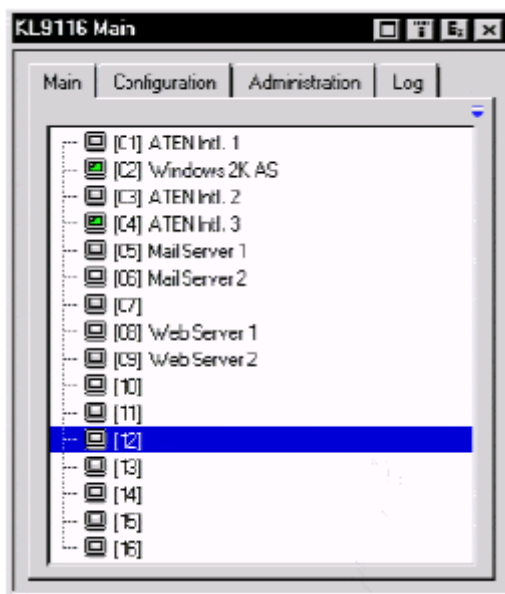


- ◆ ポートを検索する場合は、テキストボックスに検索したい文字列を入力し、テキストボックスの横にある双眼鏡のアイコンをクリックするか[Enter]キーを押してください。
- ◆ デフォルトのリスト表示に戻す場合は、テキストボックスから文字列を削除し、テキストボックスの横にある双眼鏡のアイコンをクリックするか[Enter]キーを押してください。
- ◆ リスト機能を非表示にする場合は黒色の三角ボタンをクリックするか、[F3]キーを押してください。

ポートネーム

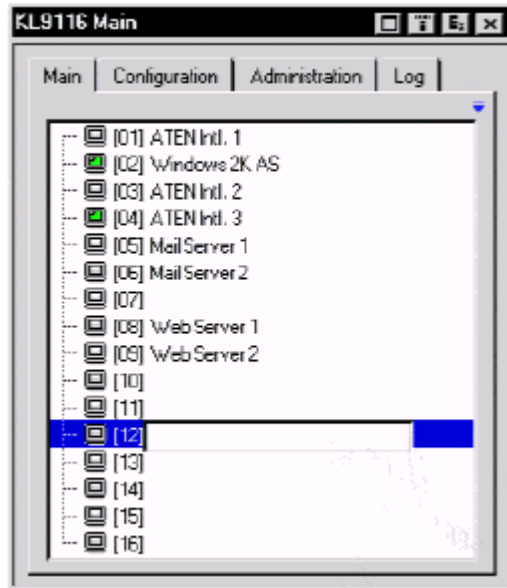
ポートに接続されているコンピュータの管理を容易にするために、各ポートに名前をつけることができます。アドミニストレーターはこのフィールドを使ってポートネームの作成・編集・削除を行うことができます。ポートネームを設定する場合は以下の手順で操作してください。

1. 編集したいポートをクリックし、[F2]キーを押すか、ハイライトバーをもう一度クリックします。

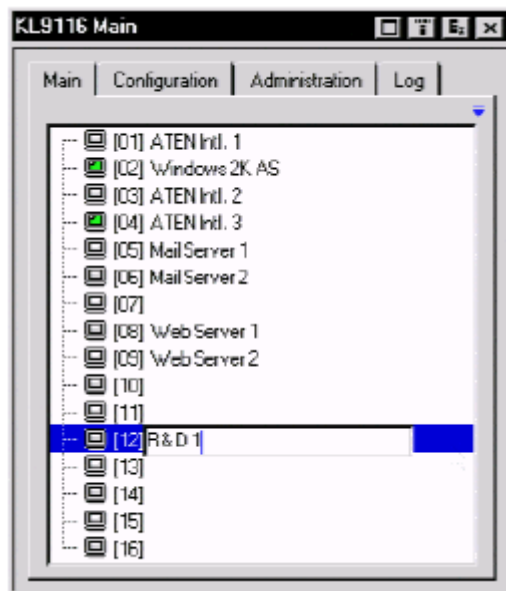


注意: この操作は、最初のクリックが終わって、しばらくしてから 2 回目のクリックを行いますので、いわゆるダブルクリックとは異なります。選択されたポートをダブルクリックすると、選択されたポートにアクセスします。

1～2 秒すると、ポートネームの表示欄がテキストボックスに変わり、編集が可能になります。



2. このテキストボックスを使って、ポートネームの作成、編集、または削除を行います。ポートネームは 19 文字以内の ASCII 文字で設定することが可能です。



3. ポートネームを編集し終わったら、テキストボックス以外の場所をクリックして、操作を完了してください。

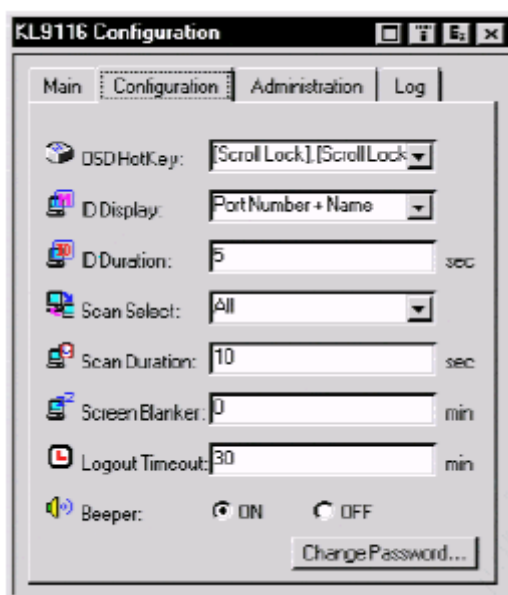
ポート操作

ポート操作は、Windows クライアント・Java クライアントともに同じ方法で行います。操作手順は第 5 章および第 6 章に記載されていますので、そちらをご参照ください。

ローカルコンソールからサーバに切り替えてアクセスしているときに、OSD を起動すると[F6]キーを押すことで OSD メニューを最大化することができます。もう一度[F6]キーを押すと、バックグラウンドを表示します。

Configuration タブ

OSD の Configuration タブではユーザー別に作業環境を定義することができます。Configuration タブの設定は、ローカルコンソール、Windows クライアント、Java クライアントのいずれも同じ方法で行います。



Configuration タブにおける各項目は下表のとおりです。

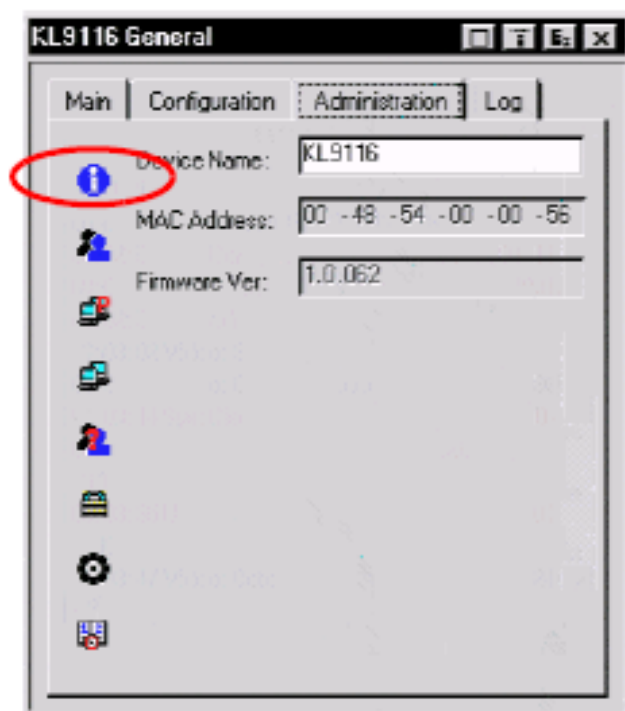
設定	機能
OSD Hotkey	OSD メインメニューを呼び出すホットキーを設定します。 [Scroll Lock] 2 度押し または [Ctrl] 2 度押し を設定することが可能です。 [Ctrl]キーの入力は、動作中のコンピュータの他のプログラムと競合する可能性があるため、 デフォルトは[Scroll Lock]キー 2 度押し になっています。 (p.112「ホットキー操作」参照)
ID Display	ポートID 表示方法を選択します。ポート番号のみ (PORT NUMBER)、ポートネームのみ (PORT NAME)、または、ポート番号とポートネームの組み合わせ (PORT NUMBER + PORT NAME)があります。 デフォルトは、ポート番号とポートネームの組み合わせ (PORT NUMBER + PORT NAME) です。
ID Duration	ポート切替が行われた後、画面にポート ID を表示する時間を設定します。 0～255 秒 の範囲の値を設定してください。 デフォルトでは 5 秒間 です。0 を選択すると、ポート ID を常に表示します。
Scan Select	オートスキャンモード (p.112 をご参照ください) で、どのコンピュータにアクセスするかを選択します。設定は以下のとおりです。 ALL — アクセスできるすべてのポート (p.64 をご参照ください) POWERED ON — アクセス可能かつ接続されているコンピュータの電源がオンになっているポートのみ QUICK VIEW — アクセス可能かつクイックビューポートとして設定されたポート (p.51 をご参照ください) のみ QUICK VIEW + POWERED ON — アクセス可能でクイックビューポートとして設定され、かつ接続されているコンピュータの電源がオンになっているポートのみ デフォルトは ALL です。
Scan Duration	オートスキャンモード (p.112 をご参照ください) で、各ポートに接続されたコンピュータの表示のインターバル時間を設定します。0～255 秒までの数値を入力してください。 デフォルトは 10 秒間 です。0 秒で設定するとスキャン機能を使用不可にします。
Screen Blanker	この機能で設定された時間、コンソールから入力されていない場合、画面はブラックになります。0～30 分の時間を入力してください。0 分で設定するとこの機能を無効にします。 デフォルトは 0 (無効) です。

(表は次のページに続きます)

設定	機能
Logout Timeout	<p>KL9108/KL9116 へのリモートアクセス タイムアウト時間を設定します。現在アクセスしているコンピュータから、ここで設定された一定の時間、何も入力データを受け取らなかった場合、そのセッションを終了します。0～30 分の値を設定してください。デフォルトは 30 分です。0 分で設定するとこの機能を無効にします。</p>
Beeper	<p>ブープ音の設定を行います。ON が設定されると、ポートが変更された時、オートスキャン機能 (p.112 をご参照ください) が有効になっている時、OSD メニューで無効な入力がされた時にそれぞれブープ音が鳴ります。デフォルトは ON に設定されています。</p>
Change Password	<p>現在ログインしているユーザーのパスワードを変更することができます。「Change Password」ボタンをクリックすると、「Change Password」ダイアログが表示されます。現在のパスワード (Old password)、新しいパスワード (New Password)、確認用パスワード (Confirm Password) を入力し、「OK」ボタンを押して変更してください。変更を取り消す場合は「Cancel」ボタンを押してください。</p>

Administration タブ

Administration タブをクリックすると、KL9108/KL9116 の管理メニューが表示されます。Administration タブの各機能は、タブ内左側のアイコンをクリックすることをご利用いただけます。Administration タブの初期表示時には General メニューの内容が表示されます。



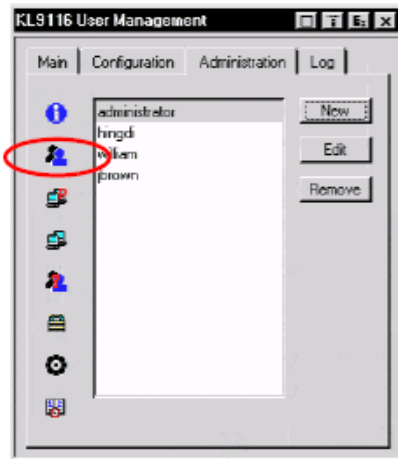
General メニュー

Generalメニューでは4つの項目を管理していますが、これはWebブラウザでログインした直後に表示されるもの、またはブラウザのメイン画面の左上にある General アイコンをクリックしたときに表示されるものと同じです。各項目の内容は以下の表のとおりです。

項目	用途
Device Name	複数 KVM スイッチの使用時にコンピュータの管理を容易にするために、各スイッチに名前をつけることができます。管理者によって設定されたデバイスネームがここに表示されます。
MAC Address	KL9108/KL9116 の MAC アドレスがこの欄に表示されます。
Firmware Ver	KL9108/KL9116 に現在インストールされているファームウェアのバージョンが表示されます。新しいバージョンのファームウェアをダウンロードする場合などに、バージョンを確認することができます。
Last IP from DHCP server	現在設定されている IP アドレスが表示されます。DHCP をお使いの環境で KL9108/KL9116 を導入された場合でも、この項目で KL9108/KL9116 に設定されている IP アドレスを確認することができますので、便利にお使いいただけます。

User Management メニュー

User Management メニューではユーザープロフィールの作成・管理を行います。KL9108/KL9116 は最大 64 ユーザーのプロフィールの作成が可能です。



- ◆ ユーザーを削除する場合は、リストから削除対象となるユーザーを選択し、「**Remove**」ボタンを押します。
- ◆ ユーザー情報を変更する場合は、リストから変更対象となるユーザーを選択し、「**Edit**」ボタンを押します。
- ◆ ユーザーを追加する場合は、「**New**」ボタンを押します。

「Edit」ボタン、または「New」ボタンを押すと、以下のようなダイアログが表示されます。

ダイアログにはユーザー登録・編集に必要な項目が表示されていますので、新規ユーザーの場合は新規入力、また、既存ユーザーの場合はダイアログの内容を編集してください。ダイアログにおける各項目の詳細は以下のとおりです。

項目	説明
Username	英数最小 6 文字、最大 15 文字で設定してください。
Password	英数最小 8 文字、最大 15 文字で設定してください。
Confirm Password	パスワード確認用の項目です。「Password」の項目で設定した内容と同じ文字列を設定してください。
Description	必要であればユーザーに関する追加情報を入力してください。(オプション)
Admin	このラジオボタンを選択すると、該当ユーザーは KL9108/KL9116 に対してアドミニストレーターレベルのアクセスが可能になります。この操作ですべてのアドミニストレーター権限が付与されます。(権限の詳細については、本表の「Permissions」の項目をご参照ください)
User	このラジオボタンを選択すると、該当ユーザーは KL9108/KL9116 に対して Windows クライアント、電源管理、Java クライアントの操作が可能になります。(権限の詳細については、本表の「Permissions」の項目をご参照ください)
Select	アドミニストレーターによって設定された権限が Admin または User のいずれのデフォルトアクセスレベルにも合致しない場合、この内容が自動的に設定されます。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Permissions	<p>これらの項目は Select ラジオボタンと併用し、お使いの環境に合わせて Admin および User の各レベルのデフォルト権限とは異なる権限をカスタマイズすることができます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「Administration」の項目にチェックを入れると、該当ユーザーにアドミニストレーター権限が与えられ、KL9108/KL9116 の Administration タブにある項目の設定や変更が可能になります。 2. 「Windows Client」の項目にチェックを入れると、該当ユーザーは Windows クライアントによる KL9108/KL9116 へのアクセスが可能になります。 3. 「Log」の項目にチェックを入れると、該当ユーザーはログファイルの参照が可能になります。ログ参照権限のあるユーザーがログインすると、Web のメインページでは「Log」および「Log Server」のボタンが、また、OSD メニューでは Log タブがそれぞれ表示されます。 4. 「Power Manager」の項目にチェックを入れると、該当ユーザーは KL9108/KL9116 による Power Over the Net™への接続が可能になります。また、この権限のあるユーザーがログインすると Web 画面に「PON」ボタンが表示されるようになります。 5. 「Java Client」の項目にチェックを入れると、該当ユーザーは Java クライアントによる KL9108/KL9116 へのアクセスが可能になります。
Port Access	<p>アドミニストレーターおよびアドミニストレーター権限を持つユーザーによって、ユーザーレベルでの各ポートに対するアクセス権を定義することができます。</p> <p>Full—ユーザーは画面の参照、および、キーボード・マウスを使用した操作が可能です。</p> <p>View—アイコン上に斜線マークが表示されると、そのポートのアクセス権が読み取り専用設定されていることを表します。ユーザーはリモートスクリーンの参照は可能ですが、キーボード・マウスを使用した操作はできません。</p> <p>Null(アクセス権なし)—アイコン上に×マークが表示されると、そのポートにはアクセス権がないことを表します。この設定が適用されると、そのユーザーには一覧にポート自体が表示されなくなります。</p>

KL9116 User Management

Username:

Password:

Confirm Password:

Description:

Admin User Select

Permissions:

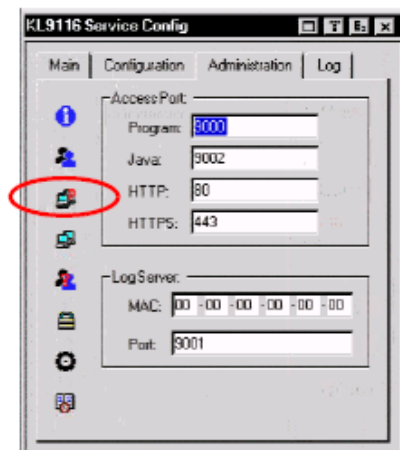
<input checked="" type="checkbox"/> Administration	<input checked="" type="checkbox"/> Power Manager
<input checked="" type="checkbox"/> Windows Client	<input checked="" type="checkbox"/> Java Client
<input checked="" type="checkbox"/> Log	<input type="checkbox"/> Force to Grayscale

Port Access:

<input checked="" type="checkbox"/> 01	<input type="checkbox"/> 02	<input type="checkbox"/> 03	<input type="checkbox"/> 04	<input type="checkbox"/> 05	<input type="checkbox"/> 06	<input type="checkbox"/> 07	<input type="checkbox"/> 08
<input type="checkbox"/> 09	<input type="checkbox"/> 10	<input type="checkbox"/> 11	<input type="checkbox"/> 12	<input type="checkbox"/> 13	<input type="checkbox"/> 14	<input type="checkbox"/> 15	<input type="checkbox"/> 16

OK Cancel

Service Configuration メニュー



Access Port

セキュリティ対策として、お使いの環境でファイアウォールをお使いの場合、アドミニストレータはファイアウォールで開放するポートを KL9108/KL9116 で設定しなければなりません。ポート番号が無効、またポート番号が入力されていない場合、KL9108/KL9116 は外部から検出することができません。

各項目の詳細は以下のとおりです。

項目	内容
Program	Windows クライアントソフトウェアが接続するときに指定するポート番号です。有効なエンタリは 1024～60000、デフォルト値は 9000 です。
Java	Java クライアントが接続するときのポート番号です。有効なエンタリは 0～65535 です。0を設定するとJavaクライアント機能が無効になり、ユーザーはJavaクライアント経由で KL9108/KL9116 に接続できなくなります。デフォルト値は 9002 です。
HTTP	ブラウザログインに使用するポート番号です。デフォルトは 80 です。
HTTPS	セキュアなブラウザログインに使用するポート番号です。デフォルトは 443 です。

- 注意:**
1. イン트라ネット等ファイアウォールをお使いにならない環境では、ここにどのような値が設定されても KL9108/KL9116 には反映されません。
 2. アクセスポートおよびログサーバで使用するポートは、すべて異なるポート番号を設定するようにしてください。

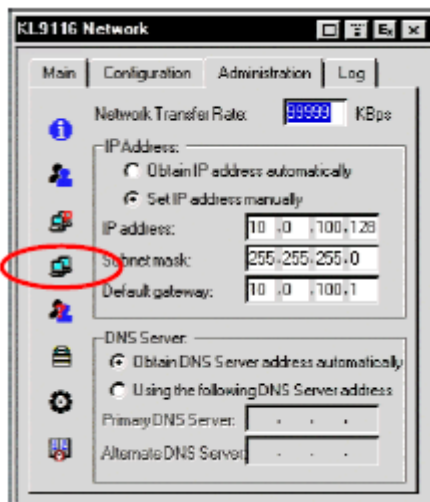
Log Server

ログインやシステムメッセージ等 KL9108/KL9116 で起こる重要なイベントについては自動的にログファイルが作成されます。このパネルでは、ログサーバの MAC アドレスおよびポート番号を設定します。

ログサーバの設定と操作については第 8 章で説明しています。ログファイルについては p.131 で説明しています。

Network メニュー

Network メニューは、KL9108/KL9116 のネットワーク環境を設定する場合に使用します。



Network Transfer Rate

KL9108/KL9116 のリモートアクセスの際のネットワーク帯域を制限します。
有効な値は 8～99999KBps (キロバイト/秒) です。

IP Address

KL9108/KL9116 は動的に割り当てられた IP アドレス (DHCP)、または静的 IP アドレスのいずれかを設定することができます。

- ◆ 動的 IP アドレスを取得するには、「Obtain an IP address automatically」のラジオボタンを選択してください。
- ◆ 静的 IP アドレスを使用する場合は「Set IP address manually」のラジオボタンを選択し、使用する IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイをそれぞれ入力してください。

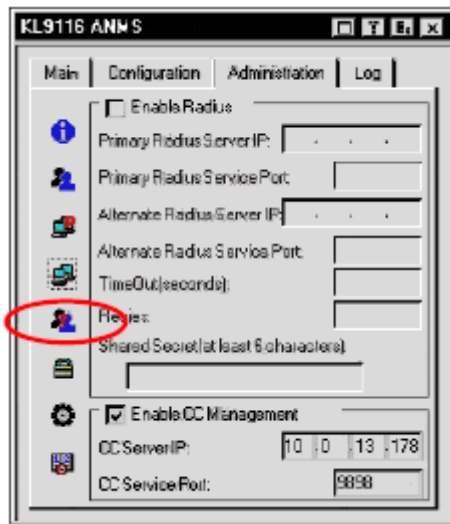
DNS Server

KL9108/KL9116 は DNS サーバの自動設定、手動設定がいずれも可能です。

- ◆ DNS サーバを自動的に設定する場合は、「Obtain DNS server address automatically」のラジオボタンを選択してください。
- ◆ DNS サーバを手動で設定する場合は、「Using the following DNS server address」のラジオボタンを選択し、優先 DNS サーバ、代替 DNS サーバの IP アドレスをそれぞれ入力してください。

ANMS

ANMS(Advanced Network Management System)ダイアログボックスは外部認証に関する設定を行います。



1. RADIUS サーバを有効にする場合は「Enable」にチェックしてください。
2. RADIUS サーバの IP アドレスおよび通信に使用するポートの内容を以下のフィールドに設定してください。
 - Primary Radius Server IP
 - Primary Radius Service Port
 - Alternate Radius Server IP
 - Alternate Radius Service port
3. 「Timeout」フィールドに、KL9108/KL9116 における RADIUS サーバからの応答待機時間(秒)を入力してください。
4. 「Retries」フィールドに、再試行回数を入力してください。
5. 「Shared Security」フィールドに KL9108/KL9116・RADIUS サーバ間の認証で使用する共有シークレットの文字列を入力します。

RADIUS パラメーター一覧表

RADIUS サーバ側で KL9108/KL9116 操作権限に関するパラメータを設定する場合は、以下の表を参考にしてください。

文字列	内容
C	ユーザーに対してアドミニストレーターの権限を付与し、そのユーザーによるシステム設定を許可します。
W	ユーザーによる Windows クライアント経由でのアクセスを許可します。
J	ユーザーによる Java クライアント経由でのアクセスを許可します。
P	ユーザーによる KL9108/KL9116 に接続された Power Over the Net™へのアクセスを許可します。
L	ユーザーによるブラウザ上のログ情報へのアクセスを許可します。
PN	OSD のポート一覧における、ユーザーによる特定ポートへのアクセスを制限します。 構文例 : PN/1/2/3/4
PV	OSD のポート一覧における、ユーザーによる特定ポートの参照を制限します。 構文例 : PV/1/2/3/4
UHK	OSD のホットキーを設定します。(p.エラー! ブックマークが定義されていません。参照) UHK0 : Scroll Lock + Scroll Lock UHK1 : Ctrl + Ctrl 構文例 : UHK0
UOL	OSD リスト機能を定義します。(p.52 参照) UOL0 : All UOL1 : Powered On UOL2 : Quick View UOL3 : Quick View + Powered On 構文例 : UOL0
UODM	ポートID の表示方法を選択します。(p.59 参照) UODM0 : Port Number + Port Name UODM1 : Port Number UODM2 : Port Name 構文例 : UODM0

(表は次のページに続きます)

文字列	内容
UODT	ポート変更後におけるポートIDのモニタ表示時間(秒)を設定します。(p.59参照) 構文 : UODT n (n は0~255の範囲の値を表します)
UBUZ	ビープ音のオン/オフを切り替えます。(p.59参照) UBUZ0 : ビープ音オフ UBUZ1 : ビープ音オン 構文例 : UBUZ0
ULT	ログアウトタイムアウトの時間(分)を設定します。ここで設定した時間、ユーザーからの入力がない場合、ユーザーはシステムによって自動的にログアウトされ、その後に操作する場合は再びログインする必要があります。有効なログアウトタイムアウトの値の範囲は0~180(分)です。 構文 : ULT n (n は0~180の範囲の値を表します)
USM	ユーザーがオートスキャンモードでアクセスできるコンピュータを選択します。(スキャン選択については p. 59 を参照) USM0 : All USM1 : Powered On USM2 : Quick View USM3 : Quick View + Powered On 構文例 : USM0
UST	オートスキャンモードで各ポートを表示する時間(秒)を設定します。(スキャン時間については p. 59 参照) 構文 : UST n (n は0~255の範囲の値を表します)

- 注意:**
1. ここで使用される文字列は大文字・小文字を区別しませんので、どちらで入力しても有効な値としてみなされます。
 2. 各文字列はカンマで区切られている必要があります。
 3. 設定に無効な文字列が入力されると、ユーザーが KL9108/KL9116 にアクセスできなくなるおそれがありますので、正しく入力してください。

RADIUS パラメータ設定例

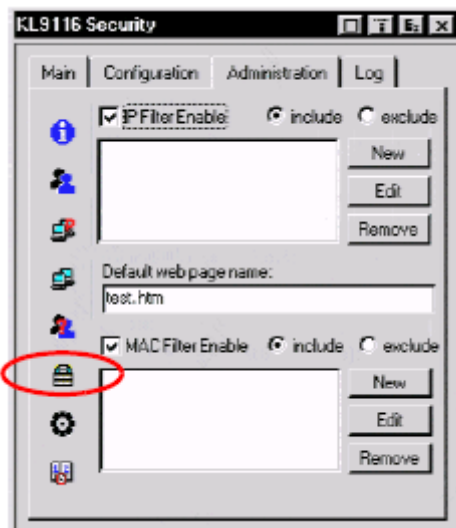
パラメータ	内容
c,w,p	ユーザーは アドミニストレーター権限/Windows クライアント使用/PN9108 の利用が可能です。
w,j,l	ユーザーは Windows クライアント使用/Java クライアント使用/ログ閲覧が可能です。

CC Management Settings

外部認証のために ATEN の CC マネージメントソリューションを導入している場合は、Enable CC Management のチェックボックスをオンにして、CC サーバの IP アドレスおよび適切なポートを設定してください。

Security メニュー

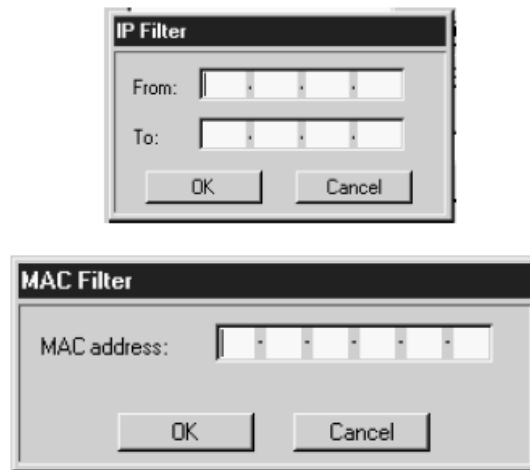
Security メニューは、KL9108/KL9116 へのアクセス権限を設定します。



IP Filter と Mac Filter

- ◆ IP フィルターおよび MAC フィルターは、特定の IP アドレスおよび MAC アドレスによる KL9108/KL9116 へのアクセスを許可/禁止します。IP フィルターおよび MAC フィルターは最大でそれぞれ 100 項目設定することができます。IP フィルターを有効にする場合は「IP Filter Enable」に、MAC フィルターを有効にする場合は「MAC Filter Enable」にそれぞれチェックを入れてください。
 - 「include」ラジオボタンが選択されると、設定されたフィルターの範囲のアドレスによるアクセスをすべて許可し、それ以外のアドレスによるアクセスは拒否されます。
 - 「exclude」ラジオボタンが選択されると、設定されたフィルターの範囲のアドレスによるアクセスをすべて拒否し、それ以外のアドレスによるアクセスは許可されます。

- ◆ フィルター項目を追加する場合は、「New」ボタンを押してください。以下のようなダイアログが表示されます。



注意: フィルター項目は、単一アドレスによる指定およびアドレス範囲の指定の両方が可能です。単一アドレスをフィルタリングする場合は、始点と終点のアドレスに同一アドレスを設定してください。また、フィルタリング対象となるアドレスの範囲を指定する場合は From 欄に始点となるアドレスを、また、To 欄に終点となるアドレスをそれぞれ設定してください。

アドレスの設定が完了したら「OK」ボタンを押してください。

- ◆ フィルター項目を削除する場合は、リストから対象となる項目を選択し、「Remove」ボタンを押してください。
- ◆ フィルター項目の内容を変更する場合は、同様にリストから項目を選択した後に「Edit」ボタンを押してください。編集用のダイアログボックスは、追加用のダイアログボックスと同じように入力フィールドを設けておりますので、フィールドを新しい設定内容に修正した後に「OK」ボタンを押してください。

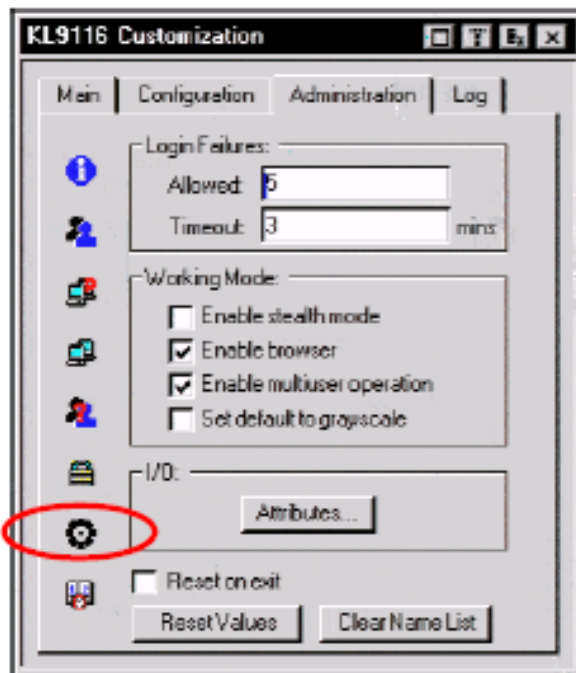
Default Webpage Name

- ◆ 「Default Java program name」の項目では、Web ブラウザから KL9108/KL9116 にアクセスする際に、ユーザーが接続しなければならないページ名の設定を行います。
設定例) 192.168.0.126/abcdefg
- ◆ ユーザーはブラウザでアクセスする際に IP アドレスの後ろにスラッシュを続けて、その後ろにこの文字列を入力しなければなりません。セキュリティ上の観点からも、定期的にこのページ名を変更することをお勧めします。

-
- 注意:**
1. この項目が設定されていないと、IP アドレスを指定するだけで誰でも簡単に KL9108/KL9116 にアクセスすることができてしまいます。KL9108/KL9116 を安全な状態でお使いいただくためにも、この項目は必ず設定してください。
 2. ここに何も入力されていないと、KL9108/KL9116 は Java クライアントからアクセスできません。
-

Customization メニュー

Customization メニューは以下の 4 つのセクションから構成されています。



Login Failures

- ◆ **Allowed:** リモートからのログイン失敗時における再試行可能回数を指定します。
- ◆ **Timeout:** ログインに連続して失敗したコンピュータは、ここで指定された時間が経過するまでは再度ログインすることができません。

Working Mode

- ◆ 「Enable stealth mode」にチェックが入っている場合は、KL9108/KL9116 に対する ICMP メッセージのエコー要求パケットを拒否します。
- ◆ ブラウザによる KL9108/KL9116 へのアクセスを許可する場合は、「Enable browser」にチェックを入れてください。この項目にチェックが入っていないと、ブラウザでのログインができません。
- ◆ 「Enable multiuser operation」の項目にチェックが入っている場合、最大 32 ユーザーによる KL9108/KL9116 への同時ログインが可能になります。

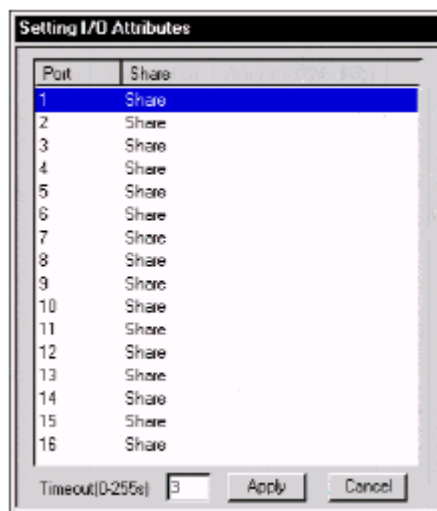
■I/O

Attributes

「Attributes」ボタンを押すと、各ポートの属性パラメータを設定することができます。

ポートの属性を変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. Customization メニューにある「Attributes...」ボタンをクリックしてください。このボタンをクリックすると、「Setting I/O Attributes」ダイアログが表示されます。このダイアログでは、左側にポート番号が、右側にポートの属性がリスト形式で表示されます。



2. 属性を変更するポートを選択し、ダブルクリックしてください。以下のような「I/O Attributes」ダイアログが表示されます。



3. ポートの共有モードを以下の中から選択してください。

属性	内容
Exclusive	最初に切替操作を行ったユーザーが、このポートに対して排他的に操作をすることができます。他のユーザーはこのポートを参照することができません。この項目に設定されたポートに対して、タイムアウト機能は無効になります。
Occupy	最初に切替操作を行ったユーザーが、このポートを操作することができますが、最大 32 名のユーザーがこのポートを参照することができます。このポートを操作中のユーザーが、タイムアウトの項目で設定された一定期間操作を行わなかった場合、ポートの制御権限は、タイムアウト時間経過後、最初にキーボードまたはマウスの入力をしたユーザーに移ります。
Share	最大 32 名のユーザーがこのポートを同時に共有することができます。ユーザーからの入力はキューに格納され、受付順に処理されます。このモードに設定されると、ユーザーはメッセージボード機能を利用することができ、共有ポートに対してキーボード・マウス・モニタ、またキーボード・マウスをそれぞれ操作することができます。(p.102「メッセージボード」参照)

4. 「OK」ボタンをクリックしてください。(変更内容を保存せずメニューを終了する場合は、「Cancel」ボタンをクリックしてください。)この操作でダイアログが終了します。
5. 「Setting I/O Attributes」ダイアログで、「Apply」ボタンを押し、変更内容を設定に反映させてください。(変更内容を保存せずメニューを終了する場合は、「Cancel」ボタンをクリックしてください。)

Timeout

タイムアウトの設定は「I/O attribute」ダイアログでポートが「Occupy」に設定された場合に適用されます。他のユーザーがポート操作を待機しているときに、現在ポートを操作中のユーザーがタイムアウトするまでの時間(0~255 秒)をこの項目で定義します。デフォルトは 3 秒です。0 秒で設定すると、この機能は無効(タイムアウトしない)にします。

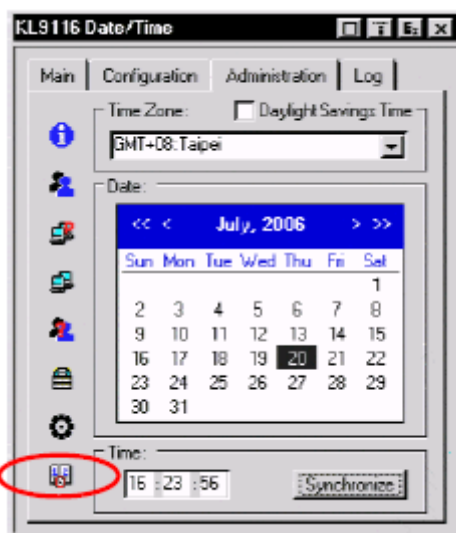
その他の機能

Customization メニューにおけるその他の機能については、以下の表をご参照ください。

項目	説明
Reset on Exit	この項目にチェックを入れると、現在のセッションからログアウトした際に KL9108/KL9116 をリセットし、新しい変更内容を反映します。リセットを行った場合は 30～60 秒間待機してから再ログインしてください。例えば、Network メニューで IP アドレスを変更した場合、この項目にチェックを入れてからログアウトしないと、変更が反映されません。
Reset Values	このボタンを押すと、ポートネーム、ユーザーネーム、パスワードの変更を除いて、Configuration タブおよび Administration タブに加えられた変更がすべてキャンセルされ、パラメータを工場出荷時の内容に戻します。
Clear Name List	このボタンを押すと、Main タブに表示されているポートネームをクリアします。

Date/Time メニュー

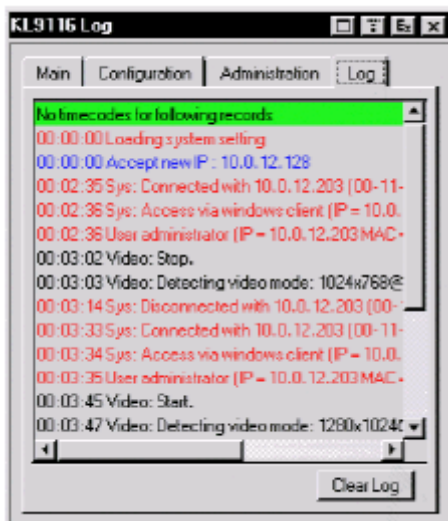
Date/Time メニューでは、アドミニストレーターがKL9108/KL9116の日付・時刻の設定を行うことができます。



- ◆ お使いのKL9108/KL9116がセットアップされている国または場所が、夏時間(サマータイム)を導入している場合は、「Daylight Savings Time」の項目にチェックを入れてください。
- ◆ タイムゾーンを設定するには、「Time Zone」のドロップダウンリストから設置された場所に最も近い都市を選択してください。
- ◆ 年月日を設定するには「Date」パネルのカレンダー画面を使用します。
 - 「<<」と「>>」で年を変更します。
 - 「<」と「>」で月を変更します。
 - 年と月を設定した後、カレンダーから日を選択・クリックしてください。
- ◆ 時間の設定は24時間制でHH:MM:SS(時:分:秒)の形式で入力してください。
- ◆ 「Synchronize」ボタンをクリックし、変更内容を保存してください。

Log タブ

Log タブでは KL9108/KL9116 のイベントログの内容を確認することができます。ログファイルについては第 8 章で説明しますので、そちらをご参照ください。



ファームウェアアップグレード

新しいバージョンのファームウェアが公開されたら、弊社 Web サイトでダウンロードすることができます。ファームウェアを最新の状態に保つためにも定期的に弊社 Web サイトを確認してください。<http://www.aten.com/download/download.php>

注意: ファームウェアアップグレードは OSD メニューには含まれていませんが、管理者に限定された機能であるため、この章で説明します。

ファームウェアのアップグレードは以下の手順に従って行ってください。

1. KL9108/KL9116 にローカル接続されているコンピュータ以外の端末に新しいファームウェアのファイルをダウンロードしてください。
2. ファイルをダウンロードしたコンピュータで Web ブラウザを開き、KL9108/KL9116 にログインしてください。(p.84 参照)
3. **Firmware** アイコンをクリックしてファームウェアアップロードメニューを表示させます。



4. 「**Browse**」ボタンをクリックし、ダイアログからファームウェアをダウンロードしたディレクトリに移動し、ファイルを選択します。
5. 「**Upgrade**」ボタンをクリックします。
6. アップロードが終了したら、**Logout** アイコンをクリックしてログアウトし、KL9108/KL9116 をリセットしてください。

第5章 ブラウザ操作

概要

KL9108/KL9116 のコンピュータ操作は OSD (オンスクリーンディスプレイ) インターフェースによって管理されます。OSD には Windows ベースのクライアント、Java ベースのクライアントでアクセスします。KL9108/KL9116 への接続および OSD の呼び出しは Web ブラウザを利用してのログインからスタートします。

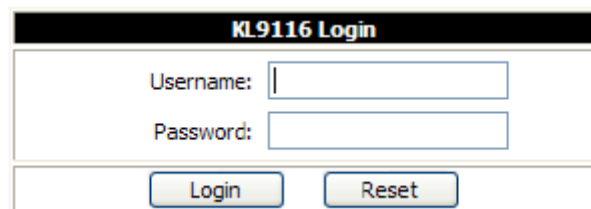
ログイン

Web ブラウザからログインする場合は、以下の手順で操作してください。

1. ブラウザを開き、アクセスしたい KL9108/KL9116 の IP アドレスをブラウザの URL バーに入力します。

注意: IP アドレスがわからない場合は、KL9108/KL9116 の管理者に問い合わせてください。

2. 「Security Alert」ダイアログボックスが表示されますので、内容を確認し、この証明書を受け入れてください。(詳細は p.155「信頼された証明書」を参照)
3. 以下のようなログインページが表示されます。



The image shows a web browser window displaying a login page for KL9116. The page has a black header with the text 'KL9116 Login' in white. Below the header, there are two input fields: 'Username:' and 'Password:'. At the bottom, there are two buttons: 'Login' and 'Reset'.

4. KL9108/KL9116 の管理者から提供された有効なユーザーネームとパスワードを入力し、「Login」をクリックしてください。

-
- 注意:**
1. 無効なユーザーネームとパスワードを入力した場合、「Invalid Username or Password. Please try again.」という警告メッセージが表示されます。入力エラーが管理者によって設定された回数を超えると「The Page cannot be displayed」というメッセージが表示されます。これは悪意のあるアクセスが複数試行によって有効なユーザーネームとパスワードを発見することを防ぐためです。このメッセージが表示されたら KL9108/KL9116 にログインしなおしてから、注意してユーザーネームとパスワードを入力してください。
 2. アドミニストレーターとして初めてログインする場合には、デフォルトのユーザーネームとパスワードを使用してください。

デフォルトユーザーネーム: administrator

デフォルトパスワード: password

セキュリティの面から、デフォルトのユーザーネームとパスワードを変更してオリジナルのユーザーネームとパスワードを作成することを強く推奨します (p.58 の「User Management メニュー」参照)。

ログインに成功すると KL9108/KL9116 のメイン Web ページが General メニューとともに表示されます。







-
- 注意:** この画面は Web ページの左上部の General アイコンをクリックしたときと同じものです。
-

Web メニューのレイアウト

Web メニューのアイコン

Web ページ上部におけるアイコンから提供される各メニューに関する詳細は以下のとおりです。

アイコン	機能
General 	このアイコンをクリックすると General メニューを表示します。General メニューの各表示項目については P.**をご参照ください。
Sync 	このアイコンをクリックするとお使いのコンピュータの時計と KL9108/KL9116 の時計を同期させます。 <ul style="list-style-type: none">◆ KL9108/KL9116 とお使いのコンピュータが同じタイムゾーンにある場合、KL9108/KL9116 の時間がコンピュータの時間に設定されます。◆ KL9108/KL9116 とお使いのコンピュータが異なるタイムゾーンにある場合も、KL9108/KL9116 の時間がコンピュータの時間に設定されます。
Firmware 	KL9108/KL9116 の新しいバージョンのファームウェアをインストールする場合は、このアイコンをクリックしてください。詳細に関しては、p.83 に記載されている Web ブラウザ使用時のファームウェアのアップグレードの方法をご参照ください。 注意: このアイコンはアドミニストレーター権限を持つユーザーのみに表示されます。それ以外のユーザーがログインしても、Web メニューには表示されません。
Logout 	KL9108/KL9116 のセッションを終了する場合は、必ずこのアイコンをクリックしてログアウトしてください。マルチユーザーモードでない時にログアウトせずにブラウザを閉じてしまった場合、再度ログイン可能になるまでに、数分ほど前回のログインのタイムアウトを待つ必要があります。

General メニュー

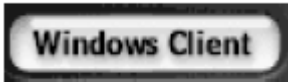

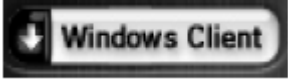
General メニューの各項目に関する説明は以下のとおりです。

項目	用途
Device Name	各スイッチに名前をつけることができるため、複数の KVM スイッチを導入された環境においても簡単にデバイスを管理することができます。この欄には管理者によって設定されたデバイスネームが表示されます。
MAC Address	KL9108/KL9116 の MAC アドレスがこの欄に表示されます。
Firmware Version	KL9108/KL9116 に現在インストールされているファームウェアのバージョンが表示されます。
Reset on exit	OSD で変更した設定の内容を保存する場合は、KL9108/KL9116 に設定内容を反映するためにこの項目にチェックを入れてからログアウトしてください。 注意: この項目はアドミニストレーター権限のあるユーザーのみ有効な機能です。
Last IP from DHCP server	KL9108/KL9116 に現在設定されている IP アドレスが表示されます。

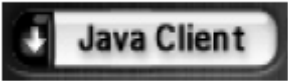
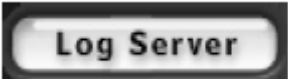
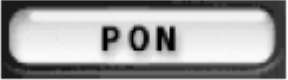

注意: KL9108/KL9116 の新しいファームウェアは弊社 Web サイトよりダウンロードできます。詳細は p.83 をご参照ください。

Web ページのボタン

Web ページ左側に表示されている各ボタンに関する詳細は以下のとおりです。

アイコン	用途
	<p>KL9108/KL9116 に接続されたコンピュータをリモートから操作する場合は、このボタンをクリックして Windows クライアントをダウンロードしてください。</p> <p>注意:このアイコンでダウンロードする Windows クライアントは 1 セッション限りの操作が可能な仕様です。Web メニューからログアウトした後で、同じ Windows クライアントを使いまわすことはできません。このクライアントを使用する場合は、Web ブラウザでのログインの都度ダウンロードしてください。</p>
	<p>Java クライアントはプラットフォームから独立しておりますので、Java がインストールされているコンピュータであればこのソフトウェアを使って KL9108/KL9116 に接続することができます。</p> <p>KL9108/KL9116 をリモートから操作する場合は、このボタンをクリックして Java クライアントをダウンロードしてください。</p> <p>注意:このアイコンでダウンロードする Java クライアントは 1 セッション限りの操作が可能な仕様です。Web メニューからログアウトした後で、同じ Java クライアントを使いまわすことはできません。このクライアントを使用する場合は、Web ブラウザでのログインの都度ダウンロードしてください。</p>
	<p>Web ブラウザによる KL9108/KL9116 へのアクセスが制限された環境であっても、このメニューから Windows クライアントをダウンロード・配布することで Windows クライアントがご利用いただけます。言い換えると、管理者はこの Windows クライアントをダウンロードし、ユーザーに配布してから、Web ブラウザからのアクセス機能を無効に設定することでブラウザからのアクセスを制限することができます。アプリケーション版 Windows クライアントの詳細に関しては第 9 章で詳しく説明しますので、そちらをご参照ください。</p>

(表は次のページに続きます)

アイコン	用途
	<p>WebブラウザによるKL9108/KL9116へのアクセスが制限された環境であっても、このメニューからJavaクライアントをダウンロード・配布することでJavaクライアントがご利用いただけます。言い換えると、管理者はこのJavaクライアントをダウンロードし、ユーザーに配布してから、Webブラウザからのアクセス機能を無効に設定することでブラウザからのアクセスを制限することができます。アプリケーション版Javaクライアントの詳細に関しては第9章で詳しく説明しますので、そちらをご参照ください。</p>
	<p>このボタンをクリックすると、管理者はログサーバアプリケーションをダウンロード・インストールすることができます。ログサーバの詳細に関しては第9章をご参照ください。</p>
	<p>KL9108/KL9116にPower Over the Net™(PON)モジュールが接続されている場合、このボタンをクリックするとPONインターフェースが起動します。</p>
	<p>KL9108/KL9116で起こるすべてのイベントはログファイルに記録されます。このアイコンをクリックするとログファイルの内容が表示されます。</p>

第6章

Windows クライアント

ブラウザ OSD の起動

ログインに成功したら(p.84 参照)、ブラウザベースの Windows クライアント OSD を以下の手順で呼び出してください。

1. Web 画面の左側に表示されている「Windows Client」ボタン(矢印がついていないほうのアイコン)をクリックしてください。

注意:

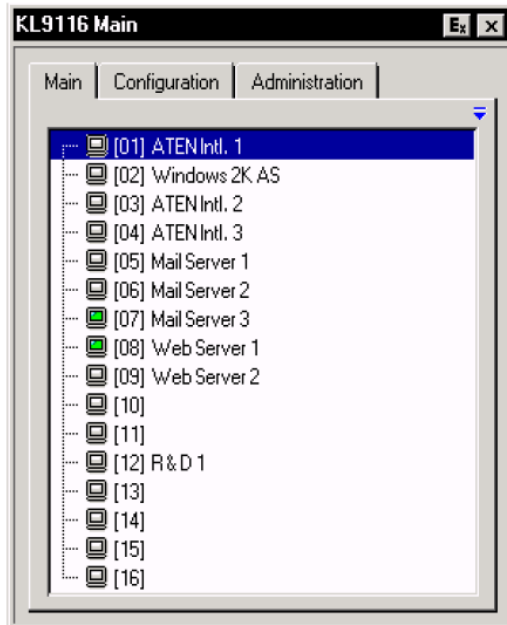
1. Windows クライアントの動作環境には DirectX 7.0 以降がインストールされている必要があります。インストールされていないとクライアントソフトウェアが起動しませんので、Microsoft のフリーダウンロードページからダウンロード・インストールしてください。
2. Web 画面の左側には「Windows Client」というアイコンが 2 つ表示されていますが、矢印のついているほうのアイコンからはアプリケーション版の Windows クライアントが提供されています。(詳細については第 9 章「ユーティリティソフトウェア」のページをご覧ください)

2. 「ファイルのダウンロードーセキュリティの警告」ダイアログが表示されますので、「**実行**」ボタンを押してください。
3. 2 つめの「セキュリティの警告」ダイアログが表示された場合も同様に「**実行する**」ボタンを押してください。

注意:

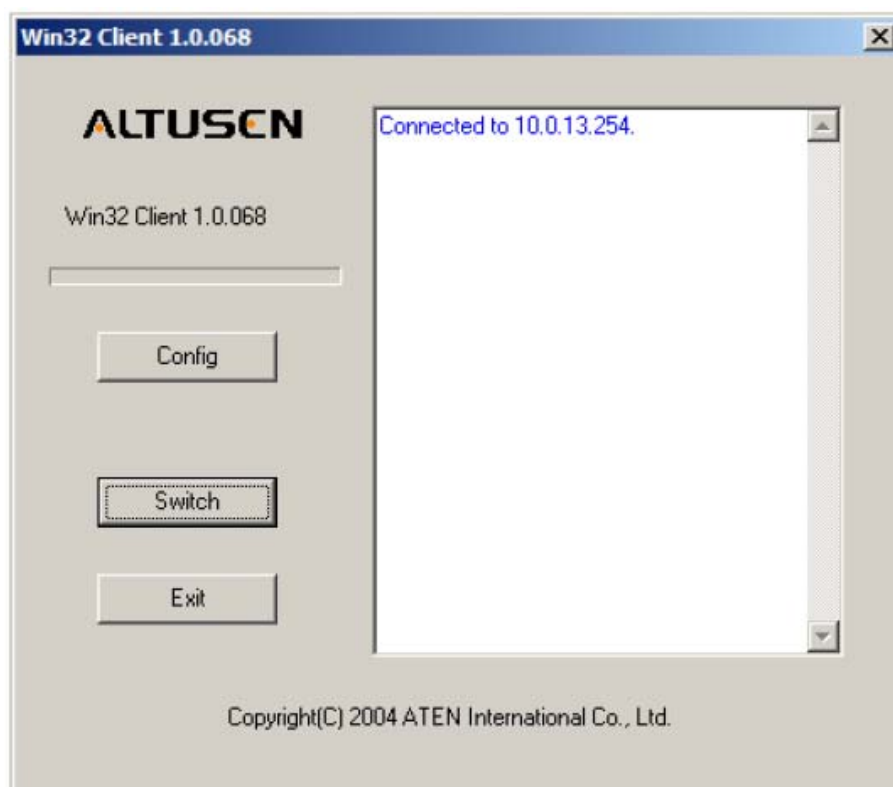
1. Web ブラウザから直接ファイルが実行できない場合は、一旦ディスクに保存し、KL9108/KL9116 の Web メニューにブラウザでアクセスしたまま、そのプログラムを実行してください。
2. プログラムを一旦ディスクに保存してから実行した場合、セキュリティのためにも以前ダウンロードし使用したプログラムを使いまわして実行せず、その都度新しいファイルをダウンロードし、そのファイルを実行してログインしてください。

4. KL9108/KL9116 への接続が確立されると、以下のような画面が表示されます。



操作をはじめる前に

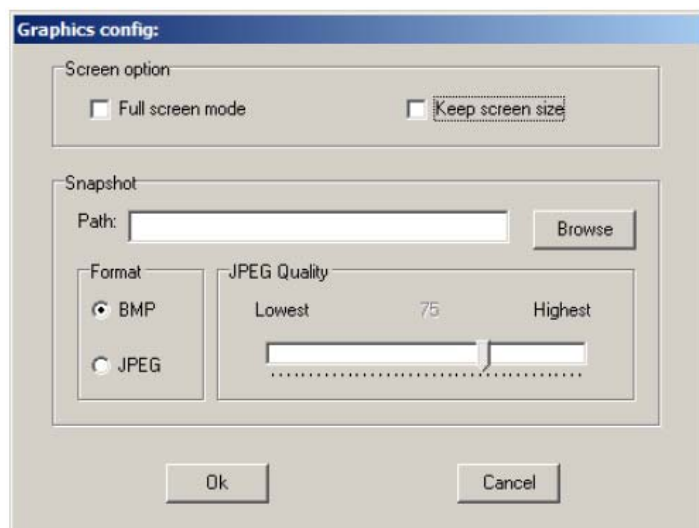
Windows クライアントの OSD 詳細の説明を行う前に、基本的なクライアント設定についてご説明します。



Windows クライアントによるリモート操作画面に切り替える前に、上図のようなウィンドウが表示されます。

ボタン	動作
Config	画面設定を行う Graphics Configuration ダイアログボックスを開きます。設定についての説明は次のページで行います。
Switch	Windows クライアントのリモート操作画面に切り替えます。
Exit	Windows クライアントを終了します。

Graphic Configuration ダイアログボックス



画面設定を行う Graphic Configuration ダイアログボックスは Screen Option と Snapshot の 2 つの項目に分かれています。

Screen Option

Screen Option はクライアントのリモート操作画面を開いたときの状態設定をします。

- *Full Screen Mode* のチェックをオンにしておくと、リモート操作画面はフルスクリーン状態で起動します。
- *Full Screen Mode* のチェックをオフにしておくと、リモート操作画面はウィンドウ状態で起動します。ウィンドウの大きさよりリモートコンピュータの解像度が大きければ、リモートのデスクトップの中央のみが表示されます。表示されていないエリアを見たい場合は、マウスカーソルをウィンドウの端に近づけると自動的に表示位置が移動します。
- *Keep Screen Size* をのチェックをオンにしておくと、リモートのデスクトップはそのままの解像度で表示されるようになります。
 - リモートコンピュータの解像度が小さい場合は、画面の中央にデスクトップが表示され、周囲は黒くなります。
 - リモートコンピュータの解像度が大きい場合は、リモートのデスクトップの中央のみが表示されます。表示されていないエリアを見たい場合は、マウスカーソルをウィンドウの端に近づけると自動的に表示位置が移動します。
- *Keep Screen Size* をのチェックをオフにしておくと、リモートのデスクトップは表示可能な大きさにリサイズされて表示されるようになります。

Snapshot

Snapshot ではユーザーがリモート操作画面のスナップショットを保存する場合の設定を行います。

- Path には、スナップショット画像データを保存するディレクトリを指定してください。
- 保存形式は BMP と JPG を選択できます。
- 保存形式 JPG を選択した場合には、右のスライダーで保存画質を選択できます。高画質で保存するとデータサイズも大きくなります。

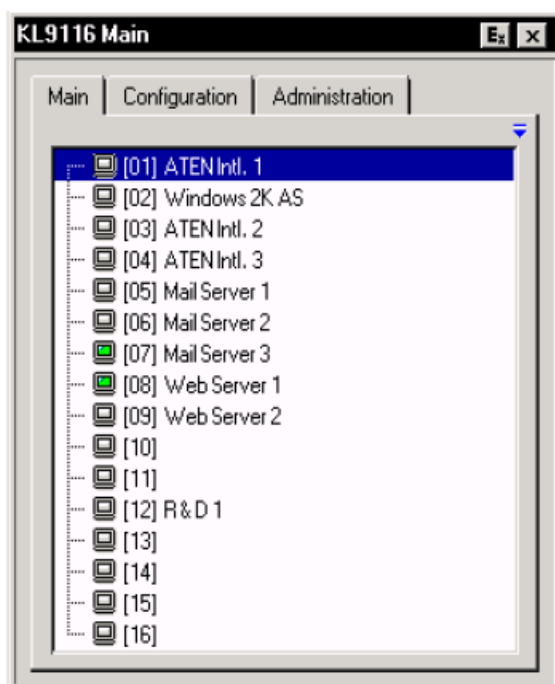
設定の保存

画面設定が終了したら、下記の手順で設定を保存してください。

1. OK をクリックしてダイアログボックスを閉じてください。
2. Switch をクリックしてクライアントの操作画面に入ってください。

Windows クライアント OSD

KL9108/KL9116 にログインすると下図のような OSD が表示されます。



OSD は **Main**、**Configuration**、**Administration** の 3 つのタブから構成されています。

注意: Administration タブは、アドミニストレーター権限がないユーザーが OSD を呼び出したときには無効になっています。

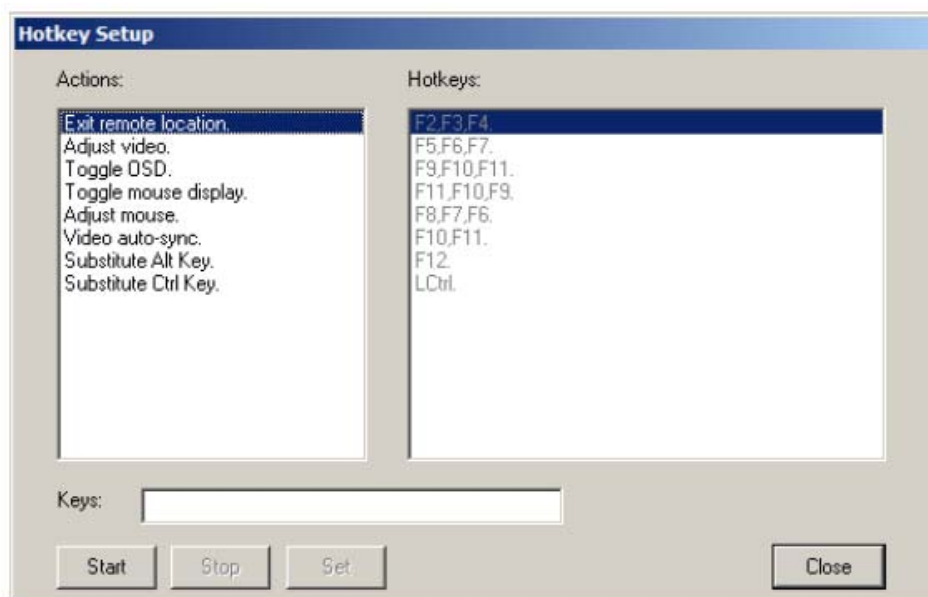
Windows クライアントコントロールパネル

このコントロールパネルは上部 1 行のアイコンバーと下部 2 行のテキストバーから構成されています。初期画面では、テキストバーにはリモートコンピュータの VGA 解像度と IP アドレスが表示されていますが、マウスポインタをアイコンの上に移動させると、テキストバーにそのアイコンの機能が表示されます。アイコンの機能の詳細については下記の表をご参照ください。

アイコン	機能
	このアイコンをクリック&ドラッグすることによって OSD スクリーンを画面上の任意の位置に移動することができます。
	このアイコンをクリックするとホットキーセットアップユーティリティが表示されます。詳細は p.97 をご参照ください。
	このアイコンをクリックするとビデオオプションダイアログボックスが表示されます。また、右クリックするとクイック Auto Sync を実行します。詳細は p.99 をご参照ください。
	リモート操作画面のフルスクリーンモード ON/OFF を行います。
	このアイコンをクリックすると、リモート操作画面のスナップショットを保存します。スナップショットデータは Graphic Configuration ダイアログボックスで設定するディレクトリに保存されます。
	クリックするとメッセージボードが表示されます。詳細は p.102 をご参照ください。
	リモートコンピュータへ [Ctrl]+[Alt]+[Del] を送信します。
	クリックするとリモート操作画面を閉じます。クライアントプログラムは終了されず、Switch をクリックすることでリモート操作画面に戻ります。
	これら 3 つのインジケータはリモートコンピュータの Num Lock、Caps Lock、Scroll Lock の各ステータスを表しています。アイコンをクリックするとそれぞれのステータスを切り替えます。 注意: KL9108/KL9116 への初回接続時には、インジケータの表示が正しくない可能性があります。ローカルの状態と同期させるために、一度インジケータをクリックして再設定してください。

ホットキー

キーボード、ビデオ、マウスの設定に関する様々な機能は、ホットキー経由で操作することができます。ホットキーセットアップユーティリティは OSD コントロールパネルのキーボードアイコンをクリックすることで呼び出せます。ホットキーセットアップユーティリティ画面は、下図のように、左側のホットキーアクション一覧と、右側の対応ホットキー一覧から構成されています。



デフォルトで設定されているホットキーの組み合わせで不都合がある場合、下記の手順で任意のファンクションキーをホットキーに割り当てることができます。

1. セットアップ画面で変更したいホットキーを選択し、「**Start**」ボタンをクリックします。
2. **[F1]～[F12]**の任意のキーを入力します。(キーは1つずつ押してください)入力したキーが Keys フィールドに表示されます。
3. 使用するキー入力を終わったら「**Stop**」ボタンをクリックします。
4. 「**Set**」ボタンをクリックします。他にも変更したい場合は同様の手順を繰り返します。
5. 「**Close**」ボタンをクリックします。

注意: 同じ組み合わせのファンクションキーを用いても、入力する順序を入れ替えれば複数のホットキー操作を割り当てることができます。ただし、この場合には最初に入力するキーを変えてください。他の入力と重複しないよう気をつけてください。

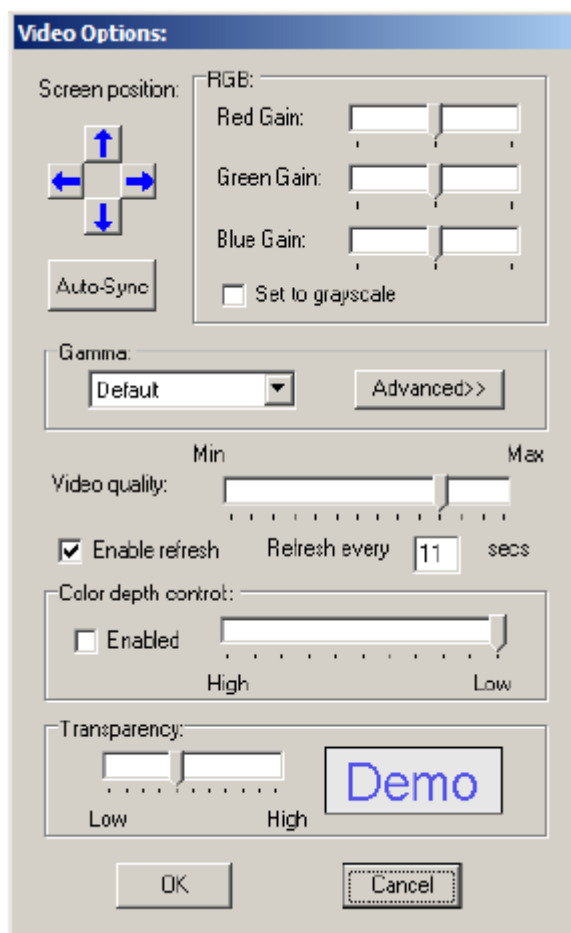
例: 以下のように**[F1] [F2] [F3]**のみを用いて異なる複数の操作を割り当てることができます。**[F1] [F2] [F3]／[F2] [F1] [F3]／[F3] [F2] [F1]**

ホットキー機能に関する詳細は下記の表の通りです。

アクション	機能説明
Exit remote location	KL9108/KL9116 との接続を切断し、ローカル操作に戻ります。
Adjust Video	ビデオアジャストユーティリティを呼び出します。
Toggle OSD	OSD の表示/非表示を切り替えます。
Toggle mouse display	Full Screen Mode 下でマウスポインタが 2 つ表示されているために、アクティブなマウスポインタがどれか分かりにくくなる状況が起こりえます。この機能を使うとリモートコンピュータのポインタを最小化します。この機能が有効になっているとき、もう一度このホットキー操作を行うと元の状態(十字ポインタ)に戻ります。
Adjust mouse	ローカルとリモートのマウスポインタ動作を解像度の設定に従って同期します。このホットキーを実行すると、リモートマウスポインタがウィンドウの左上にセットされます。ローカルマウスポインタ(十字ポインタ)をリモートマウスポインタの上に正確に重ね合わせ、左クリックすると同期が完了します。
Video Auto-sync	リモート操作画面の表示自動同期を行います。コントロールパネル上で Auto sync 操作をしたときと同じ内容です。
Substitute Alt key	KL9108/KL9116 との接続中は、[Alt] + [Tab]と[Ctrl] + [Alt] + [Delete]を除いたすべてのキーボード入力が KL9108/KL9116 側に送られます。ローカルシステムに対して[Alt] + [Tab]と[Ctrl] + [Alt] + [Delete]の機能を実行したい場合には、任意のファンクションキーを[Alt]キーの代替キーとして設定することができます。例えば代替キーとして[Alt]キーの代わりに[F12]キーを使用すると、[F12] + [Tab]、[Ctrl] + [F12] + [Delete]で同様の操作が行えます。
Substitute Ctrl key	ホットキーとして[Ctrl]キーを使用した際にお使いのシステムで不都合が生じる場合は、任意のファンクションキーを[Ctrl]キーの代替キーとして機能させることによって、この問題を回避することができます。例えば[F11]を使用すると、[F11] + [5]のキー入力はローカルコンピュータでは [Ctrl] + [5]のキー入力として処理されます。
注意:	ホットキー操作を行うとき、使用するキーは押した後すぐに離すように操作してください。押し続けている時間が長すぎると入力が無効になります。

ビデオアジャスト

「Video Options」ダイアログでは、お使いの環境に合わせてリモートモニタにおけるローカルディスプレイの表示位置および画質を調整することができます。OSD コントロールパネルのハンマーアイコンをクリックするか、Adjust Video ホットキー (p.97 参照) を入力すると、以下のような画面が表示されます。



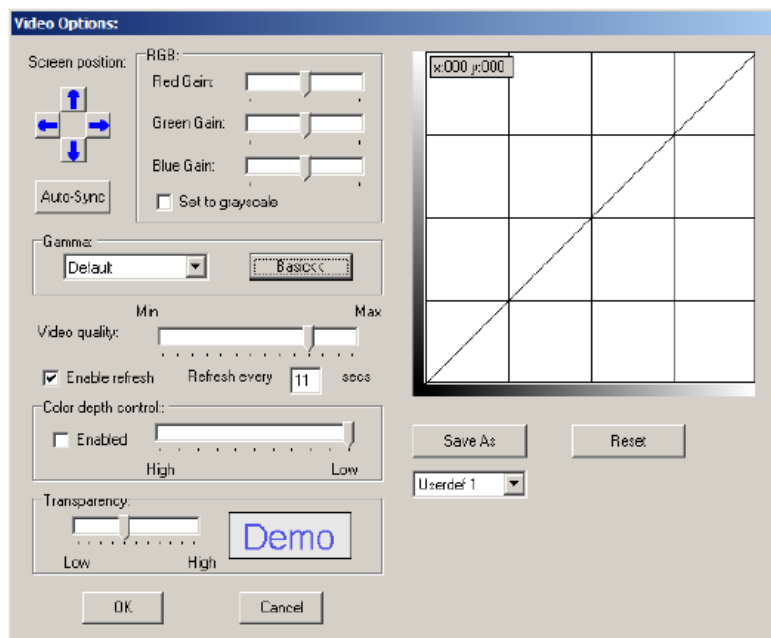
設定オプションの詳細については下表をご参照ください。

オプション	説明
Screen Position	矢印ボタンをクリックすることによってローカルディスプレイの水平方向、垂直方向の調節をします。
Auto-Sync	<p>Auto-Sync をクリックすることによってローカルディスプレイの水平方向、垂直方向をリモートディスプレイに自動同期させます。</p> <p>またローカルとリモートのマウスポインタが同期されていないとき、この機能で同期させることができます。</p> <p>注意:この機能は画面の表示が明るいときでないとは十分に効果が発揮されません。</p> <p>自動同期の結果に満足されない場合は、「Screen Position」の矢印ボタンを使って手動で設定しなおしてください。</p>
RGB	スライドバーを使って RGB (レッド、グリーン、ブルー) 値を調節します。RGB 値が調節されると、イメージの RGB 構成要素が対応して調節されます。
Gamma	ディスプレイガンマの値を調節します。この機能に関する詳細は次のセクションの「ガンマ値の調節」で説明しますので、そちらをご参照ください。
Video Quality	スライドバーを使ってビデオの画質を調節します。20～100 の範囲の値を設定できます。値が大きくなれば画質は向上しますが、それだけ多くのビデオデータが転送されることとなりますので、高い値を設定した場合お使いのネットワーク環境によってはレスポンスに要する時間に影響を与えるおそれがございます。
Enable Refresh	設定した秒数毎 (1～99 秒) に、KL9108/KL9116 のリモート操作画面を全画面リフレッシュする設定です。デフォルトではオフになっています。
Color Depth Control	リモート操作画面の表示色深度の設定を行います。High に設定するとより豊かな色彩のリモート画面を表示できますが、転送データが増加します。リモートアクセスの回線速度が十分に確保できない場合は、設定を low 側に下げて転送データを減らし、レスポンス向上が可能です。
Transparency	リモート操作画面上に表示されるツールバーを半透明にします。効果は「Demo」の文字で確認できます。

ガンマ値の調節

リモートディスプレイのガンマ値を調節する必要がある場合は、「Video Options」ダイアログの Gamma 機能を利用してください。

- ◆ Basic 設定を行う場合、リストボックスに 10 項目のプリセット値および 4 項目のユーザー定義値が表示されます。お使いのモニタに最適な値をリストボックスから選択してください。
- ◆ 更に高度な設定を行う場合は、「Advanced」ボタンをクリックしてください。以下のようなダイアログが表示されます。



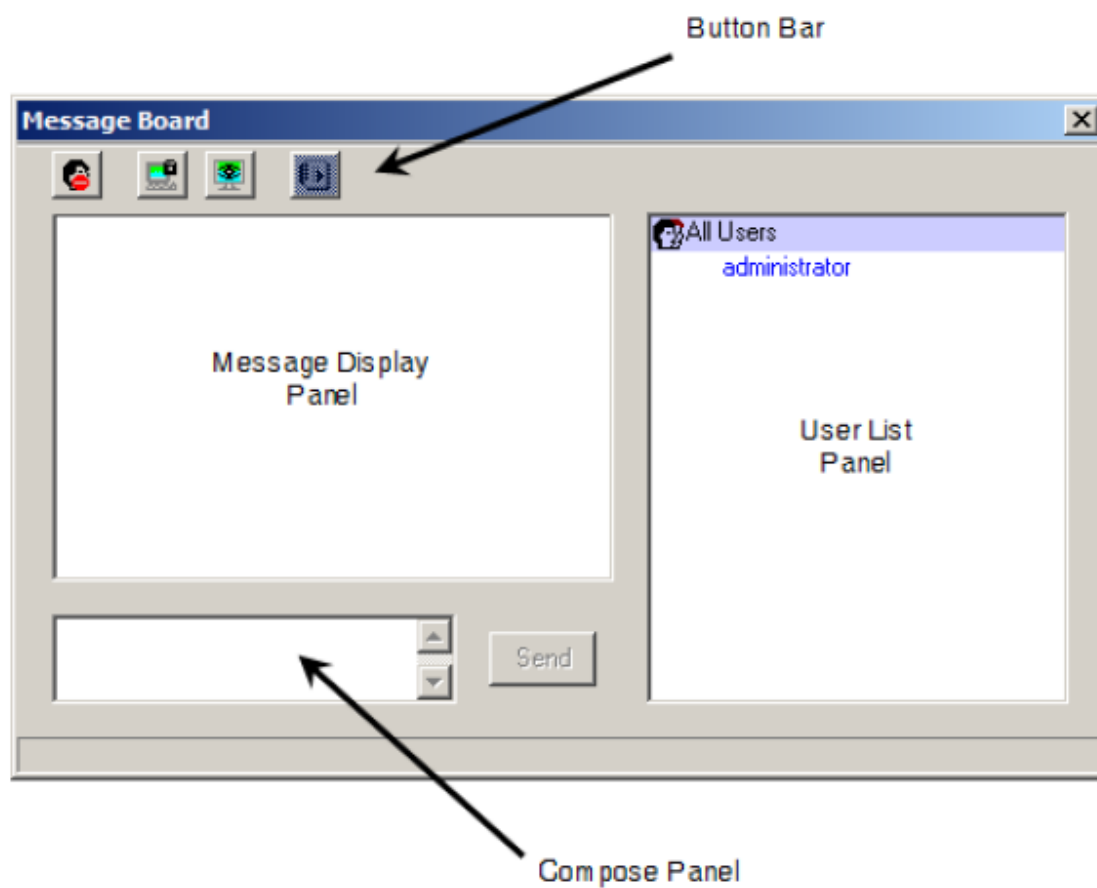
- ◆ ダイアログの右側に表示されている座標内をクリックまたは斜線をドラッグしてお使いの環境に合うように設定してください。
- ◆ ご自身で定義した値を保存する場合は、右下のリストボックスからユーザー定義項目のどの項目を使用するか選択して「Save As」ボタンをクリックします。ここで保存した設定値は、左側のリストボックスから選択することができます。
- ◆ ガンマ値の変更を取り消す場合は、「Reset」ボタンをクリックします。
- ◆ 変更内容を保存しダイアログを閉じる場合は「OK」ボタンをクリックします。
- ◆ 変更をキャンセルしダイアログを閉じる場合は「Cancel」ボタンをクリックします。

注意: お使いのモニタを最適な状態に設定するために、リモートコンピュータのディスプレイを確認しながらガンマ値の設定を行ってください。

メッセージボード

KL9108/KL9116 はマルチユーザーログインをサポートしています。ログインしているユーザー同士のコミュニケーションを可能にするために、一般的なメッセージタイプタイプのインターフェースを有するメッセージボード機能を提供しております。

このメッセージボード機能は、標準的なチャットプログラムと同様の機能を備えております。Windows クライアントのメッセージボードアイコン (p.96 参照) をクリックすると、以下のようなダイアログが表示されます。



ボタンバー

メッセージボード内のボタンバーに配置されている各ボタンはトグルボタンで、操作するたびに内容のオン/オフを切り替えます。各ボタンの機能は以下の表のとおりです。

ボタン	機能
	<p>チャット機能を有効/無効にします。チャット機能が無効になっている場合、このボタンは網がけされた状態になり、メッセージボードにメッセージが送信されても表示されません。ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されている場合、そのユーザーがチャット機能を無効にしていることを表しています。</p>
	<p>キーボード・モニタ・マウス(KVM)を専有/解放します。KVMがあるユーザーによって専有されている場合、このボタンは網がけされた状態になり、他のユーザーは画面のモニタリングおよびキーボード・マウスの操作ができなくなります。ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されている場合、そのユーザーがKVMを専有していることを表しています。</p>
	<p>キーボード・マウスを専有/解放します。キーボード・マウスがあるユーザーによって専有されている場合、このボタンは網がけされた状態になり、他のユーザーは画面のモニタリングは可能ですが、キーボード・マウスの操作ができなくなります。ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されている場合、そのユーザーがキーボード・マウスを専有していることを表しています。</p>
	<p>ユーザーリストの表示/非表示を切り替えます。ユーザーリストを非表示にすると、ユーザーリストパネルが閉じられます。ユーザーリストが表示されているとき、このボタンは網がけされた状態になります。</p>

メッセージ表示パネル

ユーザーがメッセージボードに書き込んだメッセージはシステムメッセージと同様、メッセージ表示パネルに出力されますが、チャット機能を無効にしている場合はボードにメッセージが書き込まれても表示されません。

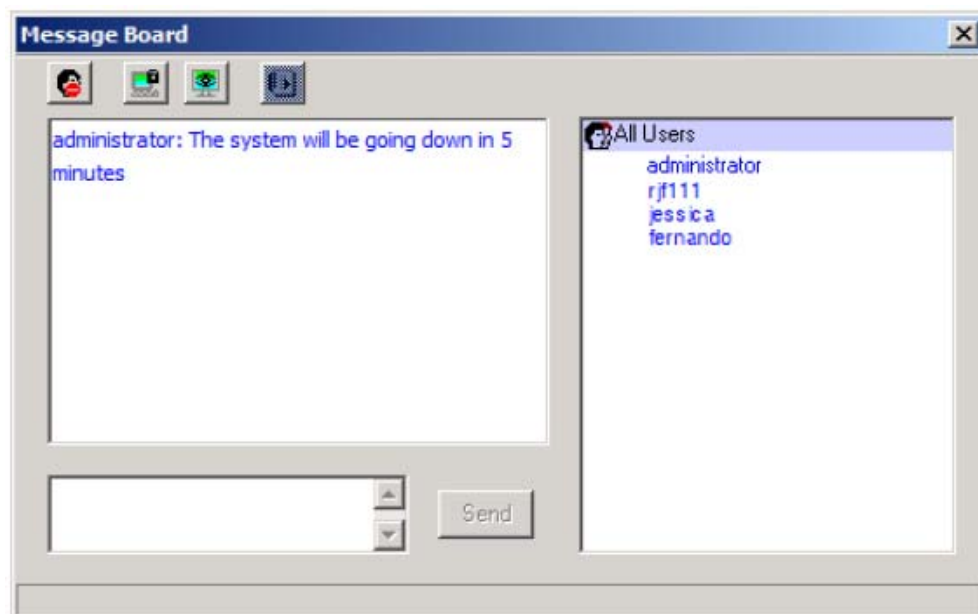
メッセージ入力パネル

メッセージを送信したい場合は、このメッセージ入力パネルに内容を書き込んで、「Send」ボタンをクリックするか、[Enter]キーを押してください。

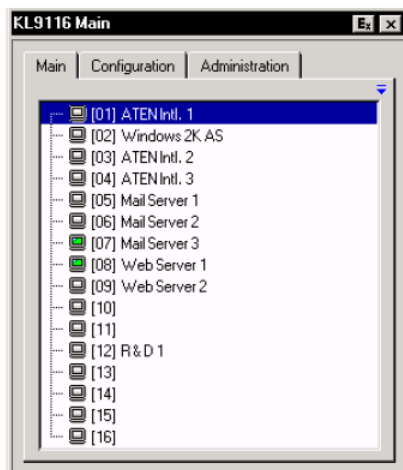
ユーザーリストパネル

現在、KL9108/KL9116 にログインしているユーザーの一覧は、ユーザーリストパネルに表示されます。

- ◆ 自身のユーザーネームは青色で、その他のユーザーネームは黒色でそれぞれ表示されます。
- ◆ デフォルトでは、メッセージは全ユーザーに送信されます。ある特定のユーザー宛にメッセージを送信したい場合は、ユーザーリストパネルから対象となるユーザーを選択してから、メッセージを送信してください。
- ◆ 特定のユーザーの選択操作を行った後に、全ユーザーにメッセージを送信したい場合は、ユーザーリストパネルから「All Users」を選択し、メッセージを送信してください。
- ◆ チャット機能を無効にしているユーザーは、ユーザーネームの横にチャット機能無効のアイコンが表示されます。
- ◆ キーボード・モニタ・マウス、またはキーボード・マウスを専有しているユーザーは、コントロールの専有アイコンがユーザーネームの横に表示されます。





Main タブ



Main タブでは KL9108/KL9116 に接続されたコンピュータの一覧表示および切り替え操作を行います。ハイライトバーを上下キーで移動させて[Enter]キーを押すか、マウスでダブルクリックすることによってそのコンピュータにアクセスできます。

注意: Administrator は各ユーザーのポート別アクセス制限を設けることができます。詳細は P.58 をご参照ください。

- ◆ リスト中では接続されているコンピュータがツリー表示されます。コンピュータのアイコンの横に表示されている[+]マークをクリックすると、表示を展開します。[-]をクリックすると表示を収納します。
- ◆ ディスプレイのアイコンが緑色になっているポートは、そのポートに接続されたコンピュータの電源がオンであることを示します。アイコンの横にはポート番号が表示されています。
- ◆ クイックビューポートとして設定されているポートには、赤い目のアイコンが表示されています。
- ◆ ウィンドウ上部には下記の2つのボタンが表示されています。

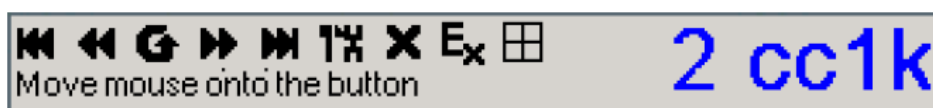
ボタン	機能
	ログアウト: このボタンをクリックする(またはキーボードで[F8]を押す)と、OSD を閉じてさらに KL9108/KL9116 からログアウトし、リモートセッションを終了します。
	クローズ: このボタンをクリックする(またはキーボードで[Esc]を押す)と、OSD を閉じます。KL9108/KL9116 のリモートセッションは保持します。

ポート操作

ポートを選択する場合は、OSD メインメニューでカーソルキーを使って、ハイライトバーを目的のポートまで移動させ、[Enter]キーを押すか、その項目をダブルクリックしてください。ポートがOSD メニューで選択されると、モニタには選択したポートのデスクトップ画面が表示され、キーボードとマウスからの入力はローカルシステムへ送られます。

OSD ツールバー

ポート操作を簡単にするため、KL9108/KL9116 では OSD ツールバーを提供しています。ツールバーを呼び出すには、OSD ホットキー操作を行います ([Scroll Lock]または[Ctrl]の2度押し)。ツールバーは画面の左上部に表示されます。



お使いの KL9108/KL9116 の「ID Display」の設定 (p.58 参照) に応じて、ポート番号、ポートネーム、またはその両方がツールバーの右端に表示されます。

注意: ツールバーが表示されている間、キーボードからの入力はすべて無効となります。キーボードからの入力を有効にする場合は、ツールバー内の「×」ボタンをクリックしてツールバーを終了してください。この操作を行っても OSD を呼び出して、ポートを再選択することが可能です。

OSD 画面の再呼び出し

ツールバーを閉じて OSD 画面 (Main、Configuration、Administration 各タブ) に戻る場合は以下のいずれかの操作を行ってください。

- ◆ OSD ホットキーを1回押す。
- ◆ ツールバーから OSD を起動するアイコンをクリックする。

この操作によってツールバーを終了し、OSD の Main タブを表示します。






OSD ホットキー一覧




下記の表は OSD ホットキー操作の一覧です。ホットキーで使用するキー「OSD Hotkey」の内容を参照してください。

動作	ケース	操作
OSD ツールバーを開く	OSD ツールバーが開いていないとき	OSD ホットキー ([Scroll Lock]または [Ctrl])を2度押しします。
OSD 画面を開く	OSD ツールバーが開いているとき	OSD ホットキー ([Scroll Lock]または [Ctrl])を1度だけ押しします。
OSD 画面を開く	OSD ツールバーが開いていないとき	OSD ホットキー ([Scroll Lock]または [Ctrl])を3度押しします。

ツールバーアイコン

ツールバーの各アイコンの説明は以下の表をご参照ください。

ボタン	機能
	OSD を起動することなく最初のアクセス可能なポートに接続されたコンピュータに切り替えます。
	OSD を起動することなく一つ前のアクセス可能なポートに接続されたコンピュータに切り替えます。
	オートスキャンモードを開始します。KL9108/KL9116 は「Scan Select」(p.58 参照)の項目でオートスキャンに設定されたポートを自動的に切り替えるようになります。この機能で、自動で切り替えて順次監視することができます。
	OSD を起動することなく次のアクセス可能なポートに接続されたコンピュータに切り替えます。
	OSD を起動することなく最後のアクセス可能なポートに接続されたコンピュータに切り替えます。
	OSD 画面を呼び出します。

ボタン	機能
	ツールバーを閉じます。
	ログアウトして Windows クライアントを終了します。
	パネルアレイモード (p.109 参照) を起動します。

パネルアレイモード

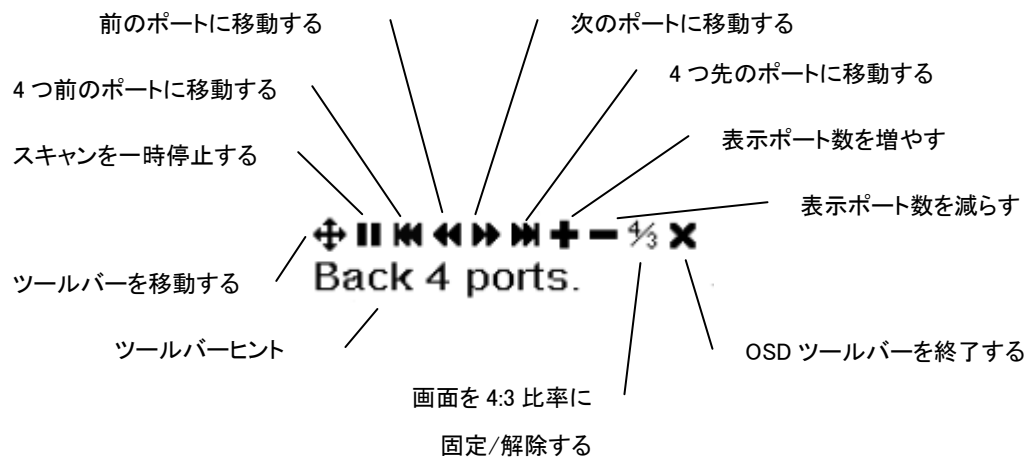
コントロールパネルのパネルアイコンを押すと、パネルアレイモードが起動します。このモードではモニタが最大4マス×4マスの16分割で接続されているコンピュータの画面を表示することができます。



- ◆ それぞれのパネルは KL9108/KL9116 のポートに対応しています。一番左上から右に向かってポート 1、ポート 2、上から 2 段目左からポート 5、6…、という順序で並んでいます。
- ◆ パネルアレイモード初回起動時、設定ページの Scan Select 機能 (p.58 参照) でオートスキキャンの対象として設定されたポートを自動でスキャンし、画面下にポートネーム/解像度/オンラインステータス/ポートアクセスステータスの各状態を表示します。
- ◆ パネルアレイモードで表示されるパネル数 (4×4=16、3×3=9、2×2=4、1) は、パネルアレイツールバーの「Show More Ports (+)」、「Show Fewer Ports (-)」をクリックすることで変更できます。
- ◆ ポートに接続されたコンピュータが電源オンの場合は画面がパネルに表示されます。電源がオフの場合、パネルには何も表示されません (ブランク)。
- ◆ 現在ログインしているユーザーがアクセス可能なポートだけがパネルに表示されます。(p.64 参照) アクセス権が無いポートに対応したパネルには何も表示されません。
- ◆ マウスポインタをパネル上に移動させると、そのパネルに対応したポートの情報が画面下に表示されます。
- ◆ マウスポインタをアクセスしたいポートに対応したパネルの上に移動させてクリックすると、そのポートにアクセスできます。

パネルアレイツールバー

画面右下にあるパネルアレイツールバーの各アイコンの説明は以下の通りです。



パネルアレイモードにおける複数ユーザー操作に関する問題は、次ページの「マルチユーザーによる操作」に記載されておりますので、ご参照ください。

マルチユーザーによる操作

KL9108/KL9116 はマルチユーザー対応製品で、最大 32 ユーザーによる同時ログインが可能です。複数ユーザーが同時にリモートコンソールから KL9108/KL9116 にアクセスした場合に適用される操作の優先順位のルールは以下の表のとおりです。

操作	ルール
General	◆ あるユーザーが OSD 画面を起動すると、そのユーザーが OSD 画面を閉じるまで、ほかのユーザーは OSD を起動することができません。
Auto Scan Mode	◆ あるユーザーがオートスキャンモード (p.112 参照) を起動しているものの OSD が起動していない場合、ほかのユーザーは OSD 画面を起動してオートスキャンモードに割り込むことができます。
Panel Array Mode	<ul style="list-style-type: none">◆ あるユーザーがパネルアレイモード (p.109 参照) を起動すると、すべてのユーザーがパネルアレイモードになります。これは、最初に起動したユーザーがパネルアレイモードを終了するまで続きます。(ただし、アドミニストレーターがパネルアレイモードを起動した場合は、そちらが有効になります。)◆ パネルアレイモードを起動したユーザーのみがスキップモード機能 (p.113 参照) を使用することができます。◆ パネルアレイモードを起動したユーザーのみがポートを切り替えることができます。他のユーザーも自動的に最初のユーザーが選択したポートに切り替わります。 <p>注意: ユーザーが切り替えられたポートに対して表示権限がない場合は、そのポートをモニタリングすることはできません。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 各ユーザーはパネルアレイモードで表示したいパネルの枚数の増減が可能です。表示するパネルの数を減らした場合、画質が劣化する場合がございます。

注意: 他のユーザーが表示画面の画像をすべて受信するためにも、パネルアレイモードを起動したユーザーは最低 4 パネルの表示に設定することを推奨します。

ホットキー操作

ホットキー操作によってポートの切替操作を直接キーボードから行うことができます。KL9108/KL9116 では以下のホットキー操作を提供しています。

- ◆ オートスキャン
- ◆ スキップモード

ホットキーは[A]および[P]がオートスキャン、**カーソルキー**がスキップモードです。

-
- 注意:**
1. ホットキーモードが有効になっているとき、OSD ツールバーが表示されています。(p.106「ポート操作」参照)ホットキーに割り当てられているキーをホットキー以外の目的で使用する場合は、それらのキーを入力する前にツールバーを閉じてください。
 2. オートスキャンモードにおける複数ユーザーの操作に関しては、p.111 の「マルチユーザーによる操作」に記載されていますので、そちらをご参照ください。
-

オートスキャン

オートスキャン機能は現在ログインしているユーザーがアクセス可能なすべてのポートを一定の間隔で自動的に切り替え、監視することができます。アクセス可能なポートについては p.58 の「Scan Select」をご参照ください。

スキャンインターバルの設定

オートスキャンモードでポートを表示している時間の長さを設定するには、p.58 の「Scan Duration」の項目をご参照ください。

オートスキャンの呼び出し

オートスキャンを開始するには、[A]キーを押してください。オートスキャン機能は接続されたポートの最初から順番に表示を切り替えていきます。ポート ID の前に **S** の文字が表示されているポートは、そのポートがオートスキャンモードでアクセスされていることを示します。

オートスキャンの一時停止

オートスキャンモードを実行している間、一時的に特定のポートを表示させておきたい場合は [P] を押してください。オートスキャンモードが一時停止されている間、表示しているポートのポート ID の前に表示されている S の文字が点滅します。

特定のポート位置における一時停止機能は、一時停止を終了した際に、前回停止した位置からスキャンを開始できるので、オートスキャンを一度終了して操作をやり直すより便利です。(オートスキャンを一度終了させてしまうと、接続されているポートの最初からスキャンが開始されます。) 一時停止終了後にオートスキャンモードを再開する場合は、[Esc] と [スペースキー] 以外の任意のキーを押してください。一時停止した位置からスキャン再開します。

オートスキャンの終了

オートスキャンモードが実行されている間、キーボードの入力は基本的にサスペンド状態となっており、操作を受け付けません。キーボードを通常使用して、そのポートに接続されたコンピュータを操作するためにはオートスキャンモードを終了させなくてはなりません。オートスキャンモードを終了するには [Esc] または [スペースキー] を押してください。

スキップモード

スキップモードは手動でコンピュータを切り替えて監視する機能です。オートスキャンモードがあらかじめ設定した間隔で自動的に切り替えるのに対し、スキップモードでは特定のポートを任意の時間表示させたままにしておくことができます。スキップモードホットキーは四つのカーソルキーを使います。各キーの機能については以下をご参照ください。

キー	機能
←	現在のポートから一つ前のアクセス可能なポートに移動します。(アクセス可能なポートについては p.58 の「Scan Select」をご参照ください。)
→	現在のポートから一つ後ろのアクセス可能なポートに移動します。
↑	現在のポートから、KVM スイッチにおける最初にアクセス可能なポートに移動します。
↓	現在のポートから、KVM スイッチにおける最後にアクセス可能なポートに移動します。

キーボード・マウス操作に関する注意事項

キーボード操作に関する注意事項

KL9108/KL9116 では、[Alt] + [Tab]と[Ctrl] + [Alt] + [Delete]の組み合わせを除いて、すべてのキーボード入力がリモートシステムに対して実行されます。上記の 2 つの組み合わせは、リモートコンピュータのアプリケーション切替時およびシステムトラブルからの回復時に KL9108/KL9116 側への入力が回避されるように設計されています。KL9108/KL9116 がローカル接続しているコンピュータに対して[Alt] + [Tab]や[Ctrl] + [Alt] + [Delete]の入力を実行した場合には、[Alt]キーや[Ctrl]キーの代わりに任意のファンクションキー ([F1]～[F12])を設定することができます。

例えば、[Ctrl]キーの代替キーとして[F11]キーを、[Alt]キーの代替キーとして[F12]キーをそれぞれ使用する場合、ローカルシステム側では[F12] + [Tab] の入力は[Alt] + [Tab]として、また、[F11] + [F12] + [Del] のキー入力は[Ctrl] + [Alt] + [Del]としてそれぞれ認識されます。代替キーの詳細は p.97 のホットキーの設定をご参照ください。

-
- 注意:**
1. 任意のキーを代替キーとして使用することが可能ですが、既にホットキーの 1 目のキーとして割り当てられているキーを、他の操作のホットキーに使用することはできません。
 2. リモートコンピュータが Windows98 を搭載し、Full Screen Mode で KL9108/KL9116 にアクセスした際に、誤って[Ctrl] + [Alt] + [Del]を実行した場合、Windows クライアントコントロールパネルの矢印アイコンをクリックして Windows クライアントを終了し、KL9108/KL9116 の Web ページから Windows クライアントを再度ダウンロードし実行しなければなりません。
-

マウス同期に関する注意事項

リモートアクセスの際にマウスポインタが同期できない場合は、下記の手順に従って設定を行ってください。

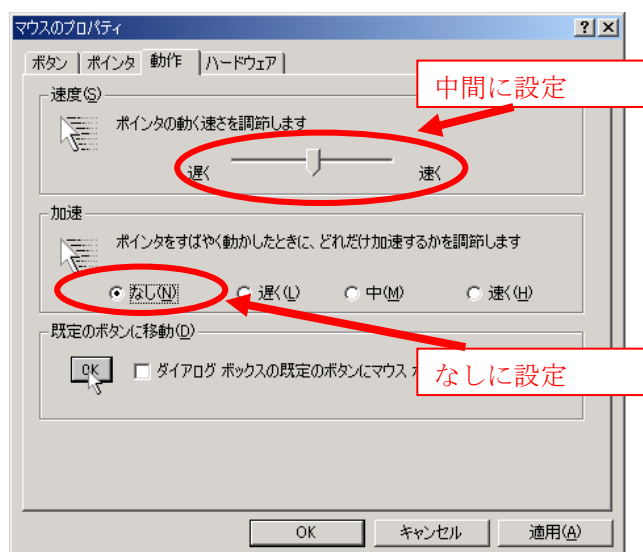
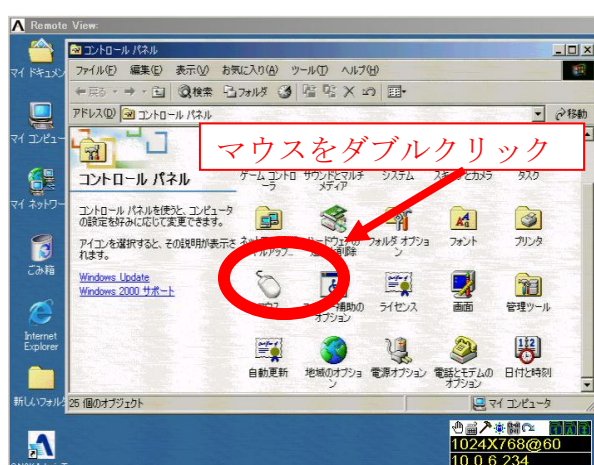
【 Windows 2000 】

[スタートボタン]→[設定]→[コントロールパネル]→マウスのプロパティ を開きます。

“ 動作 ” タブを開きます。

以下のように設定します。

速度	中間に設定します
加速	「なし」チェックします
既定のボタンに移動	チェックをはずします



マウスポインタを一旦リモートウィンドウの外に出し、再度マウスポインタをリモートウィンドウに戻す事で、マウスポインタ位置が自動的に調整されます。

フルスクリーン表示の場合には、マウスポインタを右下の OSD ツールバー上まで移動し、再度画面上に戻す事でマウスポインタ位置が自動的に調整されます。

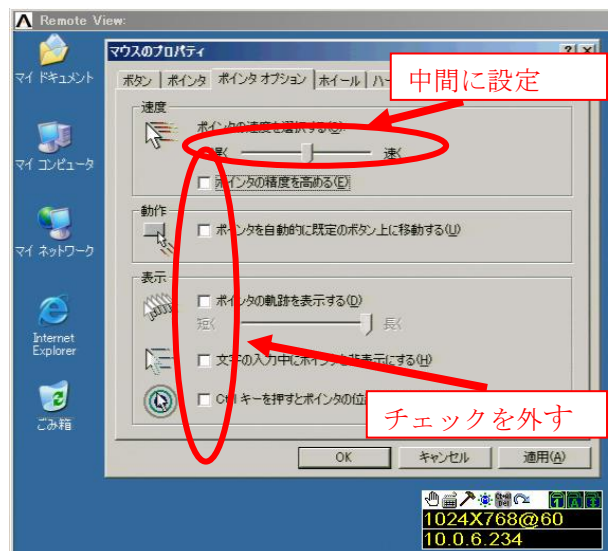
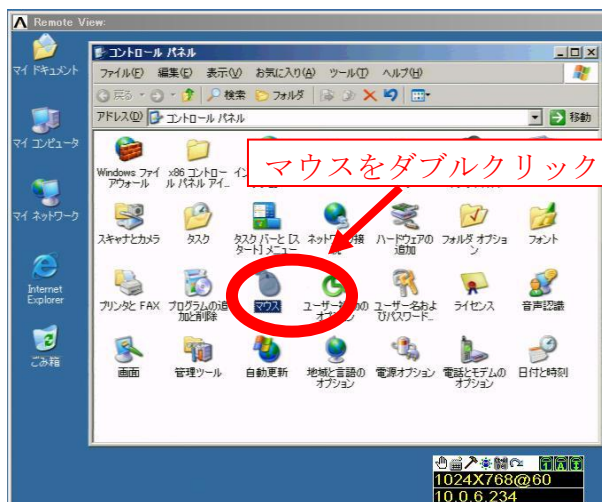
【 Windows XP/Windows Server 2003 】

[スタートボタン]→[設定]→[コントロールパネル]→[マウス]を選択し、マウスのプロパティを開きます。

“ ポインタオプション ” の設定をします。

以下のように設定します。

速度	中間に設定します 「ポインタの精度を高める」のチェックをはずします
動作	チェックをはずします
表示	全てのチェックをはずします



マウスポインタを一旦リモートウィンドウの外に出し、再度マウスポインタをリモートウィンドウに戻す事で、マウスポインタ位置が自動的に調整されます。

フルスクリーン表示の場合には、マウスポインタを右下の OSD ツールバー上まで移動し、再度画面上に戻す事でマウスポインタ位置が自動的に調整されます。

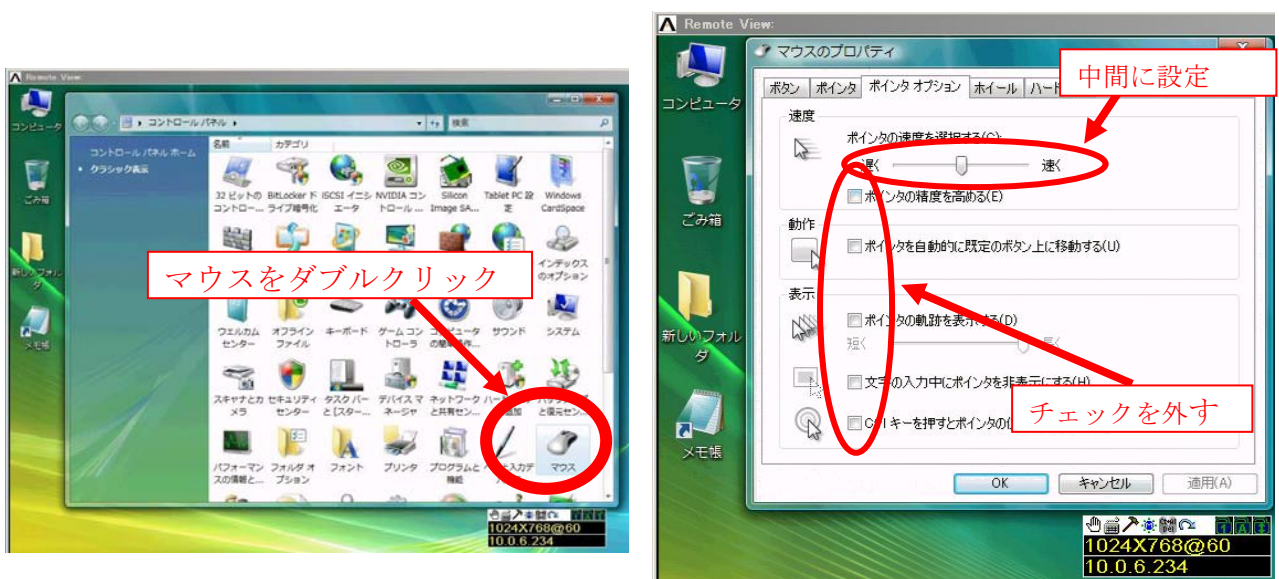
【 Windows Vista 】

[スタート]→[コントロールパネル]→ [マウス]を選択し、マウスのプロパティ を開きます。

“ ポインタオプション ” から設定をします。

以下のように設定します。

速度	中間に設定します 「ポインタの精度を高める」のチェックをはずします
動作	チェックをはずします
表示	全てのチェックをはずします



マウスポインタを一旦リモートウィンドウの外に出し、再度マウスポインタをリモートウィンドウに戻す事で、マウスポインタ位置が自動的に調整されます。

フルスクリーン表示の場合には、マウスポインタを右下の OSD ツールバー上まで移動し、再度画面上に戻す事でマウスポインタ位置が自動的に調整されます。

【 Linux Red hat 】

[個人設定]→[マウス設定]→全てのスライドバーを中間に設定します。

マウスポインタを一旦リモートウィンドウの外に出し、再度マウスポインタをリモートウィンドウに戻す事でマウスポインタ位置が自動的に調整されます。

フルスクリーン表示の場合には、マウスポインタを右下の OSD ツールバー上まで移動し、再度画面上に戻す事でマウスポインタ位置が自動的に調整されます。

【 SUN Solaris 】

[Terminal]起動後に下記のようにタイプします。

```
xset m 1
```

マウスポインタを一旦リモートウィンドウの外に出し、再度マウスポインタをリモートウィンドウにも戻す事でマウスポインタ位置が自動的に調整されます。

フルスクリーン表示の場合には、マウスポインタを右下の OSD ツールバー上まで移動し、再度画面上に戻す事でマウスポインタ位置が自動的に調整されます。

【設定を行ってもマウスカーソルが同期しない場合】

上記の設定でポインタが上手く同期されない場合は、以下の操作を行い、アクティブポインタを最小化(十字型カーソルから点字型カーソルに変更)してご使用ください。

この機能は、フルスクリーンモードのみで使用できます

ファンクションキーを次の順番で押します。

```
[F11]→[F10]→[F9]
```

もう一度、上記操作を行うと、元の設定に戻ります。

Configuration タブ

OSD の Configuration タブではユーザー別に作業環境を定義することができます。
KL9108/KL9116 では、ユーザー別に設定内容を管理しており、ログインしたユーザー名にしたがって作業環境を構築します。

Configuration タブの内容はローカルコンソールで OSD を呼び出したときと同様です。詳細は P.** をご参照ください。

第7章

Java クライアント

OSD の起動

ログインに成功したら(p.84 参照)、Java クライアント OSD を以下の手順で呼び出してください。

1. Web 画面の左側に表示されている「Java Client」ボタン(矢印がついていないほうのアイコン)をクリックしてください。

注意: Java クライアントを動作させるにはクライアントを実行するコンピュータに Sun Java 2 JRE 1.4.2 以降がインストールされている必要があります。

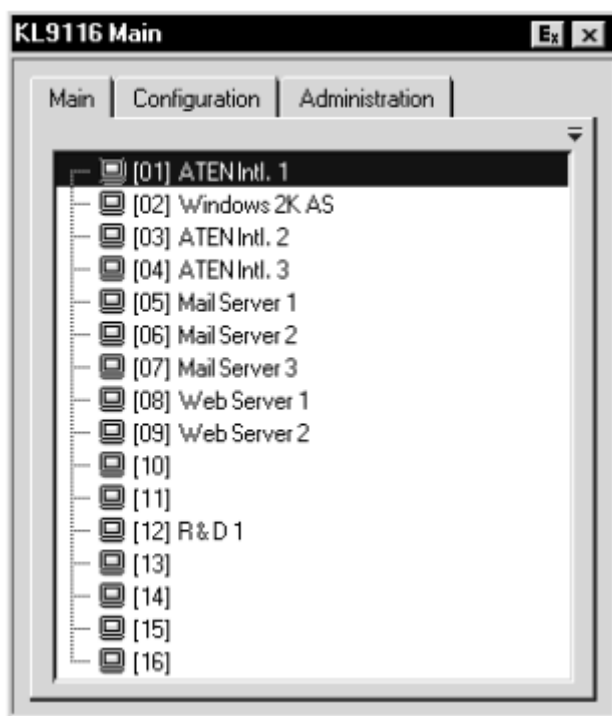
2. 「ファイルのダウンロード—セキュリティの警告」ダイアログが表示されますので、「**実行**」ボタンを押してください。
3. 2 つめの「セキュリティの警告」ダイアログが表示された場合も同様に「**実行する**」ボタンを押してください。

注意:

1. お使いのブラウザが直接ファイルを実行できない場合(ex. Firefox など)は、一度デスクトップなどのローカルディレクトリに保存してから、実行してください。
2. 上記方法でローカルディレクトリに保存されたファイルは、セキュリティのためにそのセッションの間しか使用できない、ワンタイム版クライアントになっています。ブラウザログインを行うたびに、都度新しいクライアントをダウンロードしてお使いください。

OSD の起動

OSD が起動すると、以下のようなメインメニューがお使いのモニタに表示されます。



この OSD メニューは Windows Client と同様の内容です。Configuration タブおよび Administration タブの内容については、第 4 章の管理者向け操作をご参照ください。

Java クライアントコントロールパネル

Java クライアントには Windows クライアントと同様コントロールパネルの機能があります。Java クライアントのコントロールパネルは、通常画面中央下部の空白エリアに隠れています。マウスポインタをこのエリアに移動させると、ツールバーが表示されます。

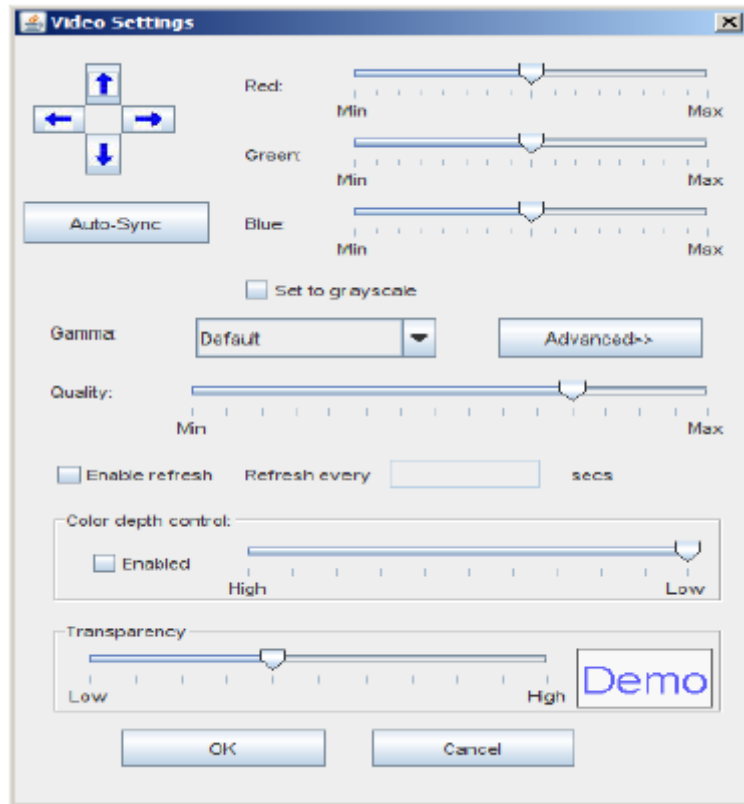


コントロールパネルの各アイコンの機能については以下のセクションで説明します。



ビデオアジャスト

このボタンをクリックすると、「Video Settings」ダイアログを表示します。



このダイアログボックスは、Windows クライアントの「Video Options」ダイアログと同様にお使いいただけます。詳細については p.99 をご参照ください。



ソフトウェアキーパッド

一部のキーボード入力が KL9108/KL9116 に送られない場合がありますので、その場合はこのソフトウェアキーパッドを使用して入力することが可能です。



マウスポインタの同期

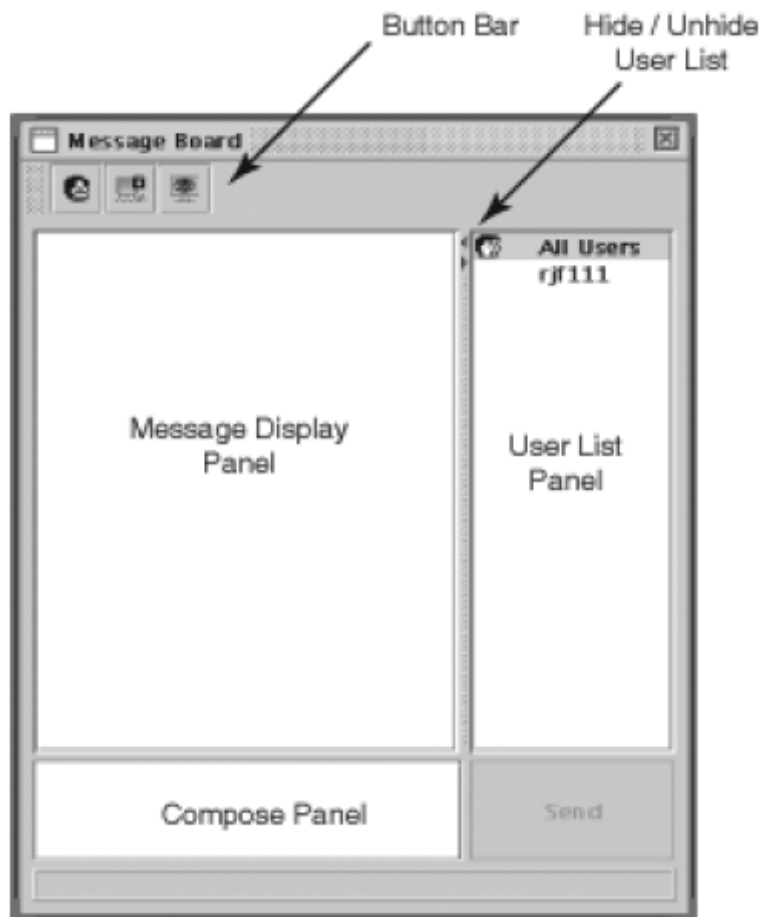
マウスポインタの同期に関しては、p.115 を参考にして設定を行ってください。



メッセージボード




KL9108/KL9116 はマルチユーザーログインをサポートしています。ログインしているユーザー同士のコミュニケーションを可能にするために、一般的なメッセージタイプインターフェースのメッセージボード機能を提供しております。

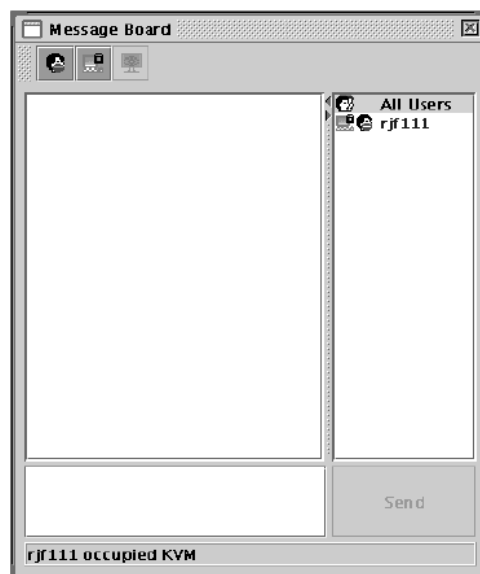
Java クライアントツールバーのメッセージボードアイコン (p.121 参照) をクリックすると、以下のようなウィンドウが表示されます。



メッセージボードボタンバー

メッセージボード内のボタンバーに配置されている各ボタンはトグルボタンで、操作するたびに内容のオン/オフを切り替えます。各ボタンの機能は以下の表のとおりです。

ボタン	機能
	<p>チャット機能を有効/無効にします。チャット機能が無効になっている場合、このボタンは網がけされた状態になり、メッセージボードにメッセージが送信されても表示されません。ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されている場合、そのユーザーがチャット機能を無効にしていることを表しています。</p>
	<p>キーボード・モニタ・マウス(KVM)を専有/解放します。KVM があるユーザーによって専有されている場合、このボタンは網がけされた状態になり、他のユーザーは画面のモニタリングおよびキーボード・マウスの操作ができなくなります。ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されている場合、そのユーザーが KVM を専有していることを表しています。</p>
	<p>キーボード・マウスを専有/解放します。キーボード・マウスがあるユーザーによって専有されている場合、このボタンは網がけされた状態になり、他のユーザーは画面のモニタリングは可能ですが、キーボード・マウスの操作ができなくなります。ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されている場合、そのユーザーがキーボード・マウスを専有していることを表しています。</p>



- ◆ ユーザーがメッセージボードに書き込んだメッセージはシステムメッセージと同様、メッセージ表示パネルに出力されますが、チャット機能を無効にしている場合はボードにメッセージが書き込まれても表示されません。
- ◆ メッセージを送信したい場合は、メッセージ入力パネルで内容を編集し、「Send」ボタンをクリックしてください。
- ◆ 現在、KL9108/KL9116 にログインしているユーザーの一覧は、ユーザーリストパネルに表示されます。
 - デフォルトでは、メッセージは全ユーザーに送信されます。ある特定のユーザー宛にメッセージを送りたい場合は、ユーザーリストパネルから対象となるユーザーを選択してから、メッセージを送信してください。
 - 特定のユーザーの選択操作を行った後に、全ユーザーにメッセージを送りたい場合は、ユーザーリストパネルから「All Users」を選択し、メッセージを送信してください。
 - ユーザーがチャット機能を無効にしている場合、ユーザーリストパネルのユーザーネームの前に該当アイコンが表示されます。
 - ユーザーが KVM やキーボード・マウスを専有している場合、ユーザーリストパネルのユーザーネームの前に該当アイコンが表示されます。
 - ユーザーリストの表示/非表示を行う場合は、メッセージ表示パネルとユーザーリストパネルの間にある三角ボタンをクリックしてください。



Lock LED

ツールバー中央の 3 つのインジケータは、リモートコンピュータの Num Lock、Caps Lock、Scroll Lock の各ステータスを表しています。ロック状態になると、各インジケータは緑色に点灯します。また、アイコンをクリックするとそれぞれのステータスを切り替えます。

注意: まれに初期接続時にインジケータの表示が実際と異なっている場合があります。そのような場合はローカルの状態と同期させるために、インジケータをクリックして正しい内容に設定してください。

Lock LED アイコンの下部には、リモートコンピュータの解像度が表示されています。



リモート操作画面 表示モードの変更

リモート操作画面のフルスクリーン/ウィンドウ表示モードを切り替えます。Java クライアントでは、デフォルトでフルスクリーンモードになっています。



Java クライアントについて

このボタンをクリックすると、「About」ダイアログボックスが表示され、お使いの Java クライアントのバージョン情報を確認することができます。ダイアログボックスを閉じる場合は「OK」ボタンをクリックしてください。



Ctrl+Alt+Del

このボタンをクリックすると、リモートのコンピュータに対して[Ctrl]+[Alt]+[Del]コマンドを送ることができます。



ヘルプ

このボタンをクリックすると Java クライアントのオンラインヘルプ (英語) が表示されます。



終了










このボタンを押すと、Java クライアントのセッションを終了します。

ポート操作

Java クライアントにおけるポート操作は Windows クライアントと同様にお使いいただけます。詳細については p.106 をご参照ください。

パネルレイモード

Java クライアントのパネルレイモードは、Windows クライアントのパネルレイモード (p.109 参照) と基本的には同じようにお使いいただけますが、ツールバーに若干異なる機能がございます。Java クライアントのパネルレイモードツールバーの各項目の機能は以下のとおりです。

項目	説明
	ボタンを押したタイミングでパネルのスキャンを一時停止します。一時停止した状態だとこのボタンは矢印 (レジュームボタン) に変わり、もう一度押すとパネルのスキャンを再開します。
	パネル表示を 4 枚分戻します。
	パネル表示を 1 枚分戻します。
	パネル表示を一枚分進めます。
	パネル表示を 4 枚分進めます。
	パネル表示数を増やします。(ex. 1 → 4 → 9 → 16)
	パネル表示数を減らします。(ex. 16 → 9 → 4 → 1)
	アスペクト比を変更します。
	パネルレイモードを終了します。

キーボードによるホットキー操作

Java クライアントにおけるホットキー操作は Windows クライアントのホットキー操作と同様の操作方法でご利用いただけます。詳細については p.97 をご参照ください。

第8章

ログファイル

メイン画面

KL9108/KL9116 は、使用中に発生したイベントをログとして記録します。ログファイルの内容を参照する場合は、Web 画面左下に位置する「Log」アイコンをクリックしてください。このアイコンをクリックすると以下のような画面が表示されます。



最大 512 項目のイベントをログファイルで管理することができます。ログファイルをクリアする場合は、画面右下に位置する「Clear Log」アイコンをクリックしてください。

注意: このログファイルは KL9108/KL9116 の電源が切られたとき、また、電力不足になったときに、自動的に削除される一時ファイルです。ログファイルの内容のバックアップを作成される場合は、ログサーバをインストールすることをお勧めします。

第9章

ログサーバ

Windows ベースの KL9108/KL9116 のログサーバは、指定された KL9108/KL9116 で発生する全イベントを記録し、そのログをデータベース化してユーザーに提供する、管理者向けのユーティリティです。この章では、ログサーバのインストールおよび設定方法について説明します。

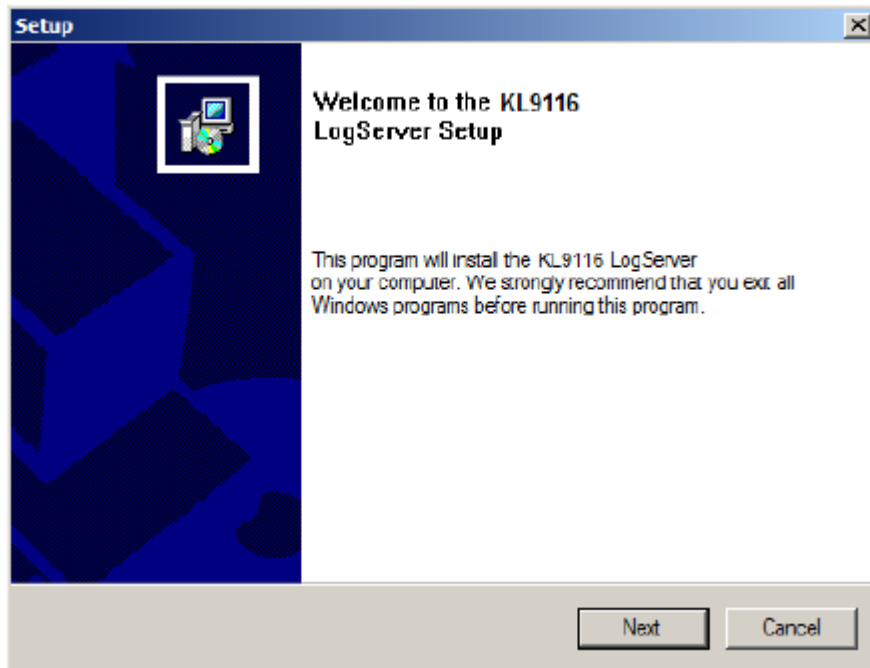
セットアップ

KL9108/KL9116 のログサーバは以下の手順でセットアップを行ってください。

1. ログサーバとしてお使いいただくコンピュータから Web ブラウザを起動し、KL9108/KL9116 にログインします。(ログインの方法については p.84 をご参照ください)
2. Web 画面の左下にある「Log Server」ボタンをクリックして、ログサーバのインストーラーを起動してください。
3. 「セキュリティの警告」ダイアログ等が表示されても、警告を受け入れず、「**実行する**」または「**開く**」ボタンをクリックして、インストーラーを起動させます。

注意: ブラウザからインストーラーを起動できない場合は、一旦ディスクに保存してからインストーラーを実行してください。

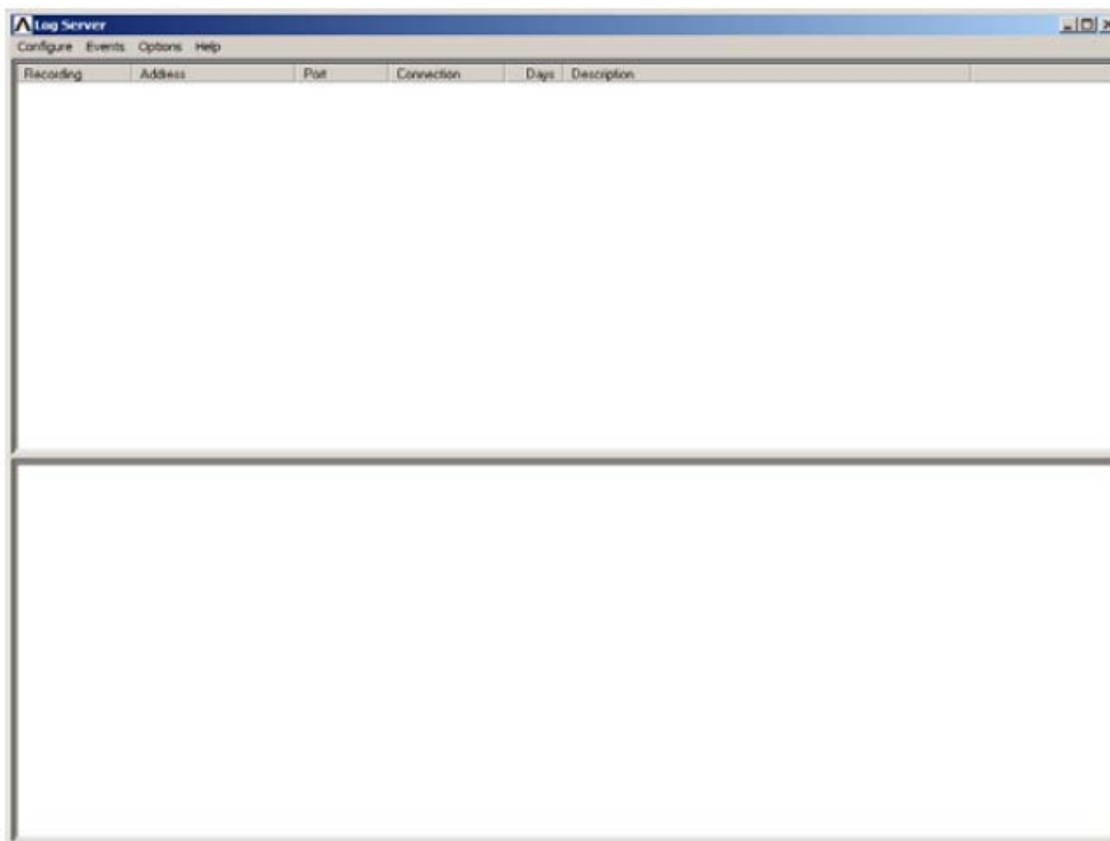
4. インストーラーを実行すると、以下のようなログサーバセットアップダイアログが表示されます。



5. 「Next」ボタンを押して、インストーラーの画面内の指示にしたがって操作してください。インストールが完了すると、このプログラムのアイコンがデスクトップに作成されます。

ログサーバの操作方法

ログサーバのメイン画面を表示するには、「Log Server」アイコンをダブルクリックするか、コマンドラインからこのプログラムのフルパスを入力して実行してください。プログラムが起動すると以下のような画面が表示されます。



-
- 注意:**
1. ログサーバのイベントデータベースを管理するコンピュータの MAC アドレスはアドミニストレータユーティリティの「Service Configuration」メニューで設定しておく必要があります。(p.67 参照)
 2. ログサーバプログラムはデータベースにアクセスするために Microsoft Jet OLEDB 4.0 ドライバが必要です。
-

画面は以下の 3 つのコンポーネントに分かれています。

- ◆ 上部メニューバー
- ◆ メニューバー下部の KL9108/KL9116 リストパネル(詳細は p.141 参照)
- ◆ 最下部のイベントリストパネル(詳細は p.141 参照)

各コンポーネントの詳細には以下で説明します。

メニューバー

ログサーバのメニューバーは以下の項目から構成されています。

- ◆ Configure
- ◆ Events
- ◆ Options
- ◆ Help

各項目の詳細については後述しますので、そちらをご参照ください。

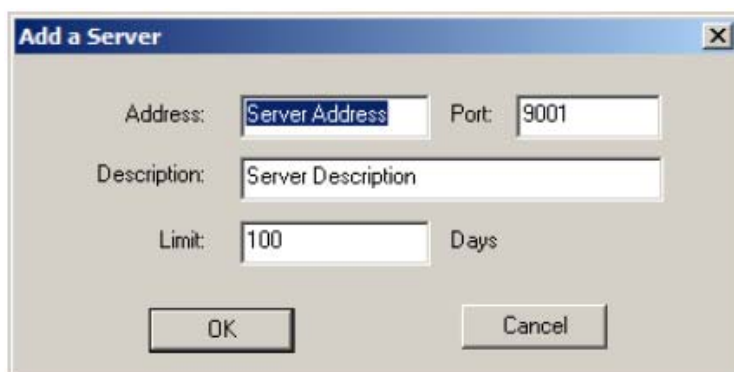
注意: ログサーバのウィンドウが選択されていない等の理由でメニューバーが有効になっていないように見える場合がございますが、このような場合は KL9108/KL9116 一覧表示パネルをクリックし、ウィンドウをアクティブにしてメニューバーをご利用ください。

Configure

「Configure」メニューには「Add」、「Edit」、「Delete」の 3 つのサブメニューが存在します。「Add」メニューでは KL9108/KL9116 ユニットの一覧への新規追加を、「Edit」メニューではリストに登録されたユニット情報の編集を、また、「Delete」メニューでは一覧からのユニットの削除をそれぞれ行います。

- ◆ KL9108/KL9116 ユニットを一覧に新たに追加する場合は、「Add」メニューをクリックしてください。
- ◆ リストから KL9108/KL9116 のユニットを編集したり削除したりする場合は、リストから対象となる項目を選択し、この「Configure」メニューから「Edit」または「Delete」メニューをクリックしてください。

「Add」または「Edit」メニューをクリックすると、以下のようなダイアログが表示されます



ダイアログ内の各項目に関する詳細は以下のとおりです。

項目	説明
Address	KL9108/KL9116 の IP アドレスまたは DNS 名 (DNS 名が有効になっている場合)を入力してください。
Port	KL9108/KL9116 に割り当てられたログサーバのポート番号を入力してください。(詳細については p.67 の「Log Server」を参照)
Description	KL9108/KL9116 に関する追加情報があれば、このフィールドに入力することができます。
Limit	ログサーバデータベースにおけるイベントログ保存日数を表します。

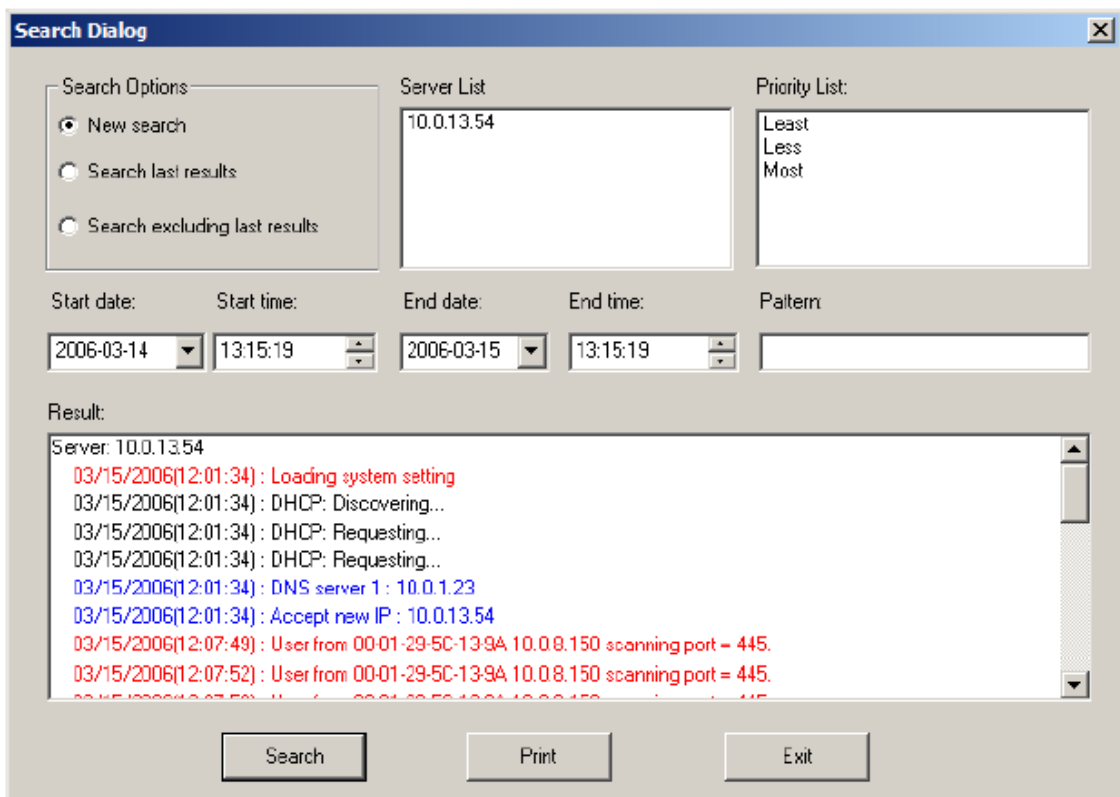
フィールドへの記入・編集が完了したら「OK」ボタンを押してください。

Events

「Events」メニューは「Search」と「Maintenance」の2つのサブメニューから構成されています。

Search

「Search」メニューでは、特定のキーワードを含むイベントログを検索することができます。このメニューを起動すると、以下のようなダイアログが表示されます。



ダイアログ内における各項目に関する詳細は以下のとおりです。

項目	説明
Search Options	検索の対象となるデータの種別を以下のラジオボタンから選択します。
New search	このラジオボタンが選択されると、選択された KL9108/KL9116 で発生したすべてのイベントを対象にして検索を行います。
Search last results	このラジオボタンが選択されると、前回の検索結果を対象に検索を行います。
Search excluding last results	このラジオボタンが選択されると、前回の検索結果以外を対象にして検索を行います。
Server List	KL9108/KL9116 が IP アドレス順に一覧表示されます。ログの検索を行いたい KL9108/KL9116 をリストから選択してください。(複数選択可)このリストから何も選択されていない場合は、すべての KL9108/KL9116 のログを対象に検索を行います。
Priority List	検索結果の表示レベルを設定します。1 を指定すると全体的な情報が、また、3 を指定すると特定した情報がそれぞれ表示されます。
Start Date	検索対象となるログの起点となる日付をカレンダーコントロールから選択、もしくはリストボックスに「YYYY/MM/DD」の形式で直接入力してください。
Start Time	検索対象となるログの起点となる時刻をリストの上下ボタンで調節、もしくはリストボックス「HH:MM:SS」の形式で直接入力してください。
End Date	検索対象となるログのタイムスタンプの終点となる日付を入力してください。設定方法は表の「Start Date」と同様です。
End Time	検索対象となるログのタイムスタンプの終点となる時刻を入力してください。設定方法は表の「Start Time」と同様です。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Pattern	<p>パターン検索を行う場合の文字列を入力してください。任意の文字列を表すワイルドカード(%)を使用することも可能です。</p> <p>例) h%ds という検索条件で、「hands」と「hoods」という文字列にヒットします。</p>
Result	検索条件に一致したイベントが一覧表示されます。
Search	入力された条件で検索を行います。
Print	検索結果を印刷します。
Exit	このダイアログボックスを終了します。

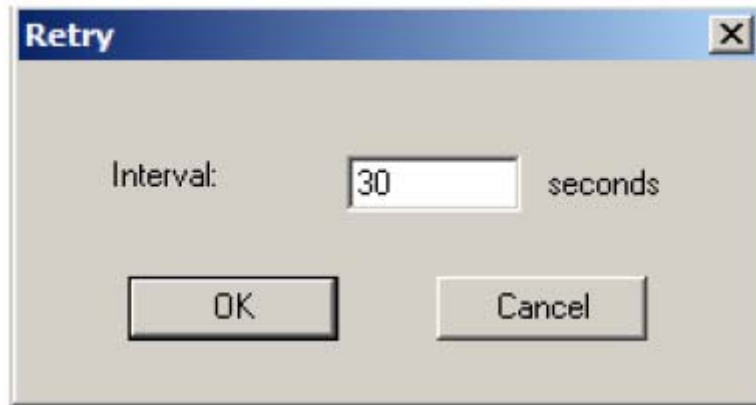
Maintenance

この機能によってアドミニストレーターはデータベースの手動メンテナンスを行うことができます。「Edit」機能における「Limit」の項目によって設定された期限を過ぎるとイベントログは自動的に削除されますが、この機能を使うことによって、保存期間内のログであってもメンテナンスすることが可能です。(p.136 参照)

Options

このメニューには「Retry」というサブメニューがあります。

このメニューでは、接続失敗による再試行までの待機時間(秒)を設定します。メニューをクリックすると、以下のような「Retry」ダイアログが表示されます。



待機秒数を入力したら、「OK」ボタンを押してください。

Help

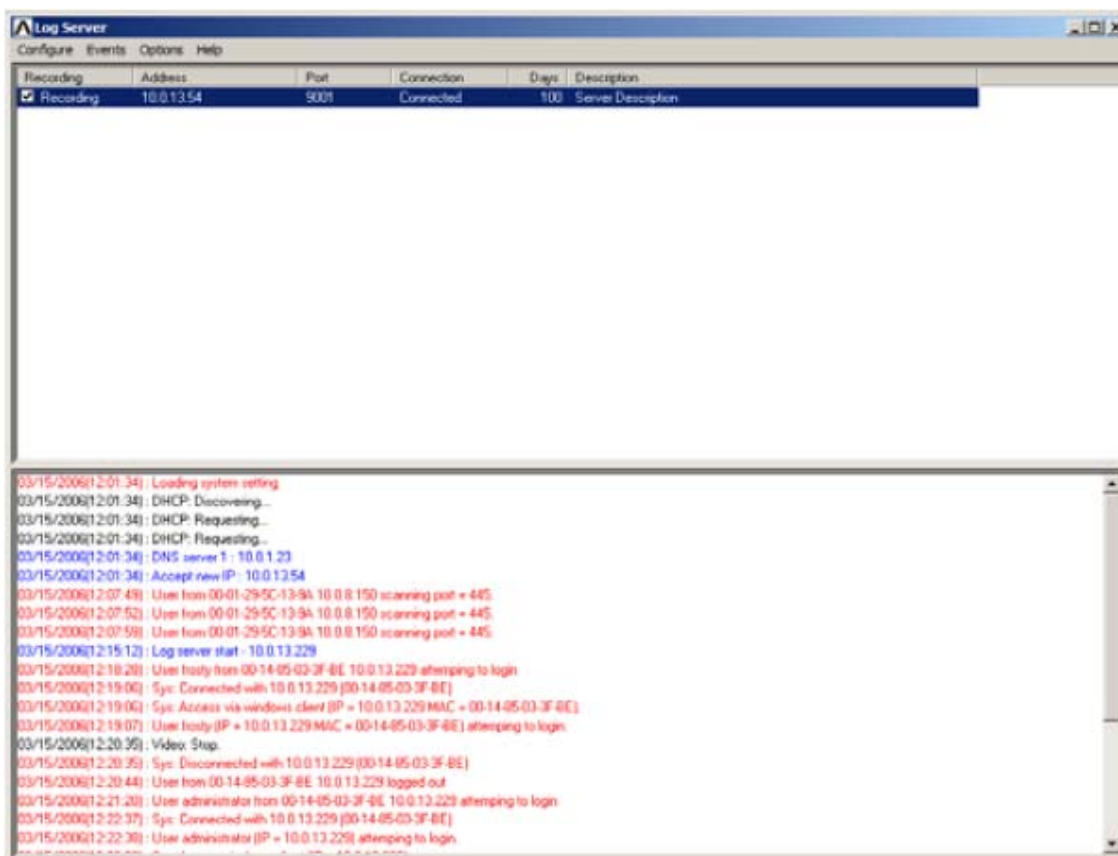
このメニューのサブメニューである「Contents」をクリックすると、ログサーバのオンラインヘルプが起動します。このオンラインヘルプにはログサーバのセットアップ・操作方法、またトラブルシューティングが記載されています。

ログサーバ メイン画面

概要

ログサーバのメイン画面は2つのパネルから構成されています。

- ◆ 上部パネル(リストパネル)には、現在、ログ取得の対象となっている KL9108/KL9116 の一覧が表示されます。(p.136 の「Configure」参照)
- ◆ 下部パネル(イベントパネル)には、現在リストパネルで選択されている KL9108/KL9116 のイベントログが表示されます。別の KL9108/KL9116 のイベントログを参照する場合は、リストパネルから対象となる KL9108/KL9116 を選択します。



リストパネル

KL9108/KL9116 リストパネルの各項目の詳細は以下の表のとおりです。

項目	説明
Recording	ログサーバがこのリストに表示されている KL9108/KL9116 のログを記録するかどうかを設定します。項目にチェックを入れると、この欄に「Recording」と表示され、ログの記録を行います。項目からチェックをはずすと、この欄に「Paused」と表示され、ログの記録は行いません。 注意: このリストに表示されている KL9108/KL9116 は選択状態にかかわらず、チェックがついていればログサーバはそのユニットのログを記録します。
Address	KL9108/KL9116 がログサーバに登録された際に設定された IP アドレスまたは DNS 名です。(p.136「Configure」参照)
Port	KL9108/KL9116 が通信に使用するポート番号です。(p.136「Configure」参照)
Connection	ログサーバが KL9108/KL9116 に接続している場合、このフィールドには「Connected」と表示されます。 また、KL9108/KL9116 に接続していない場合には、このフィールドに「Waiting」と表示されます。これはログサーバの MAC アドレスが正しく設定されていないことを表していますので、アドミニストレーターユーティリティの「Service Configuration」タブで正しい内容に設定してください。(p.67 参照)
Days	KL9108/KL9116 のイベントをログサーバに保管する日数を表します。(p.136「Configure」参照)
Description	ログサーバ登録時に設定された KL9108/KL9116 に関する追加情報です。(p.136「Configure」参照)

イベントパネル

このパネルには、リストパネルで選択された KL9108/KL9116 のイベントログが表示されます。リストパネルで選択されていない項目のログはイベントリストパネルには表示されませんが、リストパネルでチェックが入っていれば、そのユニットのログはログサーバのデータベースに登録されます。

第 10 章

ユーティリティソフトウェア

はじめに

ブラウザベースの各種ユーティリティのほかに、KL9108/KL9116 ではブラウザを利用しない環境でもお使いいただけるよう、Windows クライアント、Java クライアントといった GUI ベースのクライアントアプリケーションを提供しております。

これらのプログラムは、一度 Web ブラウザからダウンロードしていただければ、何度でも繰り返してお使いいただけますので、管理者はこの機能によって KL9108/KL9116 への Web ブラウザ経由でのアクセスを制限することが可能です。(p.77 の「Working Mode」参照)

Windows クライアント

セットアップ

Windows クライアントをお使いのコンピュータにインストールする場合は、以下の手順で作業してください。

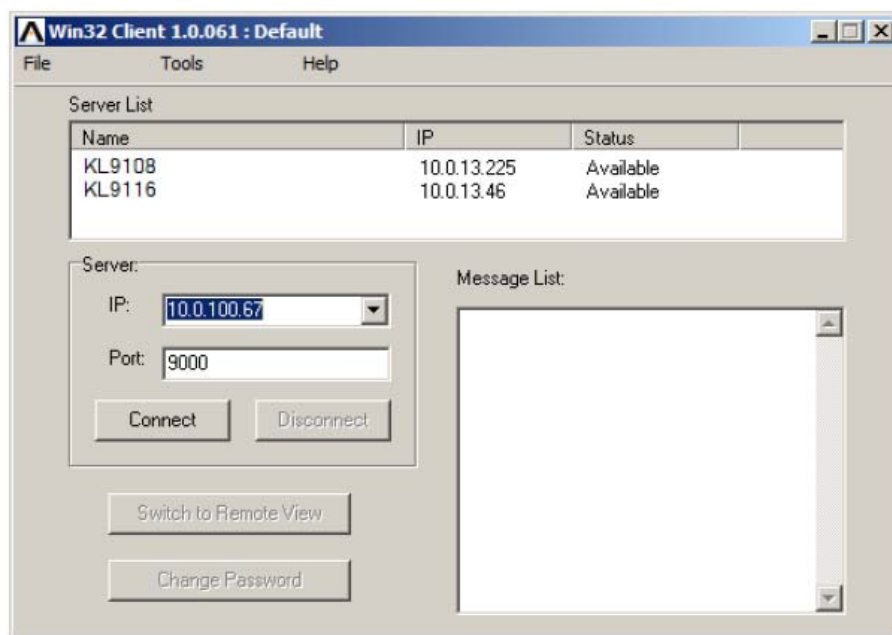
1. Web ブラウザで KL9108/KL9116 にログインし、Web 画面左側にある「Windows Client」アイコンをクリックしてください。、以下のようなダイアログが表示されます。



2. 「Save」ボタンをクリックすると、「名前をつけて保存」ダイアログが表示されますので、ファイルをコンピュータの適切な場所に保存してください。

起動方法

KL9108/KL9116 に Windows クライアントを使ってアクセスする場合は、Windows クライアントをダウンロード・保存したフォルダに移動して、「WinClient.exe」のアイコンをダブルクリックしてください。Windows クライアントが起動すると、以下のようなダイアログが表示されます。



注意: Windowsクライアントの動作環境にはDirectX 7.0以降がインストールされている必要があります。インストールされていないとクライアントソフトウェアが起動しませんので、ご注意ください。

接続画面における各項目の詳細は以下の表のとおりです。

項目	説明
メニューバー	<p>メニューバーは「File」、「Tools」、「Help」の3つの項目から構成されています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「File」メニューでは、作業用ファイルの作成・保存・読み込みを行うことができます。(詳細については p.146 参照) 「Tools」メニューには「Keyboard」と「Config」のサブメニューがあります。(詳細については p.146 参照)
Server List	<p>Windows クライアントが起動するたびに、ローカル LAN セグメントにある KL9108/KL9116 を検出し、このリストに一覧表示します。特定のユニットに接続する場合は、その項目をリストから選択し、ダブルクリックしてください。</p>
Server	<p>KL9108/KL9116 にリモート接続する際に、接続対象となる KL9108/KL9116 の IP アドレスをリストボックスから選択するか、もしくは直接リストに IP アドレスを入力します。また、使用ポート番号を該当フィールドに入力してください。ポート番号がご不明な場合は、KL9108/KL9116 の管理者までお問い合わせください。</p> <p>IP アドレスとポート番号が確定したら、「Connect」ボタンを押して接続します。作業を終了する場合は「Disconnect」を押してコネクションを切断してください。</p>
Message List	<p>KL9108/KL9116 との接続に関するステータスメッセージを一覧表示します。</p>
Switch to Remote View	<p>KL9108/KL9116 との接続が確立すると、このボタンが有効になります。KL9108/KL9116 に接続されたリモートコンソール画面に切り替える場合は、このボタンをクリックしてください。</p> <p>リモートコンソール画面に切り替わると、お使いのモニタにリモートコンソールのデスクトップが表示され、キーボード・マウスからの入力は KL9108/KL9116 に送られ、ローカル接続されたコンピュータで実行されます。</p> <p>KL9108/KL9116 を KVM スイッチと併用している場合は、実際に手元で操作しているかのようにコンピュータの切替を行うことができます。</p>
Change Password	<p>KL9108/KL9116 との接続が確立すると、このボタンが有効になります。このボタンを使うと、KL9108/KL9116 にログインする際のパスワードを変更することが可能です。</p>

File メニュー

File メニューでは、作業用ファイルの作成・保存・読み込みを行うことができます。KL9108/KL9116 の作業用ファイルには、ローカル LAN セグメントにある KL9108/KL9116 に関する情報、ホットキーの設定といった、KL9108/KL9116 との接続および製品に関する設定情報が書き込まれています。

クライアントプログラムを起動すると、前回の作業終了時に生成された作業用ファイルの設定を読み込みます。

メニューの各項目に関する詳細は以下の表のとおりです。

項目	説明
New	設定値を新規ファイルに保存します。この機能によって、接続を一旦終了した後も保存した値を再び読み込んでお使いいただくことができます。
Open	過去に保存した作業用ファイルを読み込みます。
Save	設定値を現在開いているファイルに上書き保存します。

Tools メニュー

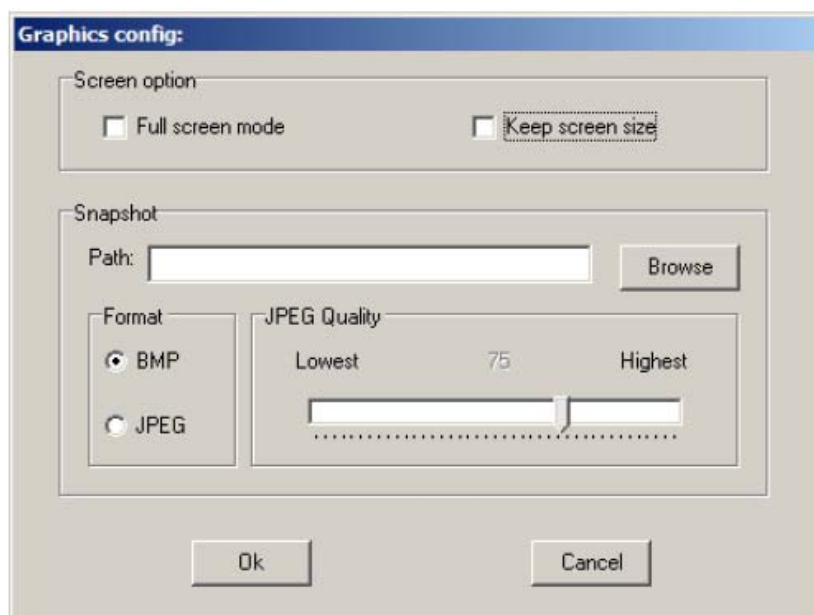
Tools メニューの操作は、KL9108/KL9116 への接続後、かつリモートコンソールへの切替前にご利用いただけます。「Tools」メニューには「Keyboard」と「Config」の 2 つのサブメニューがあります。これらの詳細については後述しますので、そちらをご参照ください。

Keyboard

キーボード・ビデオ・マウスに関する設定操作はホットキーの組み合わせによって実現することができます。ホットキーセットアップユーティリティはこの「Tools」メニューの「Keyboard」サブメニューから実行します。「Keyboard」サブメニューを起動すると、ホットキーセットアップ画面が表示されます。このダイアログは、基本的に Web ブラウザベースの Windows クライアントのホットキーセットアップ画面と同じです。詳細に関しては p.97 の「ホットキー」をご覧ください。

Config

「Config」サブメニューを起動すると、以下のようなダイアログが表示されます。



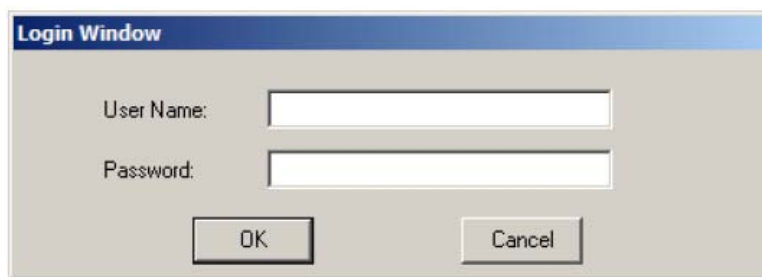
画面設定を行う Graphic Config ダイアログボックスは Screen Option と Snapshot の 2 つの項目に分かれています。

これらの設定は P.** の Graphic Configuration ダイアログボックスと同様ですので、操作方法はそちらをご参照ください。

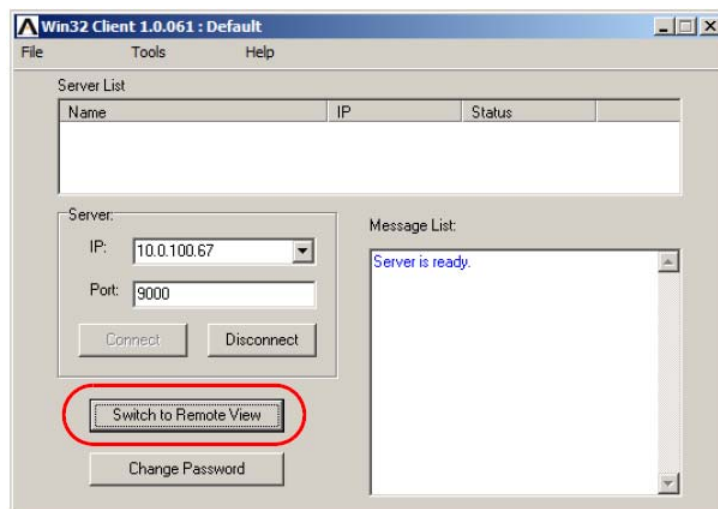
接続方法

KL9108/KL9116 ユニットに接続する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 接続したい KL9108/KL9116 が「Server List」にすでに表示されている場合は、その項目をリストから選択し、**ダブルクリック**してください。また、KL9108/KL9116 の IP アドレスとポート番号を入力して指定する場合は、「Server」の項目にある「IP」のフィールドに KL9108/KL9116 の IP アドレスを、また「Port」のフィールドに通信で使用するポート番号をそれぞれ入力し、「**Connect**」ボタンを押します。この操作を行うと、以下のようなログインダイアログボックスが表示されます。



2. 適切なユーザーネームとパスワードを入力し、「**OK**」ボタンを押してください。
「OK」ボタンを押すと、プログラムは KL9108/KL9116 との接続処理を開始します。処理内容に関するステータスメッセージは、「Message List」で確認することが可能です。
3. KL9108/KL9116 との接続が確立すると、「Switch to Remote View」ボタンが有効になります。このボタンをクリックすると、KL9108/KL9116 経由でリモートコンソールの画面に切り替えることができます。



操作方法

KL9108/KL9116との接続が確立されると、ローカルシステムのビデオ出力の内容がお使いのモニターに表示されると同時に、リモートでのキーボード・マウスの入力もローカルシステムに送られます。

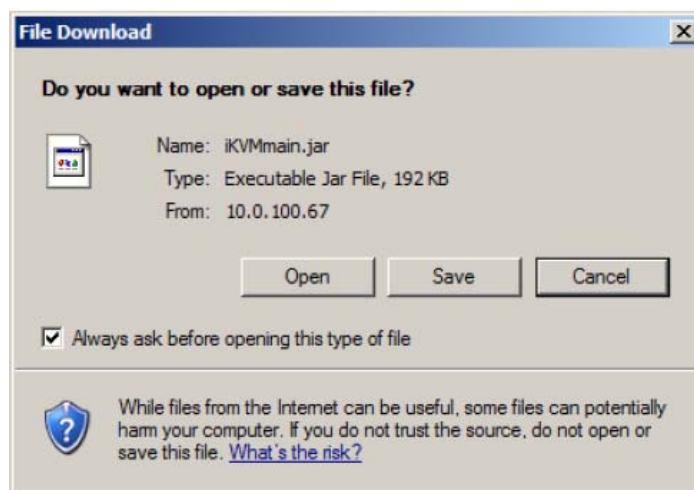
アプリケーション版 Windows クライアントの外観および操作方法は Web ブラウザ版の Windows クライアントと同様ですので、詳細に関しては第 5 章をご参照ください。

Java クライアント

セットアップ

Java クライアントをお使いのコンピュータにインストールする場合は、以下の手順で作業してください。

1. Web ブラウザで KL9108/KL9116 にログインし、Web 画面左側にある「Java Client」アイコン(矢印がついているもの)をクリックしてください。アイコンをクリックすると、以下のようなダイアログが表示されます。



2. 「Save」ボタンをクリックすると、「名前をつけて保存」ダイアログが表示されますので、ファイルをコンピュータの適当な場所に保存してください。

起動方法

KL9108/KL9116 に Java クライアントを使ってアクセスする場合は、以下の手順で操作してください。

1. コマンドプロンプトを開き、Java クライアントファイル (KL9108main.jar または KL9116main.jar) をインストール・保存したフォルダに移動します。
2. コマンドラインから以下のコマンドを実行します。

```
java - jar KL9108main.jar
```

または

```
java - jar KL9116main.jar
```

注意: Java クライアントソフトウェアの動作環境には 1.4.2 以降のバージョンの Java がインストールされている必要があります。それ以前のバージョンの Java は動作の保証外ですので、ご注意ください。

Java クライアントを起動すると、以下のような「Address Input」ダイアログが表示されます。



3. 接続したい KL9108/KL9116 の IP アドレスを入力し、IP アドレスの後ろにスラッシュを入力した後で KL9108/KL9116 の Java クライアント Web ページの名前を入力してください。

注意: Java クライアント Web ページの名前は、セキュリティのために必ず IP アドレスの後ろに付け加えてください。この Web ページの文字列は、不正アクセス防止のために KL9108/KL9116 の管理者によって予告なしに変更される場合があります。Java クライアントで接続する際には、この Web ページが正しいものであることを確認してください。

KL9108/KL9116 との接続が確立すると、以下のような Login ダイアログが表示されます。



4. 正しいユーザーネームとパスワードを入力し、「OK」ボタンを押してください。
KL9108/KL9116 への認証処理が完了すると、リモートシステムのデスクトップがお使いのモニタに表示されます。

操作方法

アプリケーション版 Java クライアントの外観および操作方法是 Web ブラウザ版の Java クライアントと同様ですので、詳細に関しては第 7 章をご参照ください。

付録

製品仕様

機能		KL9108	KL9116
コンピュータ接続数		8	16
コンソール 接続数	ローカル	1	
	リモート	1	
コンピュータ側 対応インター フェース	キーボード	PS/2	
	マウス		
セカンドコンソ ール側 対応インター フェース	キーボード	PS/2	
	マウス		
ポート選択方法		OSD、ホットキー、プッシュボタン	
コンピュータ側 コネクタ	キーボード	SPHD(イエロー)メス×8	SPHD(イエロー)メス×16
	マウス		
	モニタ		
セカンド コンソール側 コネクタ	キーボード	ミニ DIN6 ピンメス×1	
	マウス	ミニ DIN6 ピンメス×1	
	モニタ	D-sub15 ピンメス×1	
スイッチ	ポート選択 (ポートアップ/ダウン)	プッシュボタン×2	
	リセット	ピンホール型スイッチ×1	
	電源	ロッカースイッチ×1	
LAN ポート		RJ-45×1	
PON(RS-232)ポート		DB-9 ピンオス×1	
電源ソケット		3 極 AC 電源ソケット×1	

機能		KL9108	KL9116
LED	オンライン	グリーン×8	グリーン×16
	ポート選択	オレンジ×8	オレンジ×16
	リンク	グリーン×1	
	10/100Mbps	オレンジ/グリーン×1	
	電源	ブルー×1	
電源仕様		AC100V～240V 50～60Hz	
消費電力		31W	
キーボード・マウスエミュレーション		PS/2	
スキャンインターバル		1～255 秒(ユーザー設定)/10 秒(デフォルト)	
VGA 解像度		1,600×1,200@60Hz; DDC2B 準拠	
動作環境	動作温度	0～40℃	
	保管温度	-20℃～60℃	
	湿度	0～80%RH 結露なきこと	
ケース材料		メタル	
重量		17.1kg	17.3kg
サイズ(W×D×H)		482×705×44mm	
同梱品		2L-5702P(1.8m)ケーブル×2 電源ケーブル×1 ラックマウントキット×1 クイックスタートガイド×1 ユーザーマニュアル×1	

機能	KL9108	KL9116
対応 KVM ケーブル		《PS/2KVM ケーブル》 2L-5201P(1.2m) 2L-5202P(1.8m) 2L-5702P(1.8m) 2L-5203P(3m) 2L-5206P(6m) 2L-5210P(10m) 《USBKVM ケーブル》 2L-5202UP(1.8m) 2L-5203UP(3m) 2L-5206UP(6m) *注意:標準で PS/2 ケーブル 2L-5702P(1.8m)×2 が付属しています。
旧 SUN システム専用ケーブル (13W3+ミニ DIN8 ピン)		CV-130A(1.8m)
新 SUN システム専用ケーブル (D-SUB15 ピン+USB)		CV-131A(1.8m)
MAC 用ケーブル		《PS/2KVM ケーブル》+UC-100KMA
PS/2 エミュレーター		《PS/2KVM ケーブル》+CV-100KM

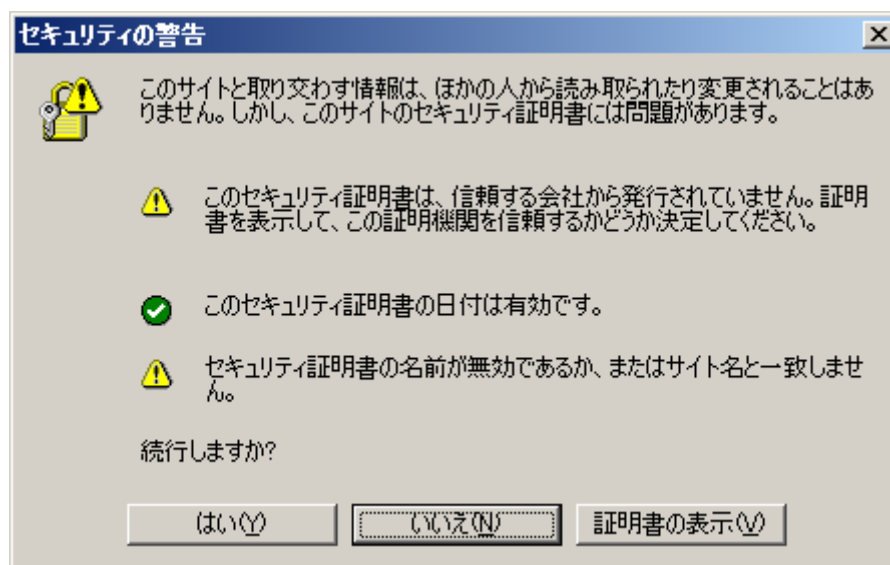
OSD 工場出荷時設定

設定項目	デフォルト設定
OSDホットキー	[Scroll Lock] 2 度押し
ポートID表示	ポート番号+ポートネーム
ポートID表示時間	5 秒間
スキャン/スキップモード	All
スキャン間隔	10 秒間
スクリーンブランカー	0 分(無効)
ビープ音設定	オン
ポートアクセス権	全てのユーザーがフルアクセス(アクセス制限なし)

信頼された証明書

概要

Web ブラウザ経由で KL9108/KL9116 にログインすると、以下のようなセキュリティ警告ダイアログが表示され、デバイスの証明書が信頼できるものではないため、操作を続行するかどうかを問うメッセージが表示されます。



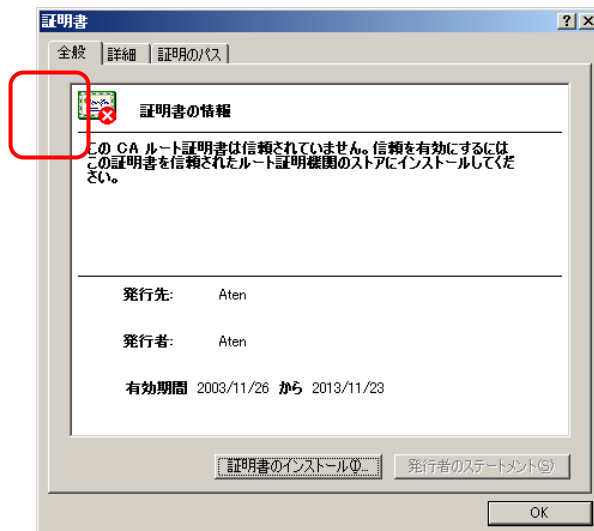
この証明書は信頼できるものですが、証明書の名前が Microsoft の信頼された認証局のリストに存在しないため、このようなダイアログが表示されます。このダイアログには以下のいずれかの方法で対応してください。

- 1) ダイアログの警告を受け入れず、「Yes」ボタンを押して、処理を続行する。
 - 2) 証明書をインストールし、信頼できるものと認識させる。
- ◆ 別のユーザーのコンピュータから作業している場合は「Yes」ボタンを押して、この証明書を現在のセッションのみ受け入れてください。
 - ◆ ご自身のコンピュータから作業している場合は、証明書をお使いのコンピュータにインストールしてください。証明書がインストールされると、信頼できる証明書として認識されます。方法の詳細については後述しますので、そちらをご参照ください。

証明書のインストール

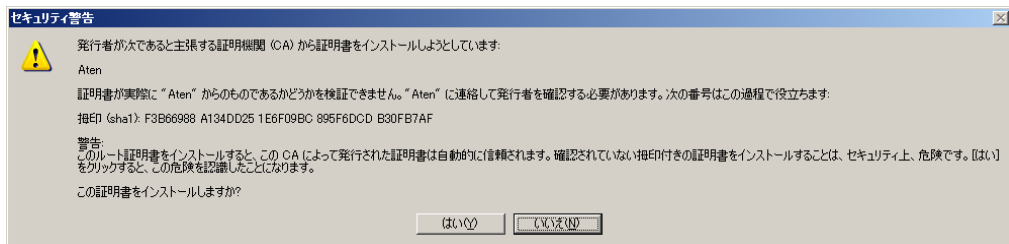
証明書のインストールは以下の手順で作業してください。

1. 「セキュリティの警告」ダイアログボックスで、「**証明書の表示**」ボタンをクリックします。これをクリックすると以下のような「証明書」ダイアログボックスが表示されます。



注意: 上図内の赤い枠で囲まれている「×」の印は、この証明書は信頼できないと認識されていることを表しています。

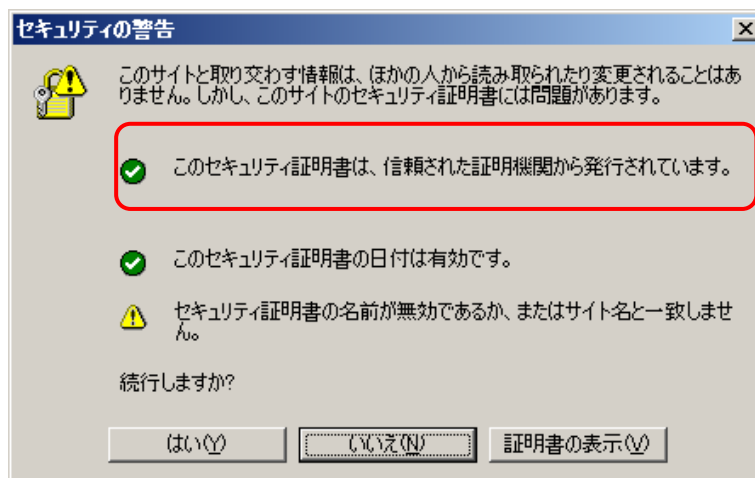
2. 「**証明書のインストール**」ボタンをクリックします。
3. インストールウィザードの指示に従って、インストールを進めていきます。特に不都合がない場合は、デフォルト値でインストールをしてください。
4. 以下のような警告ダイアログが表示されたら、「はい」ボタンを押してください。



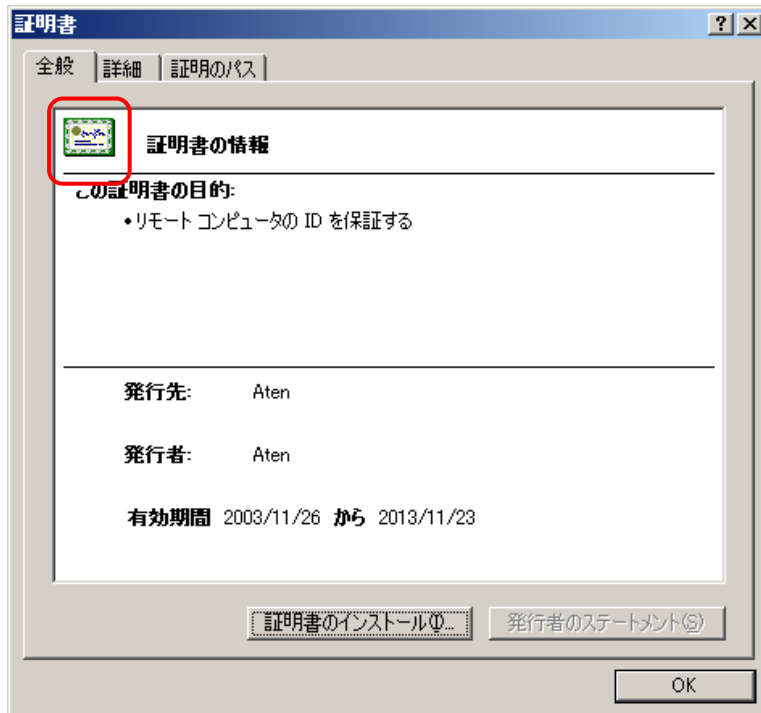
5. ダイアログから「完了」ボタンを押してインストール作業を完了させてください。「OK」ボタンを押すとダイアログが閉じられます。

証明書のインストール完了

この作業により、証明書は信頼できるものに変更されました。



「証明書の表示」ボタンをクリックすると、インストール前に見られた「×」の印が消え、証明書が信頼できるものであるというメッセージが表示されます。



トラブルシューティング

管理操作

現象	対処法
ファームウェアをアップグレードしたにもかかわらず、アップグレードする前のバージョンがKL9108/KL9116上に表示される。	お使いのインターネットブラウザが新しい KL9108/KL9116 のページに更新されず、キャッシュされた内容を表示している可能性があります。お使いの Web ブラウザによって以前表示したページがキャッシュされている可能性があります。ブラウザのインターネット一時ファイルを削除して、ブラウザを再起動してください。
設定変更を行ってReset on Exitを実行しても、変更が反映されない。	Internet Explorer をお使いの場合は、Ver.6.0.2800.1106 以上にアップグレードしてください。

一般的な操作

現象	対処法
KL9108/KL9116の動作が不安定である。	すべてのコンピュータの電源をオフにしたあと、KL9108/KL9116 を再起動してください。
不適切なリセット操作により、マウスまたはキーボードの入力に対して反応しなくなった。	コンソールポートからキーボード・マウスのケーブルを一旦抜いて挿しなおしてください。
リモートアクセスが突然中断された。	KL9108/KL9116 との接続を終了し、30 秒ほど待機した後で再ログインしてください。
マウスポインタの表示で混乱する。	ローカルとリモートの 2 つのマウスポインタが表示されて操作の上で分かりにくい場合は、「Toggle Mouse Display」機能を使用して非アクティブなマウスポインタを最小化することができます。詳細については p.98 をご参照ください。

現象	対処法
リフレッシュレートが 56Hz に設定されているコンピュータにアクセスしたときに、OSD 表示が動かなくなる。	OSD を表示するときに、[F6]を押して背景デスクトップを消してください。
ローカルコンソールで操作中、接続されているコンピュータを、SXGA(1280×1024)を超える表示解像度で設定してしまい、画面が見えなくなりました。	セカンドコンソールに設定した解像度を表示可能なディスプレイを接続し、設定しなおしてください。
リモートアクセスで使用しているコンピュータの解像度が、リモートのデスクトップ画面より小さくて、画面上にすべてのデスクトップ領域が表示されない。	マウスカーソルをリモート画面の端に移動させると、隠れている領域を表示させることができます。

Java クライアント

マウス同期の問題に関しては、p.115 の「マウス同期に関する注意事項」をご参照ください。また、接続・操作に関する問題は以下の表をご参照ください。

現象	対処法
Java クライアントが KL9108/KL9116 に接続できない。	<ol style="list-style-type: none"> Java 2 JRE1.4 以上がお使いのコンピュータにインストールされている必要があります。 KL9108/KL9116 の IP アドレスを指定する際、ブラウザの URL が「Default Java program name」を含めて正しく入力されているか確認してください。(p.74 参照) Java クライアントを一度終了させて、もう一度実行してみてください。
[Windows]キーを押しても何も反応しない。	Java では[Windows]キーに対応しておりません。ご了承ください。
英語以外の言語の文字が表示されない。	英語以外の文字を入力する際に、ローカルキーボードのレイアウトが英語以外に設定されている場合は、リモートコンピュータのキーボードレイアウトを英語に設定する必要があります。

ログサーバ

症状	解決方法
ログサーバプログラムが実行できない	<p>ログサーバプログラムはデータベースにアクセスするために Microsoft Jet OLEDB 4.0 ドライバが必要です。</p> <p>このドライバは Windows ME、2000、XP には標準で搭載されていますが、Windows 98 や NT をご使用になっている場合は、Microsoft 社のサイトからダウンロードしてインストールする必要があります。</p> <p>http://www.microsoft.com/data/download.htm</p> <p>ダウンロードページで以下のファイルを検索し、入手します。</p> <p>MDAC 2.7 RTM Refresh (2.70.9001.0)</p> <p>このドライバは Windows Office Suite でも使用されているので、Windows Office Suite をインストールしてもログサーバプログラムが実行可能になります。</p>

パネルアレイモード

現象	対処法
パネルアレイモードが低解像度で表示される。	画面に表示されるパネル数を増やしてください。
複数のリモートユーザーが同時ログインした場合、一部のユーザーのモニターは画面の一部しか表示されない。	最初にパネルアレイモードを起動したユーザーは、画面表示の設定を 4 分割に変更してください。

Windows クライアント

症状	解決方法
Windows クライアントを使用して KL9108/KL9116 に接続できない。	お使いのコンピュータには DirectX 7.0 以上がインストールされている必要があります。
リモートとローカルのマウスポインタが同期していない。	<ol style="list-style-type: none">1. 「Auto-Sync」機能 (p.100 参照) を使用し、ローカルとリモートのモニタを同期させます。2. 上記の方法で解決しない場合、マウス同期機能を使用します。詳細は p.115 をご参照ください。3. 上記のいずれの方法でも解決できない場合は p.98 の「Toggle Mouse Display」機能を使用してください。
リモートモニタでローカルディスプレイの一部分しか表示されない。	「Keep Screen Size」(p.91 参照) が無効になっている場合は、「Auto-Sync」機能 (p.100 参照) を使って、ローカルとリモートのモニタを同期させることができます。 「Keep Screen Size」が有効になっている場合は、p.91 の「Keep Screen Size」の項目をご参照ください。
ローカルディスプレイの表示が 90 度回転して表示されている。	「Keep Screen Size」を有効にしてください。詳細は p.91 の「Keep Screen Size」の項目をご参照ください。
Windows クライアントが実行されているとき、Net Meeting が使用できない。	「Keep Screen Size」を有効にしてください。詳細は p.91 の「Keep Screen Size」の項目をご参照ください。

Sun システム

症状	解決方法
HDB インターフェースでのビデオディスプレイに関する問題がある。 (Sun Blade 1000 サーバ)	VGA 解像度を 1,024×768 に設定する必要があります コマンドモードの環境では以下の操作を行ってください。 1. OK Mode で以下のコマンドを実行してください。 <code>setenv output-device screen:r1024x768x60</code> <code>reset-all</code> Xwindow の環境では以下の操作を行ってください。 1. コンソールを開いて以下のコマンドを実行してください。 <code>m64config -res 1024x768x60</code> 2. ログアウトします。 3. ログインします
13W3 インターフェースでのビデオディスプレイに関する問題がある。 (Sun Ultra サーバ)	VGA 解像度を 1,024 × 768 に設定する必要があります コマンドモードの環境では以下の操作を行ってください。 1. OK Mode で以下のコマンドを実行してください。 <code>setenv output-device screen:r1024x768x60</code> <code>reset-all</code> XWindow モードの環境では以下の操作を行ってください。 1. コンソールを開いて以下のコマンドを実行してください。 <code>ffbconfig -res 1024x768x60</code> 2. ログアウトします。 3. ログインします

注意: これらは最も一般的な Sun の VGA カードを使用した場合を想定した解決方法です。上記の方法でも問題が解決しなかった場合は、Sun VGA カードのマニュアルをご確認ください。

その他のマウス同期方法

マウスポインタの同期に関しては、p.115 を参考にして設定を行ってください。

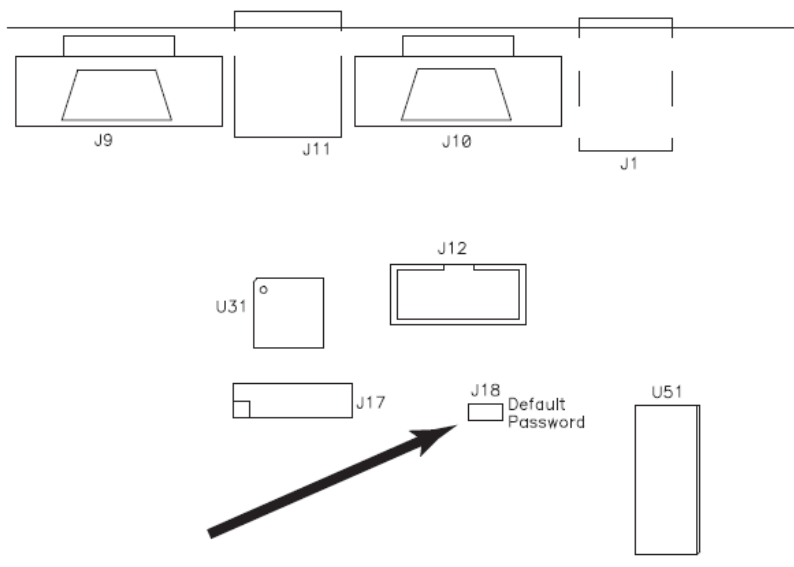
アドミニストレーターでログインできない場合

パスワードを忘れた等の理由でアドミニストレーター権限でのログインができなくなった場合、下記の手順ですべてのログイン情報を消去することができます。

注意: この作業を行うと、すべての設定が工場出荷時のデフォルト値に戻りますので、それをご了承いただいた上で操作を行ってください。

ログイン情報を消去し、すべての設定内容を工場出荷時の状態に戻す場合は、以下の手順で作業を行ってください。

1. KL9108/KL9116 の電源をオフにし、ケースを取り外します。
2. ジャンパキャップを使って、メインボード上にある「J8」と書かれたジャンパスイッチをショートさせます。

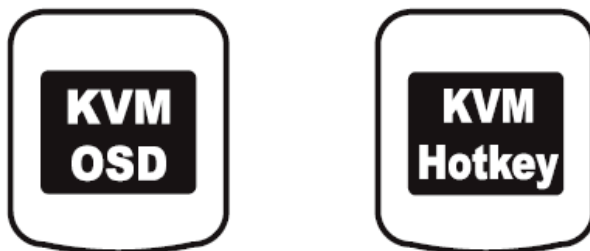


3. KL9108/KL9116 に電源を入れます。
4. 数秒経過したあとフロントパネルの LED が点滅しているときに、スイッチの電源を切ってください。
5. **J18** ジャンプスイッチのキャップをはずしてください。
6. ケースを元通りにして、KL9108/KL9116 を起動します。

KL9108/KL9116 起動後、デフォルトのユーザーネームとパスワード (p.49 参照) でログインできるようになります。

ホットキーモード・OSD 専用起動キー

ホットキーモードと OSD がそれぞれ簡単に起動できるように、以下のような2つの専用キーがキーボードパネル側に設けてありますので、ご利用ください。



注意: これらの専用キーはトグルボタンですので、1回目に押すと、各メニューを起動し、2回目に押すとその機能を終了します。

SPHD コネクタについて



本製品は KVM ポート、またはコンソールポートに対して SPHD コネクタを使用しております。コネクタの形状に改良を加えておりますので、専用の KVM ケーブルのみ製品に接続することが可能です。